

静岡県立美術館

第三者評価委員会評価報告書

平成 24 年 11 月

静岡県立美術館第三者評価委員会

## 目次

---

はじめに .....	1
------------	---

### 【報告編】

I 平成 24 年度 静岡県立美術館第三者評価委員会の報告 .....	5
1 平成 23 年度「静岡県立美術館自己評価結果表」（一次評価）に対する二次評価	
(1) 総括的評価に対する二次評価 .....	6
(2) 平成 23 年度の達成目標等に対する二次評価 .....	7
2 「県庁の支援体制」に対する一次評価 .....	9
3 改善に向けた提言 .....	10

### 【資料編】

II—1 平成 23 年度「静岡県立美術館自己評価報告書」（一次評価） .....	11
第 1 章 総括的評価 .....	15
第 2 章 達成目標等に対する評価 .....	17
第 3 章 今後の取組 .....	31
参考資料 1 展覧会に関する自己点検評価報告書 .....	38
参考資料 2 平成 23 年度 調査・研究に関する自己点検評価報告書 .....	44
II—2 平成 23 年度 静岡県立美術館評価業務 報告書 .....	58
III 県庁の支援体制 .....	119
1 平成 23 年度実績 .....	120
2 平成 24 年度方針 .....	122

## はじめに

---

本委員会は、評価を通じて静岡県立美術館の自律的かつ継続的な運営改善を推進することを目的として、平成 18 年 9 月に発足しました。

本委員会の使命は三つあります。第一は、県立美術館が自ら行う自己評価（一次評価）に対して、外部の視点から二次評価することです。第二には、美術館に対する県庁（本庁）の支援体制を委員会が独自の視点に立って評価することです。第三は、美術館の運営及び評価の方法について、次年度の改善に向けた提言をすることです。

本年度の本委員会の活動としては、平成 24 年 8 月に会合を開き、平成 23 年度の美術館自己評価に対する二次評価、県庁の支援体制に対する一次評価、今後の改善課題について討議しました。この報告書はその結果に基づき作成したものです。

本報告書では、今年度より最初に本委員会の報告をⅠとして掲載し、評価のための資料となる美術館が自ら行った自己評価（一次評価）をⅡ－1、自己評価の参考資料となる評価業務報告書をⅡ－2に、最後に県庁の支援体制に関して、県庁から提出された資料をⅢに掲載しました。

本報告書が県庁と県立美術館のますますの発展と充実に資することを期待します。

平成 24 年 11 月

静岡県立美術館第三者評価委員会

委員長 木下 直之

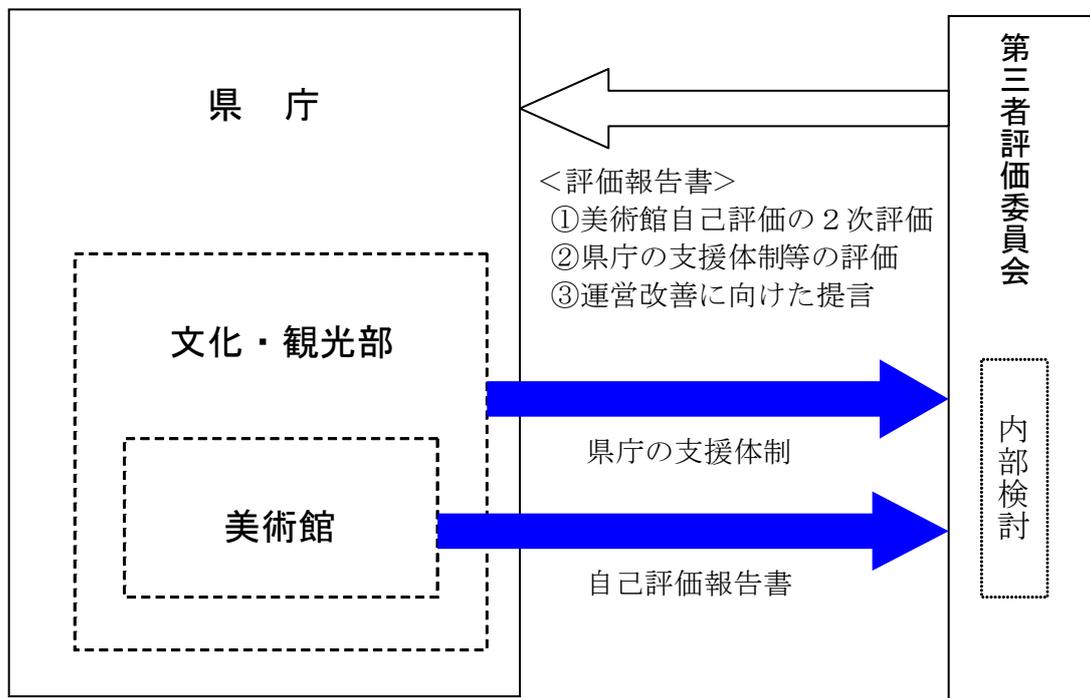
静岡県立美術館第三者評価委員会委員名簿（敬称略、五十音順）

	候補者	役 職
委員長	きのした なおゆき 木下 直之	東京大学大学院教授
委員	きんばら ひろゆき 金原 宏行	常葉美術館館長、豊橋市美術博物館館長
〃	さ さ き ひでひこ 佐々木秀彦	東京都美術館交流係長
〃	にし まさひろ 西 雅寛	協立電機株式会社代表取締役社長
〃	むらい よしこ 村井 良子	有限会社プランニング・ラボ代表
〃	むらた まさひろ 村田 眞宏	愛知県美術館館長
〃	やまぐち ゆ み 山口 裕美	山口裕美コンテンツ・ラー・アートラボ代表

平成 24 年度の活動

会議名等	内容等
第 1 回第三者評価委員会	日時：平成 24 年 8 月 9 日（木）13:15～15:45 会場：静岡県立美術館 講座室 内容：（1）平成 23 年度美術館自己評価結果および平成 24 年度の取組方針について （2）県庁の支援体制について

評価システム全体図（第三者評価委員会の位置付け）



## 静岡県立美術館第三者評価委員会設置要綱

(設置)

**第1条** 静岡県立美術館（以下「美術館」という。）では、より良いサービスの提供を図るため、事業の運営等の効果について、多面的かつ客観的な測定・評価を行う自己評価活動を実施しているが、美術館の自律的かつ継続的な運営改善を推進するため、美術館の自己評価及び県庁の支援体制等を第三者の視点から評価する「静岡県立美術館第三者評価委員会」（以下「委員会」という。）を設置する。

(所掌事務)

**第2条** 委員会は、次に掲げる事項を所管する。

- (1) 美術館の自己評価に対する2次評価
- (2) 県庁の支援体制等に関する評価
- (3) 評価結果の報告及びそれに基づく美術館の運営改善に向けた提言
- (4) その他、この委員会の目的達成に関すること

(委員)

**第3条** 委員は、知事が委嘱する。

- 2 委員の人数は、10名以内とする。
- 3 委員の任期は2年とする。ただし、再任は妨げない。

(委員長)

**第4条** 委員会に、委員長1人を置く。

- 2 委員長は、知事が指名する。
- 3 委員長は、会務を総理し、会議の議長となる。

(会議)

**第5条** 委員会は、委員長が招集する。

- 2 委員会は公開とし、その傍聴に関して必要な事項は、別に定める。
- 3 委員会は、必要に応じて個別課題検討のための分科会を置くことができる。
- 4 委員会及び分科会には、委員以外の者に出席を求めることができる。

(事務局)

**第6条** 委員会の事務を処理するため、事務局を静岡県県民部文化政策室内に置く。

(その他)

**第7条** この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に必要な事項は、委員長が別に定める。

### 附 則

- 1 この要綱は、平成18年9月21日から施行する。
- 2 この要綱の施行の日に委嘱する委員の任期は、第3条第3項の規定にかかわらず、平成20年3月31日までとする。

# 【報告編】

## I

### 平成 24 年度 静岡県立美術館第三者評価委員会の報告

---

- 1 平成 23 年度「静岡県立美術館自己評価結果表」（一次評価）  
に対する二次評価
  - (1) 総括的評価に対する二次評価
  - (2) 平成 23 年度の達成目標等に対する二次評価
- 2 「県庁の支援体制」に対する一次評価
- 3 改善に向けた提言

# 1 平成 23 年度「静岡県立美術館自己評価報告書」(一次評価)に対する二次評価

## (1) 総括的評価に対する二次評価

平成 23 年度、当美術館が重点に取り組んだ取組方針とその成果について二次評価を行った。

### ①他館との連携強化における企画展の充実

・ブリヂストン美術館、京都国立博物館、森美術館などと連携し、質の高い作品展示を実現し、さらに、工芸品やインスタレーションなど幅広いジャンルの作品を広く紹介できた成果は大いに評価したい。

### ②収蔵品展の充実

・2500 点を越える収蔵品で構成した企画展「百花繚乱」は見応えがあり、かつ自由な展示構成が新鮮さを与え、評価できる展覧会であった。これまでの体系的な収集活動の賜物であり、当美術館の価値を発信できた企画展だった。

・常設展示の第 7 室を活用し、学芸員の日頃の研究成果を公表できる収蔵品展を開催したことも評価に値する。

・質の高い展示活動ではあるが、入館者数が伸びなかったことは残念であり、今後は、収蔵品展を展示以外の手段や表現媒体を使って、県民が広く利活用できる工夫も検討すべきである。

### ③より積極的な広報の工夫とロダン館の観光ルート化に向けた取組

#### ■広報について

・広報委員会を立ち上げたことは評価できるが、館からの広報だけに頼るのではなく、SNS (フェイスブック、ツイッターなど) を使用する来館者こそ強い伝達力を持っている可能性があり、これからの情報発信は、それらを活用していく必要がある。

・「美術館に誰がどのような事情で誰と来るのか」といった実態をつかんだ上での広報や、新しい顧客を開拓していくためのマーケティングが求められている。

・広報の方針は、副館長が替わるたびに直視され、方針が定まらない傾向が見られる。広報委員会は以前にも一度立ち上げたが、また振り出しに戻って検討がなされているのは好ましい体制とは言えない。美術館運営における広報の位置づけを見直し、広報の専任を配置するなど人的措置が必要である。

#### ■観光について

・県の施策として、静岡県立美術館の観光ルート化や空港活用の取組みが求められている。以前から観光や空港との連携について議論しており、一般的な成功例として「金沢 21 世紀美術館」が上げられるが、静岡県立美術館の立地条件とは違う。これまで観光ルート化に向けて検討しているが効果が見えない。

- ・団体旅行が衰退している中で、美術館の団体割引の条件が 20 名以上となっているのは、時代に合っていない。旅行業者に働きかけるときにもビジネスとして成立しない。条例改正や実験的に美術館料金特区など検討する必要がある。
- ・どこに照準を置いて観光客を呼ぶのかという戦略が必要である。
- ・ロダン館における新規事業や広報が行われているが、ロダン館の入館者数が約 6 万 3000 人と企画展来館者の半数となっているのが問題である。さらに、地域での連携事業の他、ロダン館での新たな試み（現代のアーティストとロダン作品のコラボレーション等）を検討する必要がある。
- ・平成 25 年度に予定されている富士山の世界文化遺産登録を機に、国内外の観光客を呼び込むため、富士山をテーマとした展覧会を企画すべきである。

#### ④その他の取組

- ・気軽に体験できる「ちょこっと体験」や「鑑賞系」の教育普及プログラムを新規で実施するなど、利用者の裾野を広げる努力は評価できる。
- ・利用者が心地よく過ごせる、利用できるよう、細かな改善を行ったことも評価できる。

### (2) 平成 23 年度の達成目標等に対する二次評価

4 つの運営基本方針の達成状況について二次評価を行い、その評価結果と今後の留意点についてとりまとめた。

#### 運営基本方針 A: 人々の感性を豊かにし、生活に感動をもたらすような展覧会を開催します

- ・定性的評価をみると、それぞれの展覧会は質の高いものが多かったと思われる。観覧者は少なかったが、自主企画によって静岡県立美術館の良さが表現でき、静岡県の作家の掘り起しにも貢献できたと評価できる。
- ・定性的評価は、展覧会でどのようなことを訴えていくのかという目標に対して、達成度を評価すべきである。
- ・入館者数の目標値の妥当性の検証が必要である。予算上の理由で目標人数が設定されているとすれば、入場料収入が見込める展覧会を選択して開催することになりかねず、中長期的に美術館の「創造的で多様性に富んだ社会を実現していくために」や「新たな価値を見出す体験の場」という使命から乖離してしまうおそれがある。
- ・定量的評価の目標人数は、展覧会ごと設定すべきだが、企画内容によって当たり外れがあるので、3 年間で平均 20 万人といった幅を持った目標設定にするなど工夫してはどうか。
- ・展覧会において、「何がやりたいのか」「誰を呼びたいのか」が弱いので、展覧会の目的や対象とする層をきっちり特定して、集中的に広報すべきである。
- ・移動美術館が浜松で 4 日間しか行われていない。この結果を分析し、どのような開催方法が必要か検討し、自己評価に入れるべきである。

**運営基本方針 B: 地域や学校教育との連携を深め、質の高い芸術教育と普及活動を展開します**

- ・重点目標として「質の高い芸術教育と普及のプログラムを開発」が掲げられており、プログラムを実践するだけでなく開発しているかどうかも問われる。
- ・現代アートのように芸術家が生きていて本人が教育・普及プログラムに登場するというのは、大きな意味があり、とても良い取り組みである。
- ・富士山をテーマにした商標や社章がある会社とタイアップして、富士山の日本画展を開催したり、特別展を行ったりといった話題づくりをしたらどうか。
- ・「企業との連携について可能性を検討する」だけでなく、実践的に応援企業のサークルを作ったり、商工会議所に寄付をお願いしたりする活動をしたらどうか。
- ・海外の美術館では、小学生や中学生が授業の一環で来ている。底辺拡大のためにも、積極的に導入してほしい。

**運営基本方針 C: さらに積極的な広報を工夫し、美術館活動の情報発信に努めます**

- ・第三者評価委員会で何度も指摘していた中国語版と韓国語版のホームページをつくったことは、はっきり改善されており、評価できる。
- ・ホームページの個別ページアクセス数を調べ、効果を分析しないと意味が無い。アクセス数から利用者のホームページの使い方を分析し、項目の配列や順番など改善していった方がいい。
- ・「静岡県立美術館は、この地域にあって、こんな使命を持って、こんな活動をして、こういう地域貢献をしています。今後もこういうことをしていきます」という広報と、個々の展覧会のPRのための宣伝とは、目的も手段も違うため、分けて考える必要がある。
- ・美術館の情報発信の重要な柱の一つである図録の販売数を評価に加えるべきではないか。

**運営基本方針 D: 施設の改修を推進し、美術館のアメニティを高めていきます。**

- ・車で来る来館者が多いので、駐車スペースの拡充が必要である。

## 2 「県庁の支援体制」に対する一次評価

### 平成 23 年度の支援体制に対する評価

- ・美術館の個々の活動を県庁の立場で支援し協力体制をとっていることは評価に値する。
- ・しかし、それらの活動は「レベル3・ガバナンス」の領域での支援とは言えない。今後は、現場では解決できない条例改正や人事、予算に関するバックアップを県庁に求める。

### 今後の評価のあり方について

- ・評価の始まった当初の評価設計（平成 16 年度）に立ち返って、県庁の支援体制を検討し直すべきである。
- ・当初の評価設計では、「レベル1・オペレーション」と「レベル2・マネジメント」に関しては、美術館が自己評価（一次評価）し、その結果を第三者評価委員会が二次評価する。「レベル3・ガバナンス」と「レベル4・社会からの支援体制」に関しては、第三者評価委員会が一次評価するというしくみになっていたが、いつの間にか「県庁の支援体制」という自己評価の資料が示され、委員会は二次評価するという形式に入れ替わってしまった。

評価対象	評価者	
	1次評価	2次評価
レベル1 オペレーション	館自身 (ミュージアム・ナビ)	第三者評価委員会
レベル2 マネジメント		
レベル3 ガバナンス	第三者評価委員会	(なし)
レベル4 社会からの支援体制		

- ・第三者評価委員会には、法整備の必要性や組織・人事・予算等のガバナンスの課題をチェックし、県に進言する役目があったが、今は曖昧になってしまっているため、明確にする必要がある。
- ・「県庁の支援体制」として、3年ごとに県民意識調査を実施し、中長期的なアウトカムやインパクトについて、指標の中に入れて込んで測定ができるようにすべきである。

### 3 改善に向けた提言

#### 教育・普及プログラムについて

- ・「学校教育と連携した取組数」の実績が 530 回とあり、すでに十分やっていると思うが、効果をあげているかが問題である。職員の負担につながっていないか。誰を対象に何をすることが一番効果的なのかを検討し、人的措置やプログラムを体系化すべきである。
- ・これまで同様で行くのか、それとも別の方向性を軌道修正するのか、当美術館における「教育普及」の方向性を早急に定めるべきである。

#### 今後の美術館運営について

- ・「静岡県立美術館開館 30 周年とロダン館開館 20 周年」に向けて、どのような美術館像を構築していくのかを検討する必要がある。
- ・30 周年誌の作成などを通じ、過去の検証を行うことは、美術館の未来図を考えるときに不可欠である。
- ・中長期、特に 30 周年に向けて、今後のビジョンについて意見交換する場が必要である。

#### 評価システムについて

- ・今後は、中長期計画（目標とそれを達成させるための戦略計画）を作成し、その計画の目標管理システムとして「評価」を機能させるべき。この考え方は、平成 16 年度に評価設計した際の基本スタンスだったはず。評価のための評価になっていないか、形骸化してきていないか、根本的に見直しをする必要性を感じる。
- ・現在の「県庁の支援体制」に代わる「ガバナンス」の指標や評価方法を考えていくために、美術館や県の担当者によるワーキンググループをつくり検討する必要がある。

# 【資料編】

## Ⅱ－1

平成 23 年度

「静岡県立美術館自己評価報告書」（一次評価）

---

第 1 章 総括的評価

第 2 章 達成目標等に対する評価

第 3 章 今後の取組

参考資料 1

展覧会に関する自己点検評価表

参考資料 2

平成 23 年度調査・研究に関する自己点検評価報告書

## はじめに

静岡県立美術館では、美術館をとりまく環境が大きく変化する中で、時代の要請に適った公立美術館の実現を目指し、客観的な評価システムの構築とそれに基づく自律的な運営改善に取り組んできた。

平成13年度に職員によるワーキンググループを設置して評価指標に関する検討を開始し、平成15年7月には評価システムの構築に向けて、「静岡県立美術館評価委員会」（高階秀爾委員長）を設置し、本格的な検討を行った。

「静岡県立美術館評価委員会」による平成16年3月の中間報告書「ニューパブリックミュージアム（NPM）の実現をめざして」、平成17年4月の最終提言書「評価と経営の確立に向けて」の2つの提言を踏まえて、県立美術館では、戦略計画方式による自己評価システム（通称：ミュージアム・ナビ）を構築し、平成17年7月から運用を開始した。

また、平成18年9月には、美術館の自己評価に対する2次評価を行う「静岡県立美術館第三者評価委員会」を設置し、評価結果を運営改善につなげる評価の体制を整えた。これまでの自己評価報告書をはじめ、評価に関する資料はすべてホームページ等を通じて情報公開を行っている。

さらに、平成20年度には、3年間の取組を踏まえ、より適切な評価事業を進めるため、自己評価システムの見直しに取り組み、第三者評価委員会の意見も踏まえながら、平成20年度から平成22年度を計画期間とする新たな自己評価システムと、その目標等の設定を行った。

昨年度は、第三者評価委員会の意見も踏まえながら、平成23年度から25年度までの3カ年の自己評価システムの見直しに取り組み、評価指標等の見直しを行った。今年度は新たな評価指標に目標値を設定した上で、平成23年度の取組に関する自己評価結果及び平成24年度以降の取組について報告書にとりまとめた。

報告書は、まず第1章において、館長による全体的な自己評価結果を示した上で、第2章で、4つの運営基本方針それぞれについて、評価指標による達成目標等の実績に基づいて自己評価を行った結果を記載している。第3章では、これらの自己評価結果を踏まえた平成24年度以降の取組について記載している。

皆様には、静岡県立美術館のより一層の業務改善と適切な評価システムの構築に向けた御意見・御提案をいただければ幸いである。

# 静岡県立美術館 自己評価システムの全体像

(平成 23 年度～平成 25 年度)

## 【使 命】 =美術館のめざす姿

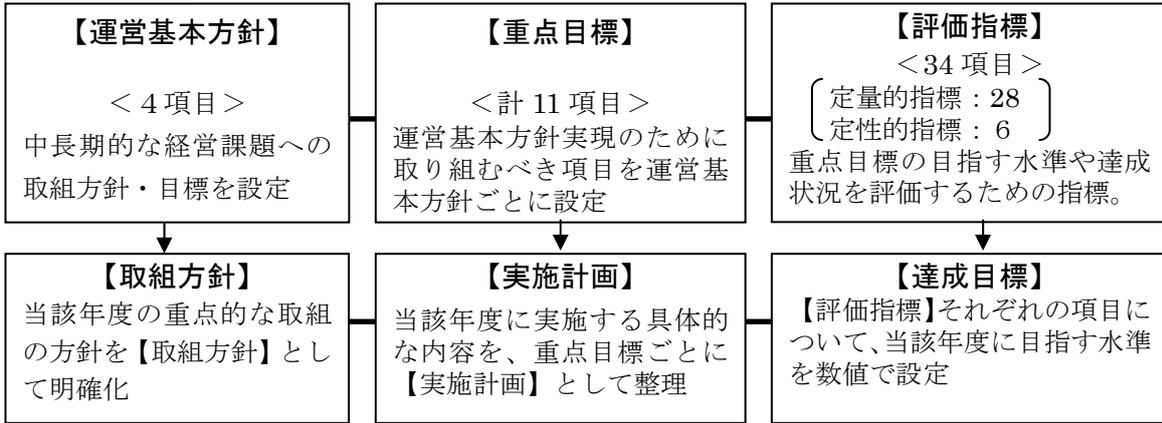
静岡県立美術館は、創造的で多様性に富んだ社会を実現していくために存在します。そのために、コレクションを基盤として人々が美術と出会い新たな価値を見出す体験の場をより多く提供するとともに、地域をパートナーと考える経営を行い、日本の新しい公立美術館となります

## <自己評価の流れ>

目標管理システム＝P計画→D実行→C評価→A改善のサイクルによる運用

### Plan (計画)

(システムの体系)



(当該年度)

**【総括的評価】**  
 当該年度の取組方針に対する評価 (館全体の総括的評価)

**【達成目標等に対する評価】**  
 当該年度に実施した内容について、達成目標等の実績を踏まえて評価 (重点目標ごとに評価・記載)

Do (実行)

Check (評価)

Action (改善)

## <推進体制>



## <協力体制>

- ・ 地域、企業、NPO、大学等との連携
- ・ 「ムセイオン静岡」による文化施設 6 機関連携
- ・ 草薙ツアーグループ他ボランティアによる地域貢献

# 自己評価システムの体系

(平成 23 年度～平成 25 年度)

## 使 命

静岡県立美術館は、創造的で多様性に富んだ社会を実現していくために存在します。そのためにコレクションを基盤として人々が美術と出会い新たな価値を見出す体験の場をより多く提供するとともに、地域をパートナーと考える経営を行い、日本の新しい公立美術館となります。

運営基本方針		重点目標		評価指標	
A	人々の感性を豊かにし、生活に新たな感動をもたらすような展覧会を開催します	1	新たな視点や工夫に基づく企画展を積極的に開催します	1	展覧会の来館者数
		2	他の美術館・大学との連携を進め、企画力を強化します	2	自主企画・企画参加型の展覧会の回数
		3	特徴あるコレクションを形成し、効果的に活用します	3	作品やテーマに興味を持った人の割合
B	地域や学校教育との連携を深め、質の高い芸術教育と普及活動を展開します	1	質の高い芸術教育と普及のプログラムを開発します	4	展覧会における新規来館者の割合
		2	講座・講演会・シンポジウム・演奏会等を充実します	5	展覧会に対する外部評価【定性】
		3	地域住民、企業、NPO 等と連携した美術館活動を充実します	6	調査研究の発表回数
C	さらに積極的な広報を工夫し、美術館活動の情報発信に努めます	1	広報戦略を策定し、広報の質を高めます	7	内部セミナー・研究会・研修の回数
		2	観光業界などとの連携や新たな広報チャンネルの開拓に取り組みます	8	他の美術館や大学と連携した取組件数
		3	ロダン館の認知度を高め、来館者を増やします	9	調査研究に関する外部評価【定性】
D	常に施設の改善に努め、美術館の快適度を高めていきます	1	館内施設を充実させ、満足度を高めます	10	収蔵品展の観覧者数
		2	周辺環境やアクセスの利便を向上させます	11	収蔵品の公開件数
				12	作品購入件数・価格
				13	作品寄贈件数・価格
				14	公開・貸し出した展覧会における学芸員のレポート【定性】
				15	学校教育と連携した取組数
				16	鑑賞系プログラム数
				17	コレクションを活用したプログラム数
				18	普及・教育プログラムに関する美術館職員のレポート【定性】
				19	講演会等の開催件数
				20	学芸員のフロアレクチャー等の数
				21	地域住民等と連携した取組数
				22	館内空間を生かした催事の件数・参加者数
				23	地域機関、住民等と連携した取組に関する職員レポート【定
				24	美術館に関する情報が「入手しやすい」とする人の割合
				25	ホームページのアクセス件数
				26	ホームページの満足度
				27	観光業界や他のイベントとの広報連携の取組数
				28	広報手法における新たな取組状況に関しての美術館職員のレポート【定性】
				29	ロダン館の入館者数
				30	美術館利用者数
				31	鑑賞環境に対する満足度
				32	レストラン・カフェに対する満足度
				33	ミュージアムショップに対する満足度
				34	来館者のアクセス満足度

# 第1章 総括的評価

第1章では、平成23年度の静岡県立美術館の運営全体について、「平成23年度取組方針」に基づいて総括的な評価を行った。

## 1 取組方針に対する評価

平成23年度は、以下3点を取組方針として重点的な取組を行った。

- ① 他館との連携強化による企画展の充実
- ② 収蔵品展の充実
- ③ より積極的な広報の工夫とロダン館の観光ルート化に向けた取組

取組方針別の具体的な成果を以下に示す。

<運営基本方針A：人々の感性を豊かにし、生活に感動をもたらすような展覧会を催します>

### ① 他館との連携強化による企画展の充実

- ・石橋財団ブリヂストン美術館から作品を一部借用して、都市と風景画との関連性を探る「芸術の花開く都市」展を開催し、都市をテーマとした当館コレクションの位置付けを行った。
- ・京都国立博物館のコレクションを活用した「京都千年の美の系譜」展では、連携による企画内容の充実を図り、質の高い作品の展示を実現するとともに、当館での展示の機会の少ない漆工・金工・考古・陶磁といったジャンルの作品を紹介することができた。
- ・「小谷元彦」展では、学芸員の日頃の研究成果を活かし、作品の新たな制作や設置を行い、特色あるインスタレーション※を試みたことで、これまであまり来館したことのない若年層の誘客を図るとともに作品に対するより深い理解に成果を上げることができた。

※インスタレーション：壁や床に棒、板、針金などを使って組み立てた作品

### ② 収蔵品展の充実

- ・所蔵コレクションを中心とした企画展「百花繚乱」展を開催し、2,500点を超える当館コレクションを可能な限り多く鑑賞いただくための、額装作品の二段掛け展示や作品を鑑賞するためのスロープの設置など様々な工夫をした。
- ・一年間を通じて、学芸員の日頃の研究成果を活かして、様々なテーマによる収蔵品展を開催した。
- ・企画展及び収蔵品展の入館者数は、いずれも目標に至らず、今後の企画内容に反省を残した。

<運営基本方針C：さらに積極的な広報を工夫し、美術館活動の情報発信に努めます>

### ③ より積極的な広報の工夫とロダン館の観光ルート化に向けた取組

- ・継続して戦略的な広報に取組むため、館内に副館長を委員長とする「静岡県立美術館広報委員会」を設置し、新たな広報媒体の検討や「静岡県立美術館の未来館者に関する調査」等を実施した。

- ・例年実施している SPAC(静岡県舞台芸術センター)との共催による「ロダンと朗読とチェロの午後 ダンテ『神曲』を読む」をはじめとして、《地獄の門》や《考える人》を間近で見ることのできる「やぐらプロジェクト」、静岡 A0I との連携による「ロダン賞受賞記念コンサート」等を実施し、より積極的な広報に取り組んだ。
- ・旅行会社と協働し、ロダン館、ロダン体操を基軸にした観光商品の造成に取り組み、ツアー商品として提案した。
- ・東京、大阪で開催した「ふじのくにしずおか観光大商談会」に参加し、県立美術館の PR を行った。さらに観光ルート化に向けた検討を行った。

#### ④ その他の取組

##### <運営基本方針B：地域や学校教育との連携を深め、質の高い芸術教育と普及活動を展開します>

- ・学校向けオリエンテーションやボランティアとの対話鑑賞を積極的に実施し、教育普及を「実技系」から「鑑賞系」へと移行するよう努めた。【新規】
- ・「ちょこっと体験」を導入することで、鑑賞者への鑑賞理解を促した。【新規】
- ・第3回鑑賞教育指導者研修会を実施し、鑑賞プログラムの充実を図るとともに学校教育との連携に取り組んだ。
- ・ボランティア「草薙グループ」によるお茶会を実施するなど、参加者の美術館や地域への理解を深めた。

##### <運営基本方針D：施設の改修を推進し、美術館のアメニティを高めていきます>

- ・館内各所の施設改修、改善に努めた。
- ・来館者のアクセス満足度を高めるため、案内の方法等を工夫した。
- ・カフェの照明を替える等、落ち着いて喫茶できる雰囲気づくりに努めた。

## 第2章 達成目標等に対する評価

第2章では、4つの運営基本方針に基づいて実施した内容について、評価指標の実績を踏まえて自己評価を行った結果を記載した。

自己評価システムでは、4つの運営基本方針を実現するために取り組むべき項目を具体化した「重点目標」を設定した上で、重点目標それぞれについて、達成状況を評価するための評価指標（＝「達成目標」）を設定している。

したがって、以下では、重点目標を単位に、達成目標の実績、定性的評価指標の状況を記載した上で、その重点目標の達成状況全体に対する自己評価を記載した。

### 1 運営基本方針Aの達成状況

#### 【運営基本方針A】

人々の感性を豊かにし、生活に感動をもたらすような展覧会を催します

#### (1) 新たな視点や工夫に基づく企画展を積極的に開催します

(達成目標の実績)

評価指標		H20	H21	H22	H23目標	H23実績
1	展覧会の来館者数(人)	190,669	119,416	266,786	170,000	128,326
2	自主企画・企画参加型展覧会の回数(回)	4	2	3	4	4
3	作品やテーマに興味を持った人の割合(%)	86.0	80.9	85.2	88.0	85.7
4	展覧会における新規来館者の割合(%)	17.3	21.4	21.5	20.0	15.7

(定性的指標の状況)

評価指標5	展覧会に対する外部評価(レビュー)
主な状況	<p>【百花繚乱展】〈自主企画展〉 美術館の体系的な収集活動が反映された、充実した展覧会となっていた。収蔵企画展ならではの自由な構成が、これまでの企画展にはない新鮮さを与えていた点は評価できる。 (坂本委員)</p> <p>ジャンルごとの章立てでありながら、全体として風景表現の多様性が分かる内容となっていたのは、これまでの体系的な収集の賜物だろう。作品相互の関係がやや見えにくい部分もあったが、大変見応えがあった。 (山梨委員)</p>
	<p>【小谷元彦展】〈参加型企画展〉 作家のこれまでの歩みがよく理解できる内容であっただけでなく、彫刻とは何かという作家の問題意識を観覧者にも投げかける刺激的な内容となっていた。図録も充実している。 (金原委員)</p>
	<p>世界的に活躍している作家を取り上げ、美術館の空間という制約の中で工夫を凝らした展示がなされていた。作家・作品に対する批評的な視点があればなお良かった。 (潮江委員)</p>

	<p>【芸術の花開く都市展】〈自主企画展〉 都市（人間）と田園（自然）の融合を示した展覧会として評価できる。写真も展示するなど構成が工夫され、図録の論考も充実していた。 <span style="float: right;">（坂本委員）</span></p> <p>所蔵品に単館からの借用作品を加えた構成は、予算面でも内容面でも成功しているだろう。図録も見やすく、充実した内容となっている。 <span style="float: right;">（金原委員）</span></p> <p>【京都千年の美の系譜展】（自主企画展） 出品作品が充実していたことはもちろんだが、単なる名品主義に終わらない作品の選択、解説がなされていた。少数ではあるが、工芸品に目配りをしていたのも好感が持てる。 <span style="float: right;">（金原委員）</span></p> <p>工芸が手薄であった感は否めないが、出品作品は大変充実していた。特に、《山水屏風》が出たのはすごい。こうした展覧会の背景にある人的交流と、学術的研究をさらに進めたい。 <span style="float: right;">（榊原委員）</span></p>
--	---

（その他参考指標）

・展覧会の開催状況

（単位：人）

展 覧 会 名		期 間	観覧者見込み	観覧者実績
企 画 展	◎静岡県立美術館コレクション 百花繚乱展	4/9～ 5/15 (33 日間)	15,000	17,772
	○小谷元彦展	5/28～7/10 (38 日間)	13,900	10,904
	◎開館 25 周年記念 芸術の花開く都市展	7/19～ 9/8 (46 日間)	25,600	15,368
	◎京都国立博物館名品展 京都千年の美の系譜展	10/22～12/4 (38 日間)	32,000	24,140
	草原の王朝 契丹展	12/17～3/4 (65 日間)	44,000	34,245
収蔵品展		年 間	21,000	14,506
ふじのくに芸術祭 2011		9/16～10/10 (22 日間)	14,000	9,691
計			165,500	126,626
移動美術展	沼津市	9/10～9/25 (14 日間)	4,500	886
	浜松市	11/1～11/5 (4 日間)		814
合 計			170,000	128,326

◎は自主企画展 ○は参加型企画展

・自主企画展等の個別分析

（単位：％）

区 分		小谷元彦展	芸術の花開く都市展	京都千年の美の系譜展
観覧者の性別	男 性	36.3	37.6	33.1
	女 性	63.7	62.4	66.9
観覧者満足度		92.3	90.0	89.9
リピート観覧者		79.6	83.9	89.6
新規観覧者		20.5	16.1	10.4

区 分		小谷元彦展	芸術の花開く都市展	京都千年の美の系譜展
新規観覧者満足度		90.0	94.5	96.0
作品やテーマに興味を持った人の割合		87.5	81.0	88.2
地域別観覧者数	中 部	55.2	55.5	58.2
	西 部	17.2	15.1	15.5
	東 部	13.0	15.5	20.1
	県 外	14.6	10.1	6.3

### <分析と評価>

- ・ 展覧会の来館者数は、目標の 170,000 人に対して、128,326 人と目標には至らなかった。
- ・ 「作品やテーマに興味を持った人の割合」は、目標の 88.0%に対して、85.7%と概ね目標を達成することができた。
- ・ 新規来館者の割合は、目標に至らなかったが、「小谷元彦」展においては、20.5%に上った。
- ・ 「百花繚乱」展では、可能な限り多くの収蔵品を展示することを目標とした。これを達成するため、額装作品の二段掛け、三段掛けといったこれまでにない試みも行い、さらに高い位置の作品を鑑賞するためのスロープを設置するなど会場作りにも工夫を凝らした。また、インターネット上で作品の人気投票も行い、結果を会場に示すなど、25周年に相応しくコレクションを前面に押し出した展覧会となった。
- ・ 「芸術の花開く都市」展では収蔵品を核とし、借用は少数の館からに限って低予算化をはかるとともに、他館作品を加えることで当館収蔵品をより明確な文脈に置き、価値付けることができた。予算が厳しい中、コレクションを活かした展覧会のあり方として今後の一つの指標となるだろう。
- ・ 「小谷元彦」展は、来館者の 4 割以上を 10～20 代が占め、新規来館者が 2 割に上るなど、美術館・展覧会に縁遠い若年層の来館を促すという点で大きな役割を果たしたと考えられる。アンケート結果からも、現代美術展に対する潜在的な需用がうかがえた。
- ・ 「京都千年の美の系譜」展は、京都国立博物館の特別協力を得て開催したものであり、人的交流を中心とした他機関との連携を展覧会という形に結び付けることができた。学術的な研究成果を踏まえることはもちろん、「風景の美術館」という当館のコンセプトを展覧会テーマに反映させることで、単なる名品展に陥ることなく、優れた美術品を静岡の地に相応しい文脈の中で公開することができた。

## (2) 他の美術館・大学との連携を進め、企画力を強化します

(達成目標の実績)

評価指標		H20	H21	H22	H23 目標	H23 実績
6	調査研究の発表件数（種類別）（回）	14	11	14	10	18
7	内部セミナー・研究会・研修の回数（回）	12	14	12	14	12
8	他の美術館・大学と連携した取組件数（件）	5	4	3	5	3

※調査研究の発表件数とは、主な論文(カタログ論文・研究紀要・学术论文・学会発表等)の発表件数である。

なお、詳細は「別添参考資料1 平成22年度 調査・研究に関する自己点検評価報告書」を参照。

(定性的指標の状況)

評価指標9	調査研究に関する外部評価（レビュー）
主な状況	<p>①研究紀要 新田建史「静岡県立美術館の地震防災体制について」 (5/7 レポート締切)</p> <p>②研究紀要 福士雄也「服部永錫蒐集の書画帖—《縮地妙詮帖》とその周辺—」 (5/7 レポート締切)</p>

### <分析と評価>

- ・ 調査研究の発表件数は、目標の10件を大きく上回る18件となった。
- ・ 他の美術館・大学との連携は、目標の5件には届かず3件となった。
- ・ 「百花繚乱」展「芸術の花開く都市」展は、いずれも収蔵品を展示の核としたものだが、作品解説や図録に当館のこれまでの研究成果が大いに盛り込まれており、作品だけでなく研究の蓄積をも同時に示すことができた。
- ・ 「小谷元彦」展は、当館では2年振りとなる現代美術作家の回顧展であった。図録への寄稿はもちろん、必ずしも現代美術向きとはいえない当館の展示空間の中でいかに作品を展示するかという点においても、担当者の日頃の研究成果が活かされた。
- ・ 「京都千年の美の系譜」展では、京都国立博物館との連携によって企画性の高い展覧会を実現した。当館での展示の機会の少ない漆工・金工・考古・陶磁といったジャンルの作品を含めた展示構成や、今後の活用価値の高い図録は、そのことを端的に示している。

### (3) 特徴あるコレクションを形成し、効果的に活用します

(達成目標の実績)

評価指標		H20	H21	H22	H23 目標	H23 実績
10	収蔵品展の観覧者数 (人)	17,850	18,042	12,526	21,000	14,506
11	収蔵品の公開件数 (貸出し含む) (件)	446	496	337	500	647
12	作品購入件数・購入価格 (件・千円)	3 12,757	3 133,350 (113,400)	4 8,450 (86,000)	1 5,000	1 5,000
13	作品寄贈件数・評価価格 (件・千円)	47 69,625	20 22,950	2 92,500	10 10,000	36 35,750

12 ( ) は、基金対応額

(定性的指標の状況)

評価指標 14	公開・貸し出した展覧会における学芸員のレポート
主な状況	<p><b>【西洋】</b></p> <p>平成 23 年度から翌年度にかけて、国立西洋美術館、福岡市美術館、当館を巡回する「ユベール・ロベール」展に、計 5 点の油彩画が出品された。ユベール・ロベールの《ユピテル神殿、ナポリ近郊ポッツォーロ》ほか、ロベールと関わりのあるフランソワ・ブーシェなどである。同展への日本所蔵の作品出品としては非常に多く、これは当館の西洋風景画の系統的な収集が他館からも認知されている好例である。</p> <p><b>【日本画】</b></p> <p>岡本豊彦《武陵桃源図屏風》、河村文鳳《武陵桃源圖屏風》が、「桃源万歳」展（岡崎市美術博物館）に出品され、東アジアにおける桃源イメージの系譜上に明確に位置付けられた。いずれも、近世におけるこの主題の大作として、その重要性が浮彫りとなった。また、「長沢芦雪」展（MIHO MUSEUM）に長沢芦雪《牡丹孔雀図》ほか寄託品 2 点、「松岡映丘」展（島根県立美術館ほか）に松岡映丘《今昔ものがたり 伊勢図》、「酒井抱一と江戸琳派」展（千葉市美術館ほか）に酒井抱一《月夜楓図》が出品されるなど、相次いで開催された大規模回顧展において、いずれの作品も作家の重要作として位置付けられた。作家の歴史が更新される中で、改めて各作品が定位されたことは意義深い。</p> <p><b>【日本洋画】</b></p> <p>チャールズ・ワグマン《富士遠望図》及び平木政次《富士》が、「ワグマンが見た海-洋の東西を結んだ画家-」展に出品され、前者はワグマンの成熟期の作品として位置付けられ、後者はワグマンが日本人画家に伝えた絵画技法の成果を示す例として紹介された。</p> <p><b>【現代】</b></p> <p>公立美術館 4 館を巡回した「画家たちの二十歳の原点」展に石田徹也の作品を 3 点出品。若さゆえのナイーブな表現に焦点をあてたテーマが共感呼び、話題を集めた展覧会であった。石田の代表作《飛べなくなった人》は、展覧会の印刷物にも使用され、同展を象徴する 1 点となった。また、草間彌生《無題》を、フランスのポンピドゥー・センターとイギリスのテイトモダンの「草間彌生」展に出品。ヨーロッパの主要美術館で現代日本人作家の個展が開かれるのは初めてで、日本の女性作家が西洋美術史の文脈の中でどのように位置づけられるかを知るといふ点からも、美術史上意義深い展覧会であった。同展への出品により、所蔵作品の評価が一層高まると考えられる。</p>

(参考指標)

作品購入の内容

作者名	作品名	材質・形状	価格
狩野永岳	富士三保松原図	絹本着色一幅	5,000,000円(税込)

#### <分析と評価>

- ・ 収蔵品展の観覧者数は、目標の21,000人に対して14,506人、達成率は69.1%であった。
- ・ 収蔵品の公開件数は、収蔵品を中心とした企画展を2本と年間を通じて収蔵品展を開催したことで目標を大きく上回った。
- ・ 作品購入は予算の関係上で1件にとどまったが、作品寄贈が目標の件数と評価額を大幅に上回った。
- ・ 狩野永岳《富士三保松原図》を購入したことで、富士山の絵画の展示に活用するなど、コレクションの充実を図ることができた。

## 2 運営基本方針Bの達成状況

### 【運営基本方針B】

地域や学校教育との連携を深め、質の高い芸術教育と普及活動を展開します

#### (1) 質の高い芸術教育と普及のプログラムを開発します

(達成目標の実績)

評価指標		H20	H21	H22	H23 目標	H23 実績
15	学校教育と連携した取組数 (件)	385	305	348	350	530
16	鑑賞系プログラム数 (件)	15	13	13	13	20
17	コレクションを活用したプログラム数 (件)	16	17	19	16	19

(定性的指標の状況)

評価指標 18	普及・教育プログラムに関する美術館職員のレポート
主な状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>鑑賞教育指導者研修会や出張美術講座を継続的に行ってきたことにより、鑑賞プログラムを中心に、学校教育との連携機会が増えてきた。</li> <li>教員研修やインターンシップ制度を有効に活用することにより、教育普及における人材育成につながった。</li> <li>実技系プログラムでは、企画展・収蔵品展にかかわりのある内容の実施を心掛けることで、参加者が館内を鑑賞してから制作を行い、意識も作品のレベルも高まった。</li> <li>「ちょこっと体験講座」を導入することにより、観覧者への鑑賞教育の一助とすることができた。</li> </ul>

(参考指標の状況)

普及プログラムの実績 (定量的評価の内訳)

プログラム名	学校教育と連携した取組数	人数	鑑賞系プログラム	コレクションを活用したプログラム
特別講演会			○	
美術講座			○	○
鑑賞講座			○	○
日本画をじかに見る			○	○
学芸員によるフロアレクチャー			○	○
ボランティアのギャラリーツアー			○	○
一般向けオリエンテーション			○	
学校団体向けオリエンテーション	137	8,650	○	
学校団体向けボランティアとの鑑賞ツアー	76	6,585	○	○
ロダン体操	5	184	○	○
タッチツアー			○	○
展覧会関連普及事業 (観覧者対象) (やぐらプロジェクト、《考える人》折り紙プロジェクト、岩手県立美術館連携うちわプロジェクト)			○	○

プログラム名	学校教育と連携した取組数	人数	鑑賞系プログラム	コレクションを活用したプログラム
展覧会関連普及事業（学校対象） （高校生ギャラリートーク、第三回鑑賞教育指導者研修会、福島県いわき市立湯本第一小学校&静岡大学教育学部附属静岡小学校の絵画交換展示）	3	223	○	
音のかけらワークショップ	3	37	○	○
美術館の秘密を探れ	8	341		
ロダン館ななふしぎ	17	975	○	○
色彩・工作アトリエ（収蔵品展・契丹展連携）				○
ロダン館コンサート			○	○
ロダン館デッサン会				○
ロダン館デッサン実習	11	305		○
ちょこっと体験（四種）			○	○
実技入門講座、実技講座、技法セミナー			○	○
ART!、ARU?（美術部等団体参加校あり）	5	391		
出張美術講座	39	2,496		○
教員支援（研修等）	5	5		
出張粘土教室（H24 実施予定）	0			
粘土教室、絵具教室	165	7,270		
粘土貸出し	14	14		
レプリカ貸し出し	2	2	○	○
教員サポート（授業相談等）	23	23		
先生向け粘土・絵の具教室研修会（H24 実施予定）	0			
職場体験・インターンシップ	17	87		
合計	530	27,582	20	19

### <分析と評価>

- ・ 粘土・絵の具教室など体験系プログラムの人気も依然として高いが、一方で学校向けのオリエンテーションやボランティアとの対話鑑賞の依頼が増えている。今後、美術館として体験系から鑑賞系のプログラムへと、どのように移行していくべきかが課題である。
- ・ 美術館の舞台裏を見学する「美術館の秘密をさぐれ」の人数が増え、いろいろな職種職場見学への関心が高まっている。一方で、「ロダン館ななふしぎ」は減少傾向にあり、「ななふしぎ」に変わるロダン館の新しいプログラムの開発が必要である。

## (2) 講座・講演会・シンポジウム・演奏会等を企画し開催します

(達成目標の実績)

評価指標		H20	H21	H22	H23 目標	H23 実績
19	講演会等の開催回数 (回)	240	173	179	210	170
20	学芸員のフロアレクチャー等の数(回)	58	86	123	20	105

※20 学芸員のフロアレクチャー等の数は、下記の参考指標等の状況の1～7までの積算である。

(参考指標の状況)

講演会等の開催回数 (プログラム別)

	プログラム内容	回数
1	学芸員 オリエンテーション	20
2	学芸員 美術講座	3
3	学芸員 鑑賞講座	3
4	学芸員 日本画のじか見	0
5	学芸員 フロアレクチャー	40
6	学芸員 出張美術講座【小・中・高校等へ出張】	35
7	学芸員 フロアレクチャー (モン・ミュゼ沼津、浜松江之島高校)	4
8	特別講演会【外部講師による】	10
9	特別講演会【館長による】	1
10	ギャラリートーク【外部講師による】	1
11	「百花繚乱」展ボランティアギャラリートツアー	4
12	収蔵品展ボランティアギャラリートツアー	49
合計		170

(注)「2 学芸員 美術講座」は、美術作品について美術史の知識等を用いながら解説をする講座であり、「3 学芸員 鑑賞講座」は、親子の鑑賞者に対して、解説を交えながら、作品をじっくりとご覧いただく講座である。

### <分析と評価>

- ・ 講座・講演会等の回数は、目標には至らず、前年度並みであった。内訳は、学芸員のフロアレクチャーが10回増え、美術講座が6回、鑑賞講座が3回減少した。フロアレクチャーの増加は「百花繚乱」展で、毎週末学芸員が交代で作品解説を行ったことが主な要因である。講座系の減少は、前年度トリノ・エジプト展で6回講座を行っていた部分が減り、例年並みに戻ったことと、親子、ファミリー向け講座が3回減ったことが理由としてあげられる。親子、ファミリー向け講座は、新規来館者開拓のためにも意識的にプログラムに組み込んでいく必要がある。
- ・ 学校向け出張美術講座が16回減少しているが、これは毎年1月に行われる中学生事業の日数が半減したことが原因である。

### (3) 地域住民・企業・NPO等と連携した美術館活動を充実します

(達成目標の実績)

評価指標		H20	H21	H22	H23 目標	H23 実績
21	地域住民等と連携した取組数 (件)	10	6	6	4	6
22	館内空間を生かした催事の件数・参加者数(件・人)	101 4,054	34 6,506	62 4,908	90 5,500	83 13,929

(定性的指標の状況)

評価指標 23	地域住民等と連携した取組に関する美術館職員のレポート
主な状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>美術館ボランティア草薙ツアーグループによるお茶会は、来館者サービス、地域連携の活動として各展覧会で実施した。</li> <li>県政さわやかタウンミーティングを年2回開催し、県内大学生と「美術館に望むこと」について、意見交換会を実施した。</li> <li>谷田地区文化連携機関「ムセイオン静岡」では、静岡リビング新聞社との共催で全6回の文化に関する講座「ムセイオン楢岡堂講座」を企画し、文化の情報発信のための活動を行った。</li> <li>ふじのくに文化の丘フェスタでは、館内レストラン・エスタでのライブ演奏に学芸員による収蔵品展「彼方からの光」の特別解説を付けた「ミュージアム・アフタヌーンライブ」を開催した。</li> <li>友の会 25周年記念講演会(高階秀爾氏と芳賀徹氏の対談)を実施した。</li> <li>市内美術館と連携した Kids Art Project の取組も、子供たちに作品鑑賞機会を提供した。</li> </ul>

#### <分析と評価>

- 館内空間を生かした催事の件数は、目標の90件に対して83件、参加者数は5,500人に対して13,929人であった。ロダン館に設置した展望台から《地獄の門》《考える人》を鑑賞する「やぐらプロジェクト」では、実施期間中に9,000人近い参加者があり、ロダン彫刻の新しい鑑賞方法を提供することができた。
- エントランスホールで行った体験系プログラム「ちょこっと体験」では、来館者が気軽に参加できるということもあり、予定人数の2倍を超える参加者があった。
- 美術館ボランティアは、新体制で活動を再スタートして2年が経過した。各グループの活動頻度が上がり、経験が蓄積されたことで、充実したボランティア活動、美術館事業への理解、そして来館者サービス意識の向上につながっている。ボランティア草薙ツアーグループによる彫刻プロムナード茶畑の茶摘み会、茶会等の取り組みは、来館者サービスや地域連携の活動として定着した。

### 3 運営基本方針Cの達成状況

#### 【運営基本方針C】

さらに積極的な広報を工夫し、美術館活動の情報発信に努めます

#### (1) 広報戦略を策定し、広報の質を高めます

(達成目標の実績)

評価指標		H20	H21	H22	H23 目標	H23 実績
24	美術館に関する情報が「入手しやすい」とする人の割合 (%)	69.8	66.5	69.4	70.0	70.6
25	ホームページへのアクセス件数(件)	164,000	147,225	353,500	170,000	419,000
26	ホームページの満足度 (%)	74.3	71.9	74.3	70.0	71.7

#### <分析と評価>

- 「美術館に関する情報が「入手しやすい」とする人の割合 (%)」、「ホームページへのアクセス件数」とともに増加している。「ホームページの満足度 (%)」は、23年度は22年度よりやや下がり21年度並みであった。これは、21年度末までに3年間連続して行ってきたホームページのリニューアル作業が完了し、質量ともに内容が充実した22年度に数値が上昇し、23年度は内容が定着したためと考えられる。23年度は、ホームページのコンテンツのうち、美術館の基本的な情報について、中国語版(繁体字、簡体字)(11月)と、韓国語版(24年2月)を新たに追加したので、さらなるアクセス数と満足度の上昇が期待される。
- 館内に広報委員会を設置し、広報実績などの情報を共有化することで、美術館職員の広報に対する意識改革に繋がった。

#### (2) 観光業界などとの連携や新たな広報チャンネルの開拓に取り組みます

(達成目標の実績)

評価指標		H20	H21	H22	H23 目標	H23 実績
27	観光業界や他のイベントとの広報連携の取組数(件)	-	-	-	2	5

(定性的指標の状況)

評価指標 28	広報手法における新たな取組状況に関しての美術館職員のレポート
主な状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>美術館の基本的な情報の英語版を翻訳して中国語版(23年11月)、韓国語版(24年2月)を作成し、ホームページの多言語化に努めている。</li> <li>観光業界との連携として、モバイルスタンプラリーのチェックポイントに登録し来館者増に努めた。また、観光アドバイザーのアドバイスをもとに、観光協会の旅行代理店向け広報誌「静岡発AGT通信」(650部発行)にロダン館情報を掲載。観光協会経由で就航先等にロダン館リーフレット、チラシを配布した。</li> <li>新たな広報チャンネルを開拓するため、旅行会社、商工会議所に広報連携を依頼し、商工会議所広報誌に「京都千年の美の系譜」広告を掲載。</li> <li>当館からの情報発信、取材を受けたものについて職員が互いに認識し、館全体の広報に眼を向けるため、広報実績を毎月の定例会で報告している。</li> <li>首都圏、関西圏における「ふじのくにしずおか観光大商談会」に美術館職員が参加し、旅行会社等に美術館のPR活動を行った。</li> <li>「ふじのくに大使館 静岡県東京事務所」と連携し、積極的に県外広報に努めた。</li> </ul>

### <分析と評価>

- ・ 観光業界や他のイベントとの広報連携については、新たな取組として、NTT ドコモ、JR が企画したモバイルスタンプラリーに参加、さらに、藤枝、焼津、島田の商工会議所に広報連携を依頼し、各商工会で発行する広報誌に展覧会情報を掲載するなど、当館への来館のきっかけとなる情報発信を積極的に行ったことで目標の件数を上回った。新たな広報チャンネルの開拓という点では成果があったが、誘客に結びつけるということについては今後の課題である。
- ・ 首都圏、関西圏における観光 PR イベントに参加し、観光会社等に直接美術館を PR したことは、ロダン館に興味を示す首都圏旅行会社が現れるなど、大変貴重な広報機会となった。

### (3) ロダン館の認知度を高め、来館者を増やします

(達成目標の実績)

評価指標		H20	H21	H22	H23 目標	H23 実績
29	ロダン館の入館者数(人)	81,771	45,751	131,240	80,000	63,102

### <分析と評価>

- ・ ロダン館の入館者数は、目標 80,000 人に対し、63,102 人で達成率 78.9%であった。これは、企画展の観覧者数が目標の 8 割弱にとどまったことが要因であると考えられる。
- ・ 静岡県舞台芸術センター (SPAC) との共催による詩の朗読、静岡音楽館 AOI との連携による「ロダン賞コンサート」、《地獄の門》の前に設置した高さ 3m の展望台から、普段見えにくい作品上部を鑑賞いただく新規事業「やぐらプロジェクト」を実施したことで、来館者に、新たな美術館の楽しみ方や、作品の鑑賞方法を提示することができた。
- ・ ロダン館開館 20 周年を見据え、上記事業の定例化、学芸員による作品解説の定期的な実施等を検討し、観光ルート化を図る必要がある。

## 4 運営基本方針Dの達成状況

### 【運営基本方針D】

施設の改修を推進し、美術館のアメニティを高めていきます

#### (1) 館内施設を充実させ、満足度を高めます

(達成目標の実績)

評価指標		H20	H21	H22	H23 目標	H23 実績
30	美術館利用者数（内訳）（人）	389,194	221,185	459,489	400,000	284,097
31	鑑賞環境に対する満足度(%)	87.4	84.4	89.8	90.0	90.4
32	レストラン・カフェ利用者の満足度(%)	54.5	68.8	53.8	70.0	71.3
33	ミュージアムショップ利用者の満足度(%)	80.6	84.4	85.6	85.0	86.8

(参考指標の状況)

・利用者数の内訳

(単位：人)

区 分	H23 目標	H23 実績
展覧会観覧者数	165,500	126,626
移動美術展	4,500	1,700
教育普及プログラム参加者数	28,000	34,729
ミュージアムコンサート入場者数	300	600
県民ギャラリー入場者数	93,200	53,147
講堂入場者数	18,500	10,535
レストラン利用者数	49,000	37,456
ミュージアムショップ利用者数	34,000	16,860
図書閲覧室利用者数	7,000	2,444
合 計	400,000	284,097

#### <分析と評価>

- ・美術館利用者数が、目標の400,000人に対して、284,097人であり、目標を大きく下回った。これは展覧会観覧者数が目標の165,500人に対して128,326人であったことが大きな要因と考えられる。
- ・老朽化した電話交換機を更新して多機能電話に変更し、電話での問い合わせに対して迅速で的確に対応できるようにしたことで、利用者の利便性向上につながった。
- ・実技室において教育普及プログラムを実施する際、雨の日でも中庭が利用できるよう実技室横の壁に庇を設置したことにより、教育普及プログラムの利用向上が期待できる。
- ・ロダン館の照明灯をLED電球に交換し、使用する電力量の抑制を図った。
- ・カフェの照明をオレンジ色に変更して柔らかい雰囲気になるとともに、外の景色が楽しめるよう窓のステッカーを除去し、カフェの環境改善を図る等、来館者へのサービス改善につながった。

## (2) 周辺環境やアクセスの利便を向上させます

(達成目標の実績)

評価指標		H20	H21	H22	H23 目標	H23 実績
34	来館者のアクセス満足度 (%)	76.4	78.0	75.8	80.0	81.8
		80.7	75.8	72.0		69.2

※ 実績の上段：公共交通機関で来所した方、下段：自家用車で来所した方

### <分析と評価>

- ・「来館者のアクセス満足度」については、公共交通機関利用者の満足度が目標 80%に対して 81.8%で目標を上回ったが、自家用車の満足度は 69.2%と目標の 80%を下回る結果となった。
- ・プロムナードの経年劣化した侵入防止杭やロープの打ち替え等を行い美観の向上を図るとともに外灯の清掃を実施するなど防犯の観点からも周辺環境の向上につながった。
- ・公共交通機関利用者からのアクセスの問合せに対しては、「JR 草薙駅から 20 分間隔で運行する 100 円バスの利用が便利であること」を引き続き周知するよう配慮した。
- ・駐車場の確保について、来館者の多い企画展の土、日、休日には、隣接する県立大学の職員駐車場を借用し、美術館来館者の利便性の向上につながった。

## 第3章 今後の取組

第3章では、自己評価結果を踏まえた平成24年度の取組について記載している。

まず、平成24年度における重点的な取組に関する考え方を、運営基本方針ごとに、「平成24年度取組方針」として明らかにした上で、具体的な実施内容を重点目標ごとに「平成24年度実施計画」として整理した。

また、平成22年度に設定した平成25年度までの「達成目標」を示した。

### 1 平成24年度取組方針

#### <全体方針>

#### ○ 静岡県立美術館開館30周年及びロダン館開館20周年に向けた事業並びに美術館運営の検討

2014年（平成26年）のロダン館20周年、2016年（平成28年）の美術館30周年に向けて、プロジェクトチームを設置し、今後の事業展開の中で、周年イベント等への機運の盛り上げを図るとともに、周年事業の具体的な検討を行う。また20周年、30周年を契機に今後の静岡県立美術館の経営展望について、連携、広報、施設整備等を含めた包括的な検討を行う。

#### <運営基本方針A：人々の感性を豊かにし、生活に新たな感動をもたらすような展覧会を催します>

##### ① 他館との連携強化による企画展の充実

当館学芸員の調査・研究及びネットワークを活用し、他館との連携をさらに強化して、企画展の充実を図る。今年度は、国立西洋美術館等との連携による「ユベール・ロベール」展、江戸東京博物館との共同調査研究・企画による「維新の洋画家-川村清雄」展を開催する。

また広島県立美術館との相互協力協定締結にもとづいて、コレクションの相互活用、人材交流等を図ることで、より充実した企画展等を開催し、美術館の活性化を進める。

##### ② コレクションを活用した企画展の開催

1986（昭和61）年に開館した当館は、準備室以来継続して、主に「17世紀から今日に至る風景画」をコレクション・ポリシー（収集方針）として作品収集及び企画展を行ってきた。

今年度は、学芸員の日頃の調査・研究を活かし、コレクションを活用した企画展を3本開催し、当館コレクションを広く周知するとともに、コレクションを中心とした今後の企画展の運営について検討する。これからの公立美術館のあり方を考える上で、重要な指針・取組となるよう努める。

#### <運営基本方針B：地域や学校教育との連携を深め、質の高い芸術教育と普及活動を展開します>

##### ③ 教育普及活動の充実

今後の教育普及の方針について検討する。全国的にみても、公立美術館の教育普及活動は、「実技系」から「鑑賞系」へと転換しつつあり、そうした観点から当館でも、平成21年度から23年度にかけて「鑑賞教育指導者研修会」を開催して、人材育成に努めてきた。今年度は、今

後の教育普及の方針を見据えながら、新たな人材育成、事業の充実に取り組むこととする。

また、静岡市内の美術館と連携して「Kids Art Project」を実施し、子供たちに美術館・博物館にふれてもらう機会を提供する。

#### ④ 企業等との連携についての検討

「平成 23 年度第三者評価委員会」の提言に盛り込まれた「企業等との連携」について、その可能性について模索する。平成 22 年度は、地元企業はごろもフーズ株式会社より、《富士三保松原図屏風》の寄贈を受けた。こうした支援は、収蔵品を充実させる意味でも、また当館と企業との連携・協力という点でも重要である。今後は、様々な地元企業との連携について、その可能性を検討することとする。

### <運営基本方針C：さらに積極的な広報を工夫し、美術館活動の情報発信に努めます>

#### ⑤ 効果的な広報の実施とロダン館の PR に向けた取組

県文化・観光部と一体となって、広報戦略を策定するとともに、従来のメディアだけでなく様々な媒体への積極的なアプローチを行う。特に若年者層と未来館者にターゲットを絞った広報を実施する。

またこれまでの取組を総括した上で、ロダン館でのコンサート等の事業を実施し、ロダン館の PR に取り組むこととする。

### <運営基本方針D：常に施設の改善に努め、美術館の快適度を高めていきます>

#### ⑥ 施設の改善に向けた検討

自己評価結果及び第三者評価委員会からの提言により、平成 21 年度より新設した「カフェ・ロダン」については、店内の内装、メニュー等についての課題が多い。本年度は、カフェの改善に向けた検討を行う。

ロダン館についても、ロダンやその作品について、観覧者がより分かりやすい展示・解説にすべく検討する。

また開館 30 周年に向けた施設改修のためのロード・マップ策定についての検討を行う。

## 2 平成 24 年度実施計画

### 【運営基本方針 A】

人々の感性を豊かにし、生活に新たな感動をもたらすような展覧会を催します

#### (1) 新たな視点や工夫に基づく企画展を積極的に開催します

##### ＜他館との連携による企画展＞

- ・学芸員の共同研究に基づいて、国内初のユベール・ロベールの回顧展を開催する。  
(「ユベール・ロベール」展)
- ・本県ゆかりの画家・川村清雄を新たな資料をもとに歴史的に位置付ける。(「川村清雄」展)

##### ＜コレクションを活用した企画展＞

- ・色をテーマとして、多種多様な当館収蔵品の中から名品を紹介する。  
(「カラーリミックス」展)
- ・当館日本洋画コレクションを中心として、日本近代油彩画史を概観する。  
(「日本油彩画 200 年」展)
- ・日本美術の素材・形式をテーマとして、当館収蔵品及び秘蔵のコレクションを紹介する。  
(「江戸絵画の楽園」展)

##### ＜博物館に関連する企画展＞

- ・発掘資料をもとにマチュピチュとインカ帝国の謎を解き明かす。(「大インカ帝国」展)

##### ＜平成 24 年度企画展開催計画＞

展 覧 会 名		期 間	観覧者数見込
企 画 展	静岡県立美術館収蔵名品選 カラーリミックス展	4/14～5/27 (39 日間)	14,000
	日本油彩画 200 年－西欧への挑戦展	6/9～7/22 (38 日間)	10,000
	ユベール・ロベール展	8/9～9/30 (46 日間)	19,000
	江戸絵画の楽園展	10/7～11/18 (37 日間)	13,000
	インカ帝国展	11/27～1/27 (51 日間)	71,000
	維新の洋画家 川村清雄展	2/9～3/27 (40 日間)	15,000
収蔵品展		年間	20,000
計			162,000
移動美術展(富士宮市民文化会館)		9/12～9/29 (20 日間)	8,000(2ヶ所)
移動美術展(磐田市新造形創造館)		10/26～11/4 (9 日間)	
合 計			170,000

#### (2) 他の美術館・大学との連携を進め、企画力を強化します

- ・他の美術館と共同して調査・研究及び巡回展を実施する。  
(「ユベール・ロベール」展、「川村清雄」展)
- ・広島県立美術館との締結にもとづいて、コレクションの相互活用、人材交流等を図る。
- ・展覧会調査や学会出席等情報収集に努める。

- ・インターンシップを受け入れる。

### (3) 特徴あるコレクションを形成し、効果的に活用します

- ・コレクションを活用した企画展を積極的に開催する。  
(「カラーリミックス」展、「日本油彩画 200 年」展、「江戸絵画の楽園」展)
- ・「県立美術博物館設立基金」を活用した収蔵品の取得についての検討・取組を行う。
- ・購入・寄贈候補作品に関する情報を積極的に収集し、日常的な調査に努める。
- ・エントランス名品コーナーで富士山をモチーフとする絵画を紹介する。
- ・これまで以上に、テーマに工夫を凝らした収蔵品展を開催する。

#### <平成 24 年度収蔵品展開催計画>

展覧会名	期 間	展示する収蔵作品など
新収蔵品展	4/10～5/27	平成 23 年度新収蔵品
静岡県浙江省友好提携 30 周年記念 中国絵画と日本	6/9～7/22	徐霖《楼閣山水図》
親子で見て感じる現代アート	8/4～9/17	篠原有司男《次郎長バー》
無限の芸術 李禹煥の世界	9/19～11/4	李禹煥《線より》
西欧の風景画—当館収蔵品のエッセンスがここにある—	11/6～2/3	ポール・ゴーギャン《家畜番の少女》
富士山の日関連展示 富士山の絵画 2013	2/5～3/31	和田英作《富士》

### 【運営基本方針 B】

地域や学校教育との連携を深め、質の高い芸術教育と普及活動を展開します

#### (1) 質の高い芸術教育と普及プログラムを開発します

- ・今後の教育普及の方針について検討する。
- ・鑑賞との結びつきを深め、質の高い鑑賞系、実技系教育普及事業を実施する。
- ・学校教育の現場との交流を図り、鑑賞系教育普及事業をより充実させる。

#### <平成 24 年度 教育・普及プログラム 主な内容>

プログラム	内 容	実施日数等 (予定)
創作週間	実技室とその設備を創作活動のため県民に開放する	年58日
色彩アトリエ	親子でも参加できる美術体験企画として絵画を取り上げ、さまざまな技法で共同制作、展示を行うワークショップ	年2日
工作アトリエ	親子でも参加できる美術体験企画として立体・彫刻を取り上げ、共同制作を行うワークショップ	年3日
絵の具開放日	親子で参加し、絵の具で自由に遊ぶ体験の日	年8日16回
粘土開放日	親子で参加し、粘土で自由に遊ぶ体験の日	年12日36回
美術館教室	学校連携普及事業 来館園児・生徒を対象とした実技・鑑賞のプログラムと、学芸員が学校で行う出張美術講座など	年140回
出張美術講座	コレクションのレプリカやPC資料を持参して、小～大学まで幅広い年齢層を対象に、県内全域の学校で授業を実施	年40回
ちょこっと 体験講座	展覧会をみにきた方に、どなたでも15分で体験できる技法体験コーナー（エントランスにて年5回、シルクスクリーン、銅版画、木版画、日本画の体験）	年25日

**(2) 講座・講演会・シンポジウム・演奏会等を企画し開催します**

- ・企画展に合わせ、創意工夫を凝らした講演会、シンポジウム等を開催する。
- ・収蔵品展や企画展の美術講座及びフロアレクチャー等を実施する。

**(3) 地域住民、企業、NPO等と連携した美術館活動を充実させます**

- ・企業からの支援・協力の可能性について模索する。
- ・静岡市内の美術館と連携した「Kids Art Project」を実施する。
- ・「ムセイオン静岡」を定期的に開催し、市内文化施設6機関の連携を深める。
- ・ボランティア活動の質を高め、地域連携活動を支援し推進する。
- ・NPOとの連携についての可能性を模索する。

**【運営基本方針C】**

さらに積極的な広報を工夫し、美術館活動の情報発信に努めます

**(1) 広報戦略を策定し、広報の質を高めます**

- ・「静岡県立美術館広報委員会」を運用して、戦略広報の策定・実施及び企画展等の事業ごとの広報を積極的に行う。
- ・若年者層と未来館者をターゲットにした広報を実施する。
- ・諸機関と連携して、新たなニュース・リソースを生み出すための素材を開拓する。

**(2) 観光業界などとの連携や新たな広報チャンネルの開拓に取り組みます**

- ・県文化・観光部を中心として、観光諸団体との連携を進める。
- ・評価結果を活かし、企画展及びイベントの内容に応じて、マーケティングをして、より効果的な告知先を検討する。

**(3) ロダン館の認知度を高め、来館者を増やします**

- ・県文化・観光部と連携し、ロダン館の観光ルート化に向けた取組を行う。
- ・コンサート等の事業を通して、ロダン館の魅力を発信する。

**【運営基本方針D】**

常に施設の改善に努め、美術館の快適度を高めていきます

**(1) 館内施設を充実させ、満足度を高めます**

- ・「カフェ・ロダン」の改善に向けた検討を開始する。
- ・レストランの更なるサービス改善に努める。
- ・ロダン館におけるより分かりやすい展示・解説について検討する。
- ・空調設備等の施設の改修に向けた検討を行う。

**(2) 周辺環境やアクセスの利便を向上させます**

- ・バス等の公共交通機関によるアクセスの改善について関係機関に要請する。
- ・美術館の将来構想や周辺環境の整備について検討する。

### 3 平成 24 年度以降の達成目標

評価指標		H19 実績	H20 実績	H21 実績	H22 実績	H23 実績	H24 目標	H25 目標
運営基本方針 A 人々の感性を豊かにし、生活に新たな感動をもたらすような展覧会を催します								
重点目標 1 新たな視点や工夫に基づく企画展を積極的に開催します								
1	展覧会の来館者数(人)	184,535	190,669	119,416	266,786	128,326	170,000	170,000
2	自主企画・企画参加型展覧会の回数(回)	3	4	2	3	4	4	4
3	作品やテーマに興味を持った人の割合(%)	87.5	86.0	80.9	85.2	85.7	88.0	88.0
4	展覧会における新規来館者の割合(%)	19.7	17.3	21.4	21.5	15.7	20.0	25.0
重点目標 2 他の美術館・大学との連携・交流を進め、企画力を強化します								
6	調査研究の発表件数(回)※	※10	14	11	14	18	10	10
7	内部セミナー・研究会・研修の回数(回)	12	12	14	12	22	14	14
8	他の美術館・大学と連携した取組件数(件)	3	5	4	3	3	5	5
重点目標 3 特徴あるコレクションを形成し、効果的に活用します								
10	収蔵品展の観覧者数(人)	18,196	17,850	18,042	12,526	14,506	21,000	25,000
11	収蔵品の公開件数(貸出し含む)(件)	465	446	496	337	647	500	500
12	作品購入件数・購入価格(件・千円) (())内は、基金対応額	2 29,896	3 12,757	3 133,350 (113,400)	4 8,450 (86,000)	1 5,000	—	—
13	作品寄贈件数・評価価格(件・千円)	23 26,435	47 69,625	20 22,950	2 92,500	36 35,750	10 10,000	10 10,000
運営基本方針 B 地域や学校教育との連携を深め、質の高い芸術教育と普及活動を展開します								
重点目標 1 質の高い芸術教育と普及のプログラムを開発します								
15	学校教育と連携した取組数(件)	290	385	305	348	530	350	300
16	鑑賞系プログラム数(件)	11	15	13	13	20	13	20
17	コレクションを活用したプログラム数(件)	14	16	17	19	19	16	20

平成 19 年度以降は、カタログ論文・研究紀要・学術論文・学会発表等を積算している。

(それまでは、執筆した論文、携わった展覧会・教育普及活動、その他専門領域活動を含めている。)

	評価；指標	H19実績	H20実績	H21実績	H22実績	H23実績	H24目標	H25目標
重点目標2 講座・講演会・シンポジウム・演奏会等を充実します								
19	講演会等の開催回数(回)	214	211	240	177	170	210	200
20	学芸員のフロアレクチャー等の数(回)	16	17	58	123	105	120	120
重点目標3 地域住民、企業、NPO等と連携した美術館活動を充実させます								
21	地域住民等と連携した取組数(件)	2	10	6	6	6	4	4
22	館内空間を生かした催事の件数・参加者数(件・人)	90 5,400	101 4,054	34 6,506	62 4,908	83 13,929	90 5,500	90 5,500
運営基本方針C さらに積極的な広報を工夫し、美術館活動の情報発信に努めます								
重点目標1 広報戦略を策定し、広報の質を高めます								
24	美術館に関する情報が「入手しやすい」とする人の割合(%)	67.9	69.8	66.5	69.4	70.6	70.0	70.0
25	ホームページへのアクセス件数(件)	164,500	164,000	147,225	353,500	419,000	170,000	170,000
26	ホームページの満足度(%)	70.0	74.3	71.9	74.3	71.7	75.0	75.0
重点目標2 観光業界などとの連携や新たな広報チャンネルの開拓に取り組みます								
27	観光業界や他のイベントとの広報連携の取組数(件)	-	-	-	-	5	2	2
重点目標3 ロダン館の認知度を高め、来館者を増やします。								
29	ロダン館の入館者数(人)	74,290	81,771	45,751	131,240	63,102	80,000	90,000
運営基本方針D 常に施設の改善に努め、美術館の快適度を高めていきます								
重点目標1 館内施設を充実し、満足度を高めます								
30	美術館利用者数(内訳)(人)	373,556	389,194	221,185	459,489	284,097	400,000	400,000
31	鑑賞環境に対する満足度(%)	87.1	87.4	84.4	89.8	90.4	90.0	90.0
32	レストラン・カフェ利用者の満足度(%)	61.7	54.5	68.8	53.8	71.3	70.0	80.0
33	ミュージアムショップ利用者の満足度(%)	76.9	80.6	84.8	85.6	86.8	85.0	85.0
2 周辺環境やアクセスの利便を向上させます								
34	来館者のアクセス満足度(%)※	78.1 80.1	76.4 80.7	78.0 75.8	75.8 72.0	81.8 69.2	80.0	80.0

※ 実績の上段：公共交通機関で来所した方、下段：自家用車で来所した方

## 展覧会に関する自己点検評価報告書

---

- 1 開館 25 周年記念 「静岡県立美術館コレクション 百花繚乱」展
- 2 「小谷元彦 幽体の知覚」展
- 3 開館 25 周年記念 「芸術の花開く都市」展
- 4 「京都国立博物館名品展 京都千年美の系譜」展
- 5 「草原の王朝 契丹」展

■静岡県立美術館 自己点検評価表(展覧会)(平成23年度)

事業名称	「開館25周年記念 静岡県立美術館コレクション 百花繚乱」展
企画(事前)	
目的・内容	開館25周年を迎え、これまでの収集成果を出来る限り多くのお客様にご覧いただく。市民の皆様への感謝を表わす一環として、当館館蔵品の人気投票も実施し、皆様からの声を展示状態に反映させるよう努める。収蔵品を主体に用いた企画展としては出品点数を最大にし、各ジャンルの収集成果をアピールする。各種イベントを増やし、会期中、常に何らかの副次的な催しにもご参加いただける状態にする。
期待される成果	従来行なわれてきたコンセプト優先の展示計画と差別化を図るため、当館収蔵品の全体像をボリュームとして提示する。これにより、リピーターには当館作品に新鮮な印象を持っていただく。人気投票への参加を促すことで、新規来館者には、全体の中から自分のお気に入り作品を見つけていただく。
指標(数値目標)	観覧者数 15,000人
収支(予算) /観覧者数(見込)	・観覧者数 14,000人 ・歳出 5,699千円 ・歳入 4,066千円 ・特財率 71.3%
広報戦略	人気投票に豪華景品を設定、各種新聞への広告掲載(朝日、毎日、産経、中日)、新聞記事への掲載働きかけ(静岡、中日)、フリーペーパーへの掲載、周辺自治会へのチラシ配布、松坂屋懸垂幕掲示、テレビ、ラジオへの露出、You tubeでの展覧会紹介画像配信、ブログでの状況報告、美術系の学部・学科のある県内大学、専門学校にチラシの配架を依頼、県立大学開学祭でロタンポストカード配布を依頼、ホテルドルク、浮月樓、中島屋に割引券を配布、松坂屋店内広告「休日服と雑貨のフェア」招待券プレゼント、「高速得本」クーポンで団体割引を設定、プロムナード街路への「25周年ペナント」表示等々により、露出機会を極力増やした。

部署	学芸課	記入日	企画 平成23年4月1日
担当者名	新田(堀切、石上)		総括 平成24年3月31日
実施日・場所	4月9日(土)~5月15日(日) 静岡県立美術館第1~6展示室		

学芸員の企画への参加の有無	有 ・ 無	学芸員の企画への参加状況 ※カタログ執筆、出品交渉等	作品選定
マスコミ等による共催の有無	有 ・ 無	巡回の有無	有 ・ 無

総括(事後)	
目的の達成度	これまでの収集成果のアピールは、十分に達成した。ウェブサイトを利用した人気投票では、一部画像は無いものの館蔵品の全データを公開した。サイトには、作品をランダムに表示する機能も併設することで、サイト利用者が思いもかけない作品の情報入手する機会も提供した。最終的な投票総数は2,300点を超過しており、単純計算で観覧者数の10%以上が展覧会企画に対して積極的に関与したことになる。投票結果を週毎に表示することで、展覧会への継続的な関心を惹起せしめた。作品2段掛けや間隔を狭くすることでの出品点数の増加、展望台の設置、フラットな照明の演出等、展示室内空間構成の工夫は、収蔵品観覧に新鮮さを与えた。
アンケートにみる特徴	
指標に基づく成果	観覧者数17,784人(118.6%)
研究活動評価委員会からの意見(要約)	
収支(決算) /観覧者数(実績)	・観覧者数 17,772人(目標 15,000人:118.6%) ・歳出 2,475千円(予算 5,699千円: 43.4%) ・歳入 6,137千円(目標 4,066千円:150.9%) ・特財率 248.0%(目標 71.3%)
今後の改善点・課題	今後、作品人気投票やリクエスト等を実施する場合には、それに相応しい予算措置を行なう必要がある。今回はそれらが全く無かったため、わずかな予算を担当者の手仕事でカバーせざるを得なかった。また、準備期間が4ヵ月しかなかったことも、担当者への負担を増大させた。 本展で製作した投票サイトは、今後館蔵品の情報を公開するためのプラットフォームとして改訂し得る。今後の展開を立案し、活用されなくてはならない。 また、本展のような展覧会は、収蔵品の質と量が生命線である。一層の作品収集が、ますます望まれるところである。

■静岡県立美術館 自己点検評価表(展覧会)(平成23年度)	部署	学芸課	記入日	企画 平成23年4月1日
	担当者名	川谷(堀切)		総括 平成24年3月31日
	実施日・場所	5月28日(土)～7月10日(日) 静岡県立美術館第1～6展示室 エントランス、ロダン館		
	学芸員の企画への参加の有無	有 ・ 無	学芸員の企画への参加状況 ※カタログ執筆、出品交渉等	作品選定、図録執筆
マスコミ等による共催の有無	有 ・ 無	巡回の有無		有 ・ 無

事業名称	「小谷元彦 幽体の知覚」展
------	---------------

企画(事前)	総括(事後)
--------	--------

目的・内容	本展は昨年11月～2011年2月に東京の森美術館で開催され、静岡県立美術館で開催の後、高松市美術館、熊本市現代美術館の4会場を巡回する。現存若手作家の展覧会という性質上、通常のパッケージ型の巡回展とは異なり、各美術館の建築要素やコレクションの特性を生かして、各美術館の学芸員と作家が協議しつつ、作品の新たな制作や設置が行われ、各会場ごとに特色のあるインスタレーションを試みられる。当館ではエントランスホールに高さ4メートルを超える木彫作品を、またロダン館の《地獄の門》前には、日本近代彫刻史に批判的に言及した作品を展示するほか、第5展示室では未発表の新作映像インスタレーションが展示される予定となっている。ここ静岡県立美術館でなければ実現しないインスタレーションによって観客を刺激する場を作り上げる。	目的の達成度	全体の入館者数という点では、目標の8割に満たなかったものの、入館者結果から、高校大学生の入館者割合が、21～22年度企画展実績の3倍となっている。この数字から、県内の若い鑑賞者に向けて的確に展覧会PRが行き届き、本来観にきて欲しい層に、展覧会を観てもらうことができたと考えられる。身近に最先端の美術表現に触れる機会を創出し、若い人々の芸術への興味や関心をくすぐり、感性を刺激するという本展で期待した成果は、おおむね達成できたものと思う。また、ツイッターへの書き込みをリサーチしたところ、静岡県立美術館で小谷元彦展を開催することへの驚きや新鮮味を強調する書き込みが多数あったほか、観覧後の感想として、ロダン館《地獄の門》前でのインスタレーションや新作展示への反響が数多く書き込まれていたことなどから、目標に掲げた対外的な美術館力アップに少なからず貢献できたのではないかと考える。
-------	--	--------	--

期待される成果	先鋭的な若手作家を個展で取り上げることは、同時代のアートシーンに対して館としての態度を明らかにすることであり、作家の今後の評価や美術の動向に多少なりとも影響を与えることになる。美術館は本来そうした機能を担っているものだが、本展でも同様の成果が期待される。本展のように挑戦的に一人の現存作家を取り上げて問題提起していくことは、対外的に館の攻めの姿勢をアピールすることにもなり、伝統的な美術作品から最新の美術の動向までを取り扱う総合的な美術館としての活動の幅を厚くするであろうし、体外的な美術館力アップにも貢献すると思われる。また、対鑑賞者にとっては、最先端の美術表現に身近に触れる機会が創出されることにより、現在の美術に関心を持つチャンスが生まれ、新たな鑑賞者層の形成に繋がっていくと思われる。とりわけ本展の魅力は、若い世代に働きかける内容になっており、静岡県の若者の芸術への興味や関心をくすぐり、感性を刺激するであろうし、若い人の今後の鑑賞体験や嗜好の方向性にも影響を与えることもあると思われる。	アンケートにみる特徴	回答者に占める年齢層は20歳代が27.0%と最多で、次いで13歳～19歳が17.3%と多く、従来の展覧会と比べ若い人の数が目立った特徴のある結果となっている。性別では「女性」の割合が63.7%と高く、6割以上が2人以上で来館し、同伴者は「友人・知人・恋人」が半数以上を占めている。全体的な満足度は高く78.7%となっている。回答者の居住地域は「静岡市を含む中部」が55.2%と半数以上を占めている。来館のきっかけは、全体では「ポスターを見て」が28.2%と最も多く、新規来館者では「友人、知人、家族などに誘われて」が33.3%と最も多い。自由記入欄では、「新鮮味があって良い」「刺激を受けた」「現代美術作家の作品をもっと扱ってほしい」「驚きがあった」という表現が目立っている。
---------	--	------------	--

指標(数値目標)	観覧者数 13,900人、作品やテーマに興味を持った人の割合 70%	指標に基づく成果	観覧者数 10,904人(78.4%)、作品やテーマに興味を持った人の割合 87.5%
----------	------------------------------------	----------	---

収支(予算)/観覧者数(見込)	・観覧者数 13,900人 ・歳出 16,694千円 ・歳入 5,799千円 ・特財率 34.7%	研究活動評価委員会からの意見(要約)	彫刻とは何なのかが、若い鑑賞者にも刺激を与えていたという意味で、新たな指標を提示している展覧会である。この時期にこの作家を取り上げたことは時宜にかかっており学芸員の見識が示されている。様々な試みから、身体感覚が緊張感を味わうことが出来、突飛的なものの氾濫であると感じると人がいたとしても、これらは創意の願望や精神が具体化したもので、現代美術の壮大なひとつの成果を獲得した作品群と思われる。現代美術を見ても何か喜びよりもむしろ残ることが多すぎると多いが、今回は充実感、ハピネスを感じた。(金原)
-----------------	--	--------------------	--

広報戦略	静岡朝日テレビを通じてのTVCM放映、番組内宣伝。フライヤー(はがきサイズのチラシ)を作成して、市内の若者が集まるスポットに手持ちで配布し広報協力を呼びかける。県内、愛知県内の美術大学、美術、デザイン系専門学校へポスター、チラシを送付する。他機関(SPAC)と連携し、ハズターでのタイアップ企画、SPACのアパタートークへの小谷氏出演などを実施。	収支(決算)/観覧者数(実績)	・観覧者数 10,904人(目標 13,900人: 78.4%) ・歳出 16,644千円(予算 16,694千円: %) ・歳入 5,150千円(目標 5,799千円: %) ・特財率 30.9%(目標 34.7%)
------	---	-----------------	--

今後の改善点・課題	今回は、開催形態の事情により助成申請ができなかったことに加え、入館料無料の若い人の観覧者が多かったことにより、特財率がかなり低い結果となってしまった。今後の課題としては、これまでどおり助成金獲得に努力をするとともに、引き続き他館との連携や巡回展仕立ての可能性を模索していく必要がある。アンケートの自由記入欄を見ると、今後も現代美術展の開催要望が多く寄せられているが、現状、実施する機会が多いとはいえず、ここ数年は2～3年に1度のペースで行っている。今回の展覧会で獲得した若い鑑賞者層の関心を引き留め、彼らにこの先も美術館に何度も足を運んでもらえるような県立美術館愛好者になってもらうためには、若い人の感性を刺激する魅力ある展覧会を少なくとも1年に1度は行っていく必要がある。そのためには、目の前の入館者数、特財率の結果のみを評価の指標にするのではなく、将来的な愛好者の獲得と育成という観点から政策的に現代美術展を行っていくという全館的な意思と理解が必要である。
-----------	--

<p style="text-align: center;"><b>■静岡県立美術館 自己点検評価表(展覧会)(平成23年度)</b></p>				部署	学芸課	記入日	企画 平成23年4月1日
				担当者名	森井・小針(南)		総括 平成23年10月12日
				実施日・場所	7月19日(火)～9月8日(木) 静岡県立美術館第1～6展示室		
				学芸員の企画への参加の有無	有・無	学芸員の企画への参加状況 ※カタログ執筆、出品交渉等	作品選定・借用、図録編集・執筆等
マスコミ等による共催の有無	有・無	巡回の有無	有・無				
事業名称	開館25周年記念「芸術の花開く都市」展						
企画(事前)				総括(事後)			
目的・内容	本展は、優れた芸術を生み出した国内外の都市や地域に注目し、魅力ある作品を紹介するとともに、都市や地域の文化創出力の類似点・相違点を探り出すものである。出品作品は、当館のコレクションに加えて、秀逸な質と豊富な点数を誇る石橋財団プリチストン美術館(東京)のコレクションの中から、モネ、ルノワール、マチスなどを特別出品する。			目的の達成度	アンケート結果にみる「全体的な満足度」は、90.0%(うち、新規来館者 94.5%)、また「作品やテーマへの興味・関心の深まり」は、81.0%(うち、新規来館者 86.1%)と、いずれも高い数値に達したのに加えて、自由回答欄にも「歴史に沿っていて、フランスやイタリアに行ってみたく思いました。」「様々な都市や年代の作品が比較できて楽しかった。人が多すぎず快適に観ることができたので良かった。」といった、本展の内容と質に関するアウカム評価が見られたことから、本展の目的・内容は、概ね鑑賞者に理解され、満足が得られたといえる。一方、「作品やテーマへの興味・関心への深まり」に「はい」と回答した割合は、38.7%で、「小谷元彦 幽体の知覚」の56.0%に比べて、差が見られた。		
期待される成果	芸術作品への理解・関心に加えて、都市・地域との関係性、すなわち気候・風土といった「芸術地理学的視点」から、当館のコレクションへの理解が深まることが成果として挙げられる。また石橋財団プリチストン美術館をはじめとする他館からの特別出品により、当館コレクションに興行が生まれることも成果の一つである。			アンケートにみる特徴	回答者には、40代・50代の女性層が多い(36.2%)。居住区域は、静岡市が最も多い(45.9%)。来館のきっかけは、「新聞を見て」が、19.2%と多く、つぎに口コミが17.4%と多い。また若年層ほど、インターネットによる来館率が高くなる傾向にある。「心地よく鑑賞」は、92.3%、「スタッフの対応の適切さ」84.7%、「来館を勧めたか」66.4%と、いずれも高い数値を示した。一方、「来館を勧めたか」に「はい」と回答した人は、29.1%で、「小谷展」の42.1%に比べて、差が見られた。また「風景の美術館の認知度」は、来館10回以上 51.0%、20回以上 60.0%とリピーターほど数値が高くなっており、広報効果が徐々に表れてきているといえる。		
指標(数値目標)	観覧者数 25,600人、作品やテーマに興味を持った人の割合 70%			指標に基づく成果	観覧者数 15,368人(60.0%)、作品やテーマに興味を持った人の割合 81.0%		
収支(予算) /観覧者数(見込)	・観覧者数 25,600人 ・歳出 17,542千円 ・歳入 12,738千円 ・特財率 72.6%			研究活動評価委員会からの意見(要約)	「25周年記念展として、ふさわしい展示となっていた。研究面ではカタログテキストや解説パネルが充実している。<見る+読む>という2つの側面からも楽しめるものであった。会期中の的を絞ったイベント、講演も多彩で良い。」(金原委員) 「近代都市市民のオプティミスティック(印象派に見られるような)田園画を中心とした風景画展のようにも思われる。日本部門との相違(小林清親、石井柏亭、須田国太郎、小谷元彦、森村泰昌)なども、不思議で面白かった。」(坂本委員)		
広報戦略	年齢、性別、居住地を問わないが、夏休み期間中であり、当館コレクションにプリチストン美術館の名品を加えた出品作を児童や生徒たちに見てもらいたいと考えている。静岡新聞社・SBS静岡放送との共催により、県民に広く広報する。併せて、多様な媒体によって、本展を広く周知する。			収支(決算) /観覧者数(実績)	・観覧者数 15,368人(目標 25,600人: 60.0%) ・歳出 12,038千円※(予算 17,542千円: 72.4%) ※見込値 ・歳入 8,447千円(目標 12,738千円: 66.3%) ・特財率 70.2%(目標 72.6%)		
				今後の改善点・課題	アンケート結果の通り、本展は、当館のコアなリピーター層に対しては、その内容・趣旨が理解されたと考えられる。しかしながら、これまで当館に来館していない新たな顧客層、とくに若年層、県外からの来館者等については、広報が充分に行き届かなかったといえる。また、夏休み期間中の児童や生徒の誘客についても、充分ではなく、今後、プログラムの内容について検討する必要がある。今後は、新聞・テレビといった既存メディアのみならず、新たな媒体の検討にも取り組み、優れた美術作品を多くの人々に見ていただけるよう工夫する必要がある。 ※本評価表の趣旨からは、それが、「小谷元彦」展のような新規来館者をターゲットとした事業と本展のようなコアなリピーターに支持される事業とを年間計画の中で、戦略的に組み合わせ、より効果的な政策を策定・実現することも必要であり、検討すべきである。		

<p style="text-align: center;"><b>■静岡県立美術館 自己点検評価表(展覧会)(平成23年度)</b></p>		部署	学芸課	記入日	企画 平成23年4月1日	
		担当者名	石上、福士		総括 平成23年12月21日	
		実施日・場所	10月22日(土)～12月4日(日) 静岡県立美術館第1～6展示室			
		学芸員の企画への参加の有無	有	無	学芸員の企画への参加状況 ※カタログ執筆、出品交渉等	作品選定・出品交渉、図録執筆等
マスコミ等による共催の有無	有	無	巡回の有無	有	無	
事業名称	「京都国立博物館名品展 京都千年美の系譜」展					
企画(事前)			総括(事後)			
目的・内容	京都国立博物館は日本・東洋の古美術を所蔵する国内最高峰の博物館であるが、常設会場である新館の建て直し工事に伴い、通常であれば出品困難な貴重な文化財をまとめて拝借する機会を得ることができた。当館の日頃の活動方針とも関連付け、「祈りと風景」をテーマとし、絵画、漆工、陶磁器、染織など多岐に渡る京博所蔵品を通して、古来日本人が風景に寄せてきた眼差しをたどり、自然との交わりの中で育んできた心性、「聖なるもの」を宿す世界としての風景への思いを探る。		目的の達成度	絵画のみならず、染織・漆工・陶磁など、多岐にわたる分野からきわめて質の高い作品を出品することができた。これは、単なる名品展ではなく、当館の活動テーマと関連させた展示構成案に対して京博の理解を得ることができたためであり、日本・東洋美術の粋に触れる機会を提供するという当初の目標は十分に達成されたといえる。 ・観覧者数は目標には及ばなかったが、観覧者の満足度は89.9%と非常に高い数値を示しており、この点は目標を大きく上回った。		
期待される成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国宝、重要文化財を多数含む非常に質の高い展示内容により、千年に及ぶ日本・東洋の美の粋に接する機会を提供する。当館は山水・風景画をコレクション形成の柱とし、風景表現にまつわる様々な展覧会活動を行ってきたが、この礎の上に、より広範な時代とジャンルにわたる京都国立博物館所蔵品を展示することによって、当館の活動に広がりや深みを与える。</li> <li>・歴史、美術の教科書に登場する重要作品を間近に見ることで、古代から近世までの日本の文化を体感し、文化財の保護・継承という博物館の役割について知ってもらう。</li> </ul>		アンケートにみる特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年代層が高く、女性の割合も高い(50歳以上が約6割、女性が7割近い)。</li> <li>・テレビ・新聞をきっかけとした方が多い(55%)。</li> <li>・市内からの来館者が多い(45%)。</li> </ul>		
指標(数値目標)	観覧者数 32,000人、作品やテーマに興味を持った人の割合 70%		指標に基づく成果	観覧者数 24,140人(75.4%)、作品やテーマに興味を持った人の割合 88.2%		
収支(予算)/観覧者数(見込)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観覧者数 32,000人</li> <li>・歳出 11,000千円</li> <li>・歳入 9,674千円</li> <li>・特財率 87.9%</li> </ul>		研究活動評価委員会からの意見(要約)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高質な作品の鑑賞機会を提供したという点で大変意義深い。また、それらに付された解説がわかりやすく工夫されており、学芸員の意欲を感じ取ることができた。(金原)</li> <li>・大変充実した内容であったと思う。こうした展覧会が、今後の研究・展覧会企画へと生かされることを期待したい。(榎原)</li> </ul>		
広報戦略	<ul style="list-style-type: none"> <li>・静岡第一テレビとの共催であり、テレビスポットを活用した広報を展開する。</li> <li>・歴史に関心の高い層へのアピール、団体観覧の促進のための学校への働きかけなど、いわゆる美術ファン以外の情報浸透を図る。</li> </ul>		収支(決算)/観覧者数(実績)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観覧者数 24,140人(目標 32,000人: 75.4%)</li> <li>・歳出 10,392千円(予算 11,000千円: 94.5%)</li> <li>・歳入 9,107千円(目標 9,674千円: 94.1%)</li> <li>・特財率 87.6%(目標 87.9%)</li> </ul>		
			今後の改善点・課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内容の充実度、観覧者の満足度からすれば、もっと観覧者数があってもよかった。</li> <li>・展覧会タイトルがやや抽象的、ポスターデザインが地味</li> <li>・この2点が反省点であろう。広報・集客という観点からすれば、展覧会の構成を支えるテーマを、タイトルとしてストレートに反映させた結果、展覧会の魅力を充分には伝えることができなかった可能性が考えられる。</li> </ul>		

■静岡県立美術館 自己点検評価表(展覧会)(平成23年度)				部署	学芸課	記入日	企画 平成23年4月1日
				担当者名	飯田		総括 平成24年3月31日
				実施日・場所	12月17日(土)～平成24年3月4日(日) 静岡県立美術館第1～6展示室		
				学芸員の企画への参加の有無	有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無	学芸員の企画への参加状況 ※カタログ執筆、出品交渉等	カタログに作品解説執筆
マスコミ等による共催の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無	巡回の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無				
事業名称	「草原の王朝 契丹」展						
企画(事前)				総括(事後)			
目的・内容	唐王朝滅亡後、10世紀初頭から12世紀中頃にかけ北アジアで勢力を誇った契丹王朝は、巧みな騎馬戦術と唐を継承する高い工芸技術によって国力を増大させ、栄華を極めた。本展は近年の目覚ましい発掘調査によって明らかとなった、契丹の文化を紹介する展覧会。遊牧民族が育んだ崇高かつ美麗な文化は、近年欧米でも関心を高めているが、その精華を一挙公開する企画は日本初。九州国立博物館の多年にわたる修復協力から実現した展覧会で、出品される彫刻、金工、絵画等は、正倉院の宝物に匹敵する質の高さをもつ。出品数は約120件。			目的の達成度	予定されていた目玉作品が事情により出品できなくなった。そのため想定していた観覧者数に達しなかった。ただし、その際、分担金の値下げもあったため、収支は問題なく、特財率98.0%を達成した。展示内容もよく、来館者からは概ね好評であった。契丹文化理解に繋がったものと思われる。広報活動も、会期前半で対策会議を行い追加広報を行った。その成果が後半の観覧者増に結びついたと思われる。		
期待される成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・質の高い文化財の展示によって、契丹・遼王朝の文化の高さを知り、10世紀～12世紀にかけての東アジアの文化に対する理解を深める。</li> <li>・美術愛好者だけでなく、歴史に興味のある人の来館を期待したい。</li> </ul>			アンケートにみる特徴			
指標(数値目標)	観覧者数 44,000人			指標に基づく成果	観覧者数 34,245人 (77.8%)		
収支(予算)/観覧者数(見込)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観覧者数 44,000人</li> <li>・歳出 18,000千円</li> <li>・歳入 14,760千円</li> <li>・特財率 82.0%</li> </ul>			研究活動評価委員会からの意見(要約)			
広報戦略	<ul style="list-style-type: none"> <li>・共催の静岡新聞・静岡放送の協力のもと、歴史的観点なども交え多角的な広報を展開する。</li> <li>・講演会の開催なども積極的に広報し、知識を求めている人の来館も促す。</li> <li>・本展は、福岡、大阪、東京巡回であるので、巡回のない中京地区にも広報展開することを考える。</li> </ul>			収支(決算)/観覧者数(実績)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観覧者数 34,245人(目標 44,000人: 77.8%)</li> <li>・歳出 13,527千円&lt;概数&gt;(予算 18,000千円: 75.2%)</li> <li>・歳入 13,267千円&lt;概数&gt;(目標 14,760千円: 89.9%)</li> <li>・特財率 98.0%(目標 82.0%)</li> </ul>		
				今後の改善点・課題	多くの人が知らない「契丹」を広報するのが難しかった。口コミをどう拡げ、観覧者増に結びつけるか今後の課題である。		

【参考資料 2】

平成 23 年度調査・研究に関する自己点検評価報告書

---

調査・研究に関する自己点検 報告書

提出日 平成 24 年 3 月 26 日	
職・氏名	学芸部長・小針由紀隆
●専門分野	西洋美術
●所属学会	美術史学会、三田芸術学会
●主要研究テーマ	17世紀から19世紀前半のイタリアにおける風景画に関する諸問題
1. 今年一年間に執筆した主な論文 (カタログ論文・研究紀要・学術論文・学会発表・その他美術・美術館に関わる研究論文等)	
1 「アルカディア考ー牧人生活をめぐる文学と絵画」『桃源万歳』展図録 岡崎市美術博物館 平成 23 年 4 月	
2 「ローマとその近郊、そしてナポリへ」『芸術の花開く都市』展図録 静岡県立美術館 平成 23 年 7 月	
3 「ユベール・ロベールとイタリアーピトレスクなものを求めて」『ユベール・ロベール』展図録 国立西洋美術館ほか 平成 24 年 3 月	
	小計 3 本
2. 今年 1 年間に携わった展覧会及び普及事業	
1 企画展「芸術の花開く都市」展 副担当	
2 同展 美術講座「ローマ、ナポリ、そしてシチリアへ」	
3 「ふじのくに芸術祭 2011」 主担当。	
4 企画展「百花繚乱」展 フロアレクチャー 1 回	
5 出張美術講座 1 回	
	小計 5 本
3. 上記以外の専門領域活動及びその他の活動	
1 ふじのくに子ども芸術大学実行委員	
2 ふじのくに芸術祭企画委員	
3 ふじのくに芸術祭美術部門審査員	
4 静岡市美術館協議会委員	
5 静岡市美術館学芸採用試験委員	
6 静岡県舞台芸術評議員	
7 国立西洋美術館作品購入価格評価員	
8 文科省科学研究費補助金報告会 国立西洋美術館 平成 23 年 4 月	
9 京都国立博物館夏期講座 ハートピア京都 平成 23 年 7 月	
10 ムセイオン静岡「鉄道と画家(フランス編)」静岡県立美術館 平成 23 年 10 月	
11 世界の文化遺産・全学年共通講義 静岡県立大学 平成 23 年 12 月	
	小計 11 本
4. 収蔵作品に関する論文・発表等	
	計 0 本
合計 21 本	

調査・研究に関する自己点検 報告書

提出日 平成 24 年 3 月 26 日

職・氏名 学芸課長・飯田 真

- 専門分野 日本美術史
- 所属学会 美術史学会
- 主要研究テーマ 日本近世近代絵画史 富士山と美術、日本の風景表現

1. 今年一年間に執筆した主な論文  
(カタログ論文・研究紀要・学術論文・学会発表・その他美術・美術館に関わる研究論文等)

小計 0 本

2. 今年 1 年間に携わった展覧会及び普及事業

- 1 企画展「草原の王朝 契丹」展 主担当
- 2 収藏品展「富士山の絵画 2012」 担当

小計 2 本

5. 上記以外の専門領域活動及びその他の活動

- 1 豊橋市美術博物館 資料収集委員
- 2 静岡市文化財保護審議会委員
- 3 久能山総合調査研究員

小計 3 本

6. 収藏品に関する論文・発表等

小計 0 本

合計 5 本

調査・研究に関する自己点検 報告書

提出日 平成 24 年 3 月 29 日	
職・氏名	上席学芸員・南美幸
●専門分野	美学・美術史
●所属学会	美術史学会、日仏美術学会
●主要研究テーマ	西洋美術史、ロダン関連
1. 今年一年間に執筆した主な論文 (カタログ論文・研究紀要・学術論文・学会発表・その他美術・美術館に関わる研究論文等)	
1	研究ノート「蔵書から立ち現れるロダン」『アマリリス』104号 静岡県立美術館 平成 23 年 1 月
小計 1 本	
2. 今年 1 年間に携わった展覧会及び普及事業	
1	企画展「芸術の花開く都市」展 副担当
2	企画展「百花繚乱」展 フロアレクチャー 1 回
3	ロダン館タッチ・ツアー 3 回
4	中学校出張美術講座 1 回
5	ロダン賞受賞記念コンサート「クラリネットと名曲の午後」
小計 5 本	
7. 上記以外の専門領域活動及びその他の活動	
小計 0 本	
8. 収蔵作品に関する論文・発表等	
小計 0 本	
合計 6 本	

調査・研究に関する自己点検 報告書

提出日 平成 24 年 3 月 31 日	
職・氏名	上席学芸員・堀切正人
●専門分野	美術史
●所属学会	美術史学会、美学会
●主要研究テーマ	日本の近現代美術
<b>1. 今年一年間に執筆した主な論文</b> (カタログ論文・研究紀要・学術論文・学会発表・その他美術・美術館に関わる研究論文等)	
1 The Body and Printworks: On Noriko Yanagisawa's Works, <i>Noriko Yanagisawa Dreams of the Land</i> , Bengal Art Lounge, Dhaka 2 「鉄の言祝ぎ 金沢健一作品について」『金沢健一』展図録 川崎市立美術館	
小計 2 本	
<b>2. 今年 1 年間に携わった展覧会及び普及事業</b>	
1 新収蔵品展 フロアレクチャー 1 回 2 企画展 「小谷元彦 幽体の知覚」展 副担当 3 同展 フロアレクチャー 1 回 4 企画展 「川村清雄」企画、準備 5 他館巡回展 「石田徹也」企画、準備 6 収蔵品展 「彼方からの光」 担当 7 移動美術展 (沼津、浜松)、次年度移動美術展の準備 主担当 8 同展 ギャラリートーク 8 回 9 他館企画展 (三菱地所アルティウム)「石田徹也展」協力 10 企画展 「百花繚乱展」フロアレクチャー 2 回 11 同展 ワークショップ「もの・ひと・はこ」 12 同ワークショップ 講演会 1 回 13 ロダン館 フロアレクチャー 5 回 14 「ロダン館 やぐらプロジェクト」 15 「ロダン館 折り紙プロジェクト」 16 出張美術講座 9 回 17 出張ロダン体操 3 回 18 講義「実技系ワークショップの企画」 常葉学園大学造形学部 2 回 平成 23 年 6 月、7 月 19 講演 (富士市立博物館ボランティア研修) 平成 23 年 7 月 20 「ART!」ファシリテイト 21 「ARU?」企画 22 高校生ギャラリートーク 2 回 23 本原絵画教室ロダン館ワークショップ指導 平成 23 年 8 月 24 常葉美術館グリーンウッドセミナー講演 平成 23 年 10 月 25 鑑賞教育指導者研修会、講演 平成 23 年 12 月	
小計 25 本	
<b>9. 上記以外の専門領域活動及びその他の活動</b>	
1 「シズオカ×カンヌウィーク 2011 Tシャツデザインコンテスト」審査 2 講演「「箱と人」による展示 X+Y」展シンポジウム 平成 23 年 6 月 3 「「箱と人」展によせて」『「箱と人」による展示 X+Y』展パンフレット 4 「草薙地区まちづくりワークショップ」参加 5 回 5 講演「都市とアートと美術館 “プレーメン的・シズオカの”」シンポジウム“再開”(主催:静岡・プレーメンアートプロジェクト 2011 実行委員会) 平成 23 年 10 月 6 「日独交流 150 周年静岡・プレーメン国際交流 PROJECT DECWAS 展評」芸術批評誌『DARA DA MONDE』 7 「化石の虚実」『柴川敏之展』パンフレット (a piece of space APS, Tokyo)	
小計 7 本	
<b>10. 収蔵作品に関する論文・発表等</b>	
1 研究ノート「二つの来観者参加型ワークショップについて」『アマリス』105 号 平成 24 年 4 月	
小計 1 本	
合計 35 本	

調査・研究に関する自己点検 報告書

提出日 平成 24 年 3 月 29 日	
職・氏名	主査・伴野 潤
●専門分野	教育普及
●所属学会	
●主要研究テーマ	当館教育普及における学校連携について
1. 今年一年間に執筆した主な論文 (カタログ論文・研究紀要・学術論文・学会発表・その他美術・美術館に関わる研究論文等)	小計 0 本
2. 今年 1 年間に携わった展覧会及び普及事業  1 実技室イベント (通年) 2 出張美術講座 5 回 3 石巻市キヌヤ商店提供被災系によるワークショップ 清水ドリームプラザ 4 沖縄県立博物館・美術館教育普及視察の対応	小計 4 本
11. 上記以外の専門領域活動及びその他の活動  1 平成 23 年度静岡県「防火ポスター」審査員 2 平成 23 年度子どもたちの文化芸術鑑賞事業 3 キッズアートプロジェクト (6 館連携事業)	小計 3 本
12. 収蔵作品に関する論文・発表等	小計 0 本
合計 7 本	

調査・研究に関する自己点検 報告書

提出日 平成 24 年 3 月 22 日	
職・氏名	上席学芸員・新田建史
●専門分野	美学美術史
●所属学会	地中海学会、保存修復学会
●主要研究テーマ	西洋 16～18 世紀美術、東西美術交流史、東西版画史
<p>1. 今年一年間に執筆した主な論文 (カタログ論文・研究紀要・学術論文・学会発表・その他美術・美術館に関わる研究論文等)</p> <p>1 ポスターセッション「静岡県立美術館における、保存修復業務についての普及活動」第 33 回文化財保存修復学会大会 奈良県新公会堂 平成 23 年 6 月</p> <p>2 「静岡県立美術館の保存業務」『博物館研究』平成 23 年 7 月号</p> <p>3 「静岡県立美術館の地震防災体制について」『静岡県立美術館紀要』27 号 静岡県立美術館 平成 24 年 3 月</p> <p style="text-align: right;">小計 3 本</p>	
<p>2. 今年 1 年間に携わった展覧会及び普及事業</p> <p>1 企画展「百花繚乱展」 主担当</p> <p>2 同展 特別講演会 2 回</p> <p>3 同展 フロアレクチャー 3 回</p> <p>4 収蔵品展「オールド・マスターズ」 担当</p> <p>5 同展 フロアレクチャー 1 回</p> <p>6 収蔵品展「マスター・プリント」担当</p> <p>7 同展フロアレクチャー 1 回</p> <p style="text-align: right;">小計 7 本</p>	
<p>13. 上記以外の専門領域活動及びその他の活動</p> <p>1 文化財レスキュー（石巻市民文化センター） 平成 23 年 4 月、11 月</p> <p>2 講演「博物館園の地震防災—想定東海東南海地震に備える—」 静岡県博物館協会平成 23 年度第 1 回講習会（愛知県博物館協会と連続の講習会） 平成 23 年 10 月</p> <p>3 講演「美術館・博物館の地震災害」 文化財ボランティア入門講座（NPO 文化財を守る会主催）平成 23 年 11 月</p> <p style="text-align: right;">小計 3 本</p>	
<p>14. 収蔵作品に関する論文・発表等</p> <p>1 研究ノート「静岡県立美術館の害虫モニタリングについて」『アマリリス』102 号 静岡県立美術館 平成 23 年 7 月</p> <p>2 パネルディスカッション「百花繚乱展での試みについて」 第 7 回指定文化財（美術工芸品）企画・展示セミナー 平成 23 年 6 月</p> <p>（3 「静岡県立美術館の地震防災体制について」『静岡県立美術館紀要』27 号 【上記】）</p> <p style="text-align: right;">小計 2 本</p>	
合計 16 本	

調査・研究に関する自己点検 報告書

提出日 平成 24 年 3 月 22 日	
職・氏名	主査・鈴木雅道
●専門分野	教育普及
●所属学会	
●主要研究テーマ	当館教育普及における学校連携の可能性について
1. 今年一年間に執筆した主な論文 (カタログ論文・研究紀要・学術論文・学会発表・その他美術・美術館に関わる研究論文等)	
1 「学校と美術館の連携について～鑑賞教育指導者研修会の実践報告～」静岡県博物館協会 研究紀要 35号 平成 24 年 3 月	
	小計 1 本
2. 今年 1 年間に携わった展覧会及び普及事業	
1 収蔵品展「親子で楽しむ美術館—近代日本画にみる線と面—」	
2 実技室イベント (通年)	
3 石巻市キヌヤ商店提供被災糸によるワークショップ 清水ドリームプラザ	
4 第三回鑑賞教育指導者研修会	
5 出張美術講座	
6 第 51 回静岡県芸術祭	
	小計 6 本
15. 上記以外の専門領域活動及びその他の活動	
1 講演「学校と地域の連携」静岡県総合教育センター内生涯学習センター主催教員研修	
2 海上保安庁清水庁舎主催「青い海絵画コンクール」審査員	
	小計 2 本
16. 収蔵作品に関する論文・発表等	
	小計 0 本
合計 9 本	

調査・研究に関する自己点検 報告書

提出日 平成 24 年 3 月 31 日	
職・氏名	上席学芸員・川谷承子
●専門分野	現代美術
●所属学会	
●主要研究テーマ	日本とアメリカの戦後美術
1. 今年一年間に執筆した主な論文 (カタログ論文・研究紀要・学術論文・学会発表・その他美術・美術館に関わる研究論文等)	小計 本
2. 今年 1 年間に携わった展覧会及び普及事業 1 企画展「小谷元彦展 幽体の知覚」 主担当 2 収蔵品展「girl/woman/mother アーティストが描き出す少女、女、母のイメージ」 担当 3 企画展「カラーリミックス」展（準備） 担当	小計 3 本
17. 上記以外の専門領域活動及びその他の活動 1 寄贈申出作品の調査 2 寄託作品の調査・研究 3 磯辺行久氏からの寄託申出作品調査（アトリエへの訪問調査） 4 草間彌生《無題》の海外貸出クーリエ 5 地域連携活動（静岡アート郷土史プロジェクト芸術批評誌「DARA DA MONDE」座談会参加）	小計 5 本
18. 収蔵作品に関する論文・発表等	小計 本
合計 8 本	

調査・研究に関する自己点検 報告書

提出日 平成 24 年 3 月 26 日	
職・氏名	上席学芸員・村上敬
●専門分野	日本近代美術史、文化資源学
●所属学会	美学会、美術史学会、文化資源学会、明治美術学会
●主要研究テーマ	近代日本工芸・デザイン史
<p>1. 今年一年間に執筆した主な論文 (カタログ論文・研究紀要・学術論文・学会発表・その他美術・美術館に関わる研究論文等)</p> <p>1 口頭発表「工芸指導所と竹工芸—1930年代モダニズムから50年代ジャパニーズ・モダンをめぐるシンボリズム」 明治美術学会 2011年度第3回例会 平成23年9月</p> <p>2 論文「商工省工芸指導所と竹工芸—1930-1950年代の産業工芸をめぐって」 東京大学大学院人文社会系研究科修士論文 平成23年12月提出</p> <p style="text-align: right;">小計 2 本</p>	
<p>2. 今年1年間に携わった展覧会及び普及事業</p> <p>1 企画展 「川村清雄」展 (準備)</p> <p>2 企画展 「夏目漱石と美術」展 (準備)</p> <p style="text-align: right;">小計 2 本</p>	
<p>19. 上記以外の専門領域活動及びその他の活動</p> <p>1 ゲストレクチャー「評価がつなぐ アートと行政」(県立美術館の評価活動について岩瀬智久氏と対談) 東京大学大学院文化資源学研究室小林真理ゼミ勉強会 平成23年11月</p> <p style="text-align: right;">小計 1 本</p>	
<p>20. 収蔵作品に関する論文・発表等</p> <p style="text-align: right;">小計 0 本</p>	
合計 5 本	

調査・研究に関する自己点検 報告書

提出日 平成 24 年 3 月 21 日	
職・氏名	上席学芸員・泰井良
●専門分野	美学・美術史、ミュージアム・マネジメント
●所属学会	美術史学会、美学会、日本ミュージアム・マネジメント学会
●主要研究テーマ	近代美術史、ロダン、美術館評価・文化政策
<b>1. 今年一年間に執筆した主な論文</b> <b>(カタログ論文・研究紀要・学術論文・学会発表・その他美術・美術館に関わる研究論文等)</b>	
1 「江戸から東京へ-「変わる風景」「変わらない風景」-」『芸術の花開く都市』展図録 静岡県立美術館 平成 23 年 7 月 2 「京都・大阪・神戸-それぞれの都市と芸術-」『芸術の花開く都市』展図録 静岡県立美術館 平成 23 年 7 月 3 コラム「雲と近代」『芸術の花開く都市』展図録 静岡県立美術館 平成 23 年 7 月	
小計 3 本	
<b>2. 今年 1 年間に携わった展覧会及び普及事業</b>	
1 企画展 「芸術の花開く都市」展 2 企画展 「草原の王朝 契丹」展 副担当	
小計 2 本	
<b>21. 上記以外の専門領域活動及びその他の活動</b>	
1 佐々木亨・泰井良「博物館を評価する-ODA の評価方法・枠組みと比較して」『日本ミュージアム・マネジメント学会研究紀要』第 16 号 平成 24 年 3 月	
小計 1 本	
<b>22. 収蔵作品に関する論文・発表等</b>	
1 研究ノート「曾宮一念《毛無連峯》に関する一試論～「もうひとつの絶筆」をめぐって～」『アマリス』103 号 静岡県立美術館 平成 23 年 10 月 (2 「江戸から東京へ-「変わる風景」「変わらない風景」-」『芸術の花開く都市』展図録 平成 23 年 7 月 3 「京都・大阪・神戸-それぞれの都市と芸術-」『芸術の花開く都市』展図録 平成 23 年 7 月 4 コラム「雲と近代」『芸術の花開く都市』展図録 平成 23 年 7 月 【上記】)	
小計 1 本	
合計 7 本	

調査・研究に関する自己点検 報告書

提出日 平成 24 年 3 月 31 日	
職・氏名	主任学芸員・石上充代 (平成 23 年 8 月 10 日より産休)
●専門分野	近世・近代日本画
●所属学会	美術史学会
●主要研究テーマ	十八世紀以降近代までの日本画
1. 今年一年間に執筆した主な論文 (カタログ論文・研究紀要・学術論文・学会発表・その他美術・美術館に関わる研究論文等)	
1 「祈りと風景をめぐる諸相—京都国立博物館コレクションから」『京都国立博物館名品展 京都千年の美の系譜—祈りと風景—』図録 平成 23 年 10 月	
小計 1 本	
2. 今年 1 年間に携わった展覧会及び普及事業	
1 企画展「京都国立博物館名品展 京都千年の美の系譜—祈りと風景—」 主担当 (～8 月)	
2 収藏品展「親子で楽しむ美術館 近代日本画にみる線と面」 担当	
3 同展 フロアレクチャー	
4 同展 親子鑑賞講座	
小計 4 本	
23. 上記以外の専門領域活動及びその他の活動	
小計 本	
24. 収藏品に関する論文・発表等	
小計 本	
合計 5 本	

調査・研究に関する自己点検 報告書

提出日 平成 24 年 3 月 21 日	
職・氏名	主任学芸員・福士雄也
●専門分野	美術史
●所属学会	美術史学会、近世絵画研究会
●主要研究テーマ	近世絵画史
<p>1. 今年一年間に執筆した主な論文 (カタログ論文・研究紀要・学術論文・学会発表・その他美術・美術館に関わる研究論文等)</p> <p>1 「京都上る下る一洛中洛外図を歩く」『京都国立博物館名品展 京都千年の美の系譜—祈りと風景』図録 静岡県立美術館 平成 23 年 10 月</p> <p>2 「服部永錫蒐集の書画帖—《縮地妙詮帖》とその周辺—」『静岡県立美術館紀要』27 号 静岡県立美術館 平成 24 年 3 月</p> <p style="text-align: right;">小計 2 本</p>	
<p>2. 今年 1 年間に携わった展覧会及び普及事業</p> <p>1 企画展「京都国立博物館名品展 京都千年の美の系譜—祈りと風景—」主担当</p> <p>2 同展 特別講演会 2 回</p> <p>3 同展 美術講座「洛中洛外図を歩く」</p> <p>4 同展 フロアレクチャー 5 回</p> <p>5 収蔵品展「円山・四条派の絵画」展 担当</p> <p>6 同展 フロアレクチャー 1 回</p> <p>7 収蔵品展「日本画—春の景」展 担当</p> <p>8 同展 フロアレクチャー 1 回</p> <p>9 出張美術講座 1 回</p> <p>10 中学生事業出張美術講座 1 回</p> <p style="text-align: right;">小計 10 本</p>	
<p>25. 上記以外の専門領域活動及びその他の活動</p> <p>1 口頭発表「上方版画と伊藤若冲」(城西大学水田美術館建設記念シンポジウム「近世版画の色と技」、城西大学紀尾井キャンパス) およびパネルディスカッション 平成 23 年 6 月</p> <p style="text-align: right;">小計 1 本</p>	
<p>26. 収蔵作品に関する論文・発表等</p> <p>(1 「服部永錫蒐集の書画帖—《縮地妙詮帖》とその周辺—」『静岡県立美術館紀要』27 号 静岡県立美術館 平成 24 年 3 月 【上記】)</p> <p style="text-align: right;">小計 (1) 本</p>	
合計 13 本	

調査・研究に関する自己点検 報告書

提出日 平成 24 年 3 月 21 日	
職・氏名	臨時技術員・大原由佳子
●専門分野	日本画
●所属学会	なし
●主要研究テーマ	安土桃山時代を中心とした大画面絵画（特に長谷川派関係の作品）
1. 今年一年間に執筆した主な論文 (カタログ論文・研究紀要・学術論文・学会発表・その他美術・美術館に関わる研究論文等)	小計 0 本
2. 今年 1 年間に携わった展覧会及び普及事業	
1 企画展「草原の王朝 契丹」展 副担当 2 同展 フロアレクチャー 3 出張美術講座 5 回	小計 3 本
27. 上記以外の専門領域活動及びその他の活動	小計 0 本
28. 収蔵作品に関する論文・発表等	小計 0 本
合計 3 本	

## Ⅱ-2

平成 23 年度

### 静岡県立美術館評価業務 報告書

---

- 1 概要
- 2 美術館評価指標の現状値
- 3 展覧会 アンケート
- 4 レストラン アンケート
- 5 ミュージアム・ショップ アンケート
- 6 県立美術館ホームページ アンケート
- 7 静岡県立美術館評価システムのバージョン・アップ  
に向けて

## 1 調査概要

### (1) 調査目的

静岡県立美術館では、評価委員会提言「評価と経営の確立に向けて」（平成 17 年 3 月）を踏まえ、館長公約を柱とする自己評価システムの体系を構築している。

今般、館の全体像を把握する評価指標を整理するためアンケート調査を実施した。

### (2) 実施概要

	小谷元彦 幽体の知覚展	芸術の花開く都市展	京都千年の美の系譜 —祈りと風景
会期	平成 23 年 5 月 28 日 ～7 月 10 日	平成 23 年 7 月 19 日 ～9 月 8 日	平成 23 年 10 月 22 日 ～12 月 4 日
開催日数	38 日	46 日	38 日
観覧者数	10,904 人	15,368 人	24,140 人
1 日あたり平均観覧者数	286.9 人/日	334.1 人/日	635.3 人/日
アンケート実施日	6/3 (金) 23 件	7/22 (金) 28 件	10/26 (月) 35 件
	6/5 (日) 73 件	7/23 (土) 43 件	11/ 4 (金) 33 件
	6/9 (木) 24 件	8/4 (木) 46 件	11/ 6 (日) 49 件
	6/15 (水) 37 件	8/7 (日) 43 件	11/12 (土) 41 件
	6/18 (土) 52 件	8/20 (土) 32 件	11/17 (木) 40 件
	6/25 (土) 40 件	8/24 (水) 32 件	11/23 (水祝) 42 件
アンケート実施数	249 件	224 件	240 件
アンケート実施率(回収率) ※観覧者数に占める実施の割合	2.28%	1.46%	0.99%

### (3) 報告書内のデータ記述について

- ・比率はすべて百分率で表し、小数点以下第 2 位を四捨五入して算出した。そのために、比率の合計が 100%にならないことがある。
- ・基数とすべき実数は、表中に「件数」として記載した。比率はこの基数を 100%として算出している。
- ・質問の選択肢から複数回答を認めている場合、比率の合計は通常 100%を超える。

#### (4) 結果概要

	小谷元彦 幽体の知覚展		芸術の花開く都市展		京都千年の美の系譜 一祈りと風景
① 展覧会満足度 (展覧会別)	90.0%		90.0%		89.9%
	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
② 展覧会満足度 (経年)	92.3%	89.9%	86.8%	90.8%	90.8%
③ レストラン満足度	61.7%	54.5%	68.8%	53.8%	71.3%
④ ミュージアム・ショップ満足度	76.9%	80.6%	84.4%	85.6%	86.8%
⑤ ホームページ満足度	70.0%	74.3%	71.9%	74.3%	71.7%

#### (5) 提言

##### 満足度と評価の相関

問	B (1)	B (2)	B (3)	B (5)	B (6)
評価	作品やテーマ についての興味・関心	展覧会会場の 心地よさ	美術館のスタ ッフの対応	当美術館に関 する情報入手 のしやすさ	交通機関の利 用はスムーズ さ
相関係数	0.518	0.504	0.352	0.269	0.244

※算出方法：展覧会の評価【B (1) ~ (7) ((4) は除く)】の5段階評価を1点~5点に置き換えて相関係数を算出した。ただし、無回答については「どちらともいえない (3点)」と換算した。

※相関係数：-1~1をとる係数で、0に近いほど相関は薄い。1に近づくほど正の相関が、-1に近づくほど負の相関がある。(0.0~±0.2…ほとんど相関がない/±0.2~0.4…やや相関がある/±0.4~±0.7…相関がある/±0.7~±0.9…強い相関がある/±0.9~±1.0…極めて強い相関がある)

相関係数をみると、評価が高いほど満足度も高い傾向にある項目は、

B (1) 作品やテーマについての興味関心

B (2) 展覧会会場の心地よさ

B (3) この展覧会の事を勧めたいか

の3つであった。

これらのうち、「作品やテーマについての興味関心」及び「展覧会会場の心地よさ」について自由回答 (B (10) 展覧会や美術館へのご指摘・ご意見) より質的データを吸い上げ、満足度向上のための効果的な改善点を導き出す。分類と性質に分けて整理した自由意見 (下記表) のうち、「作品やテーマについての興味関心」については“2-B: 企画全般への要望”及び“3-B: 展示方法への要望”から、「展覧会会場の心地よさ」については、“4-B: 施設・環境への要望”及び“4-C: 施設・環境への苦情”から多くみられたものを抜粋する。

### 自由意見の分類・性質別件数

	1			2			3			4			5		
	今回の展覧会			企画全般			展示方法			施設・環境			運営・スタッフ		
	A 感想	B 要望	C 苦情												
小谷元彦 幽体の知覚展	31	1	0	1	20	1	4	6	5	6	3	5	3	3	3
芸術の花開く都市展	11	0	3	4	14	1	0	4	2	5	4	16	0	6	2
京都千年の美の系譜 —祈りと風景	11	1	4	2	8	1	0	9	3	3	2	5	1	9	5
全体	53	2	7	7	42	3	4	19	10	14	9	26	4	18	10

単位：件

#### ①作品やテーマについての興味関心に関わるご意見（2-B、3-Bより）

#### 現代美術への興味関心多数

- ▶ こういう現代美術の展覧会も増やしてほしいです。【女性／13～19歳】
- ▶ 現代美術（現在活躍している）作家が観たい。ある一定レベル以上のもの。【男性／40歳代】
- ▶ アーティストトークに参加できて、本当によかったです。現代美術の展示を今後も時々やっていただければ、遠方からの来館者も増えると思うし、若い人も来られると思う。【女性／40歳代】
- ▶ 素敵な展示でした。また観たいです。現代アートをもっとやってください。【女性／20歳代】

#### 作品解説の工夫や充実への要望多数

- ▶ 解説をもう少し充実させてほしいです。美術館は好きだけど、知識はあまりないので。【女性／30歳代】
- ▶ 音声ガイドの説明の絵の数を全部入れていただければ、もっと多くの人が観賞できると思います。【男性／70歳以上】
- ▶ もう少し、一般向けの説明・美術史的なものだけでなく、気軽に読める説明があれば、“ちょっと興味のある友人”を連れてきやすいと思います。【女性／30歳代】
- ▶ 説明文がもう少ししていねいだとわかりやすいかな、と思いました。特に「書」類は何が書いてあるのかさっぱり謎で……。【女性／50歳代】
- ▶ 展示の和歌などの文字は私ども一般市民にはもう読めないものです。是非、現代の文字にして解説を。【男性／60歳代】

#### ②展覧会会場の心地よさに関わるご意見（4-B、4-Cより）

#### 館内の椅子について

- ▶ 熱心に見ると疲れるので、もう少し椅子の設置やくつろげる場所があるとありがたい。【女

性／50 歳代】

## 館内の温度について

- 寒いです。【女性／30 歳代】
- 少々、温度が低かったと思います。【男性／40 歳代】
- 美術館の中がとても寒いです。仕方がないと思いますが。【女性／40 歳代】

## 駐車場について

- 上の駐車場が狭いので、もっと広いといいと思う。【女性／60 歳代】
- 歳のせいで駐車場が遠く感じます。【男性／60 歳代】
- 駐車場が遠い。日影が少ない。【女性／40 歳代】

## 2 美術館評価指標の現状値

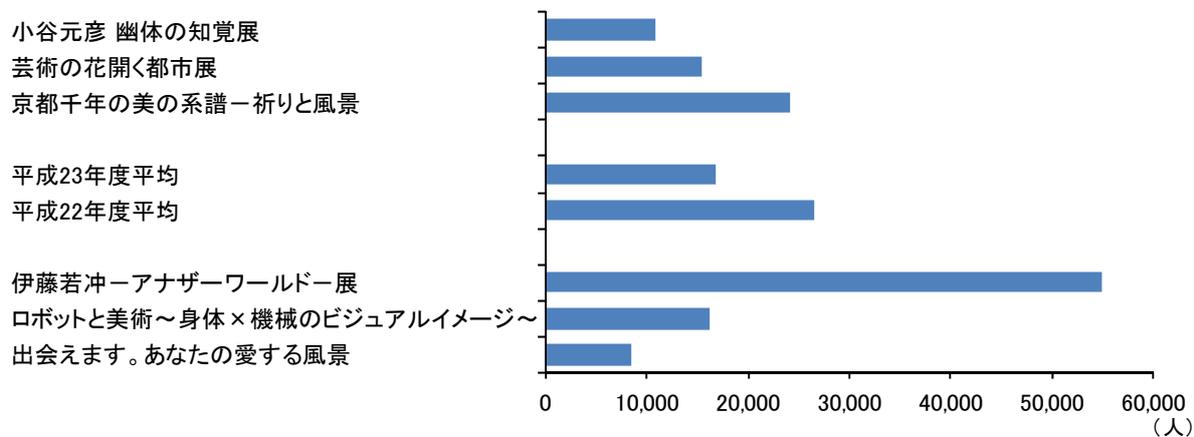
			H22 実績	H23 実績	展覧会			
					A※	B※	C※	
A	2	展覧会リピート率	78.5%	84.3%	79.6%	83.9%	89.6%	
	3	展覧会満足度	90.8%	90.8%	92.3%	90.0%	89.9%	
	8	観賞環境満足度	89.8%	90.4%	89.1%	92.3%	90.0%	
B	23	風景美術館認知度	22.6%	32.2%	30.0%	34.3%	32.5%	
C	25	情報が「入手しやすい」	69.4%	70.6%	69.6%	66.8%	74.9%	
	26	公共交通機関アクセス満足度	75.8%	81.8%	80.0%	81.8%	85.8%	
	27	自家用車アクセス満足度	72.0%	69.2%	71.5%	65.2%	75.0%	
	29	スタッフ対応満足度	79.6%	85.8%	88.7%	84.7%	84.0%	
	34	レストラン満足度	53.8%	71.3%				
	36	ミュージアム・ショップ満足度	85.6%	86.8%				
D	46	ホームページ満足度	74.3%	71.7%				
	51	展覧会での新規観覧者の割合	21.5%	15.7%	20.5%	16.1%	10.4%	
	52	展覧会での新規観覧者満足度	90.0%	92.8%	90.0%	94.5%	96.0%	
	53	地域別利用者割合	東部	15.6%	17.4%	13.0%	19.3%	20.1%
			中部	54.9%	56.4%	55.2%	55.5%	58.2%
			西部	15.2%	15.9%	17.2%	15.1%	15.5%
			県外	14.3%	10.3%	14.6%	10.1%	6.3%
54	2・3世代観覧割合	26.5%	22.8%	15.9%	29.8%	23.1%		

※) 展覧会 A . . . . . 小谷元彦幽体の知覚展  
 展覧会 B . . . . . 芸術の花開く都市展  
 展覧会 C . . . . . 京都千年の美の系譜－祈りと風景

### 3 展覧会アンケート結果

#### (1) 回収状況

		観覧者数 (人)	回収数 (件)	回収率 (%)
平成 23 年度	小谷元彦 幽体の知覚展	10,904	249	2.3
	芸術の花開く都市展	15,368	224	1.5
	京都千年の美の系譜 ー祈りと風景	24,140	240	1.0
経 年	平成23年度平均	16,804	238	1.4
	平成22年度平均	26,517	265	1.0
平成 22 年度	伊藤若冲 ーアナザーワールドー展	54,937	338	0.6
	ロボットと美術～身体 ×機械のビジュアルイメージ～ 出会えます。	16,197	275	1.7
	あなたの愛する風景	8,417	181	2.2



(2) 観覧者の属性

①性別

全体

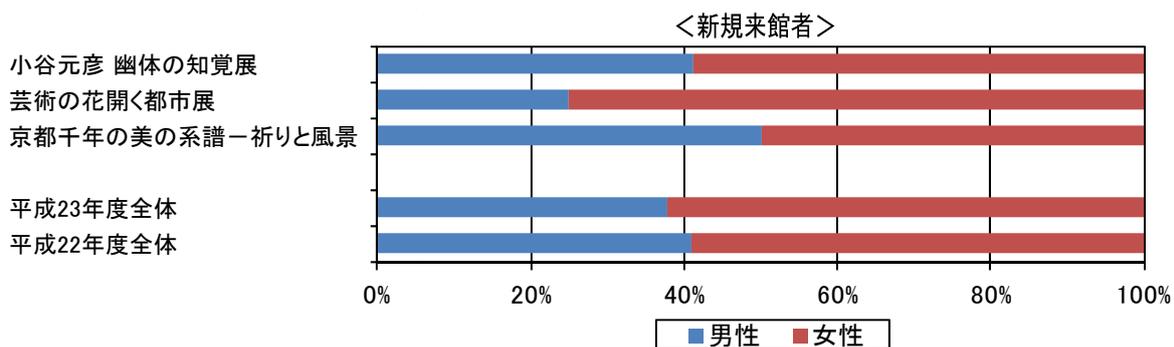
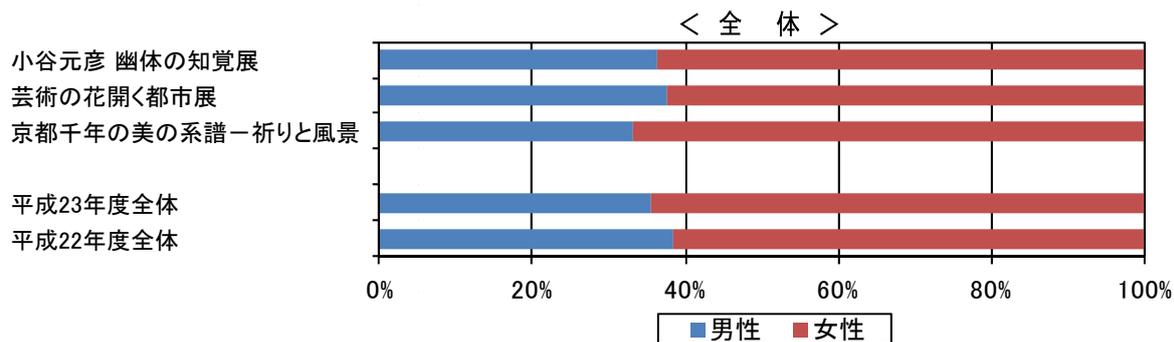
		件数 (件)	男性	女性
平成 23 年度	小谷元彦 幽体の知覚展	248	36.3	63.7
	芸術の花開く都市展	221	37.6	62.4
	京都千年の美の系譜 ー 祈りと風景	239	33.1	66.9
経 年	平成 23 年度全体		35.6	64.4
	平成 22 年度全体		38.5	61.5
平成 22 年度	伊藤若冲 ーアナザーワールドー展	332	31.9	68.1
	ロボットと美術～身体 ×機械のビジュアルイメージ～	274	51.8	48.2
	出会えます。 あなたの愛する風景	179	31.8	68.2

単位：%

新規来館者

		件数 (件)	男性	女性
平成 23 年度	小谷元彦 幽体の知覚展	51	41.2	58.8
	芸術の花開く都市展	36	25.0	75.0
	京都千年の美の系譜 ー 祈りと風景	24	50.0	50.0
経 年	平成 23 年度全体		37.8	62.2
	平成 22 年度全体		40.9	59.1
平成 22 年度	伊藤若冲 ーアナザーワールドー展	78	34.6	65.4
	ロボットと美術～身体 ×機械のビジュアルイメージ～	81	63.0	37.0
	出会えます。 あなたの愛する風景	20	25.0	75.0

単位：%



〈全体〉を見ると、平成23年度全体は、「男性」が35.6%、「女性」が64.4%と、例年通り女性が多い傾向となっている。

〈新規来館者〉をみると、『芸術の花開く都市展』では「女性」(75.0%)が通常より多く、『京都千年の美の系譜—祈りと風景』では「男性」(50.0%)が通常より多くなっている。

②年齢層

全体

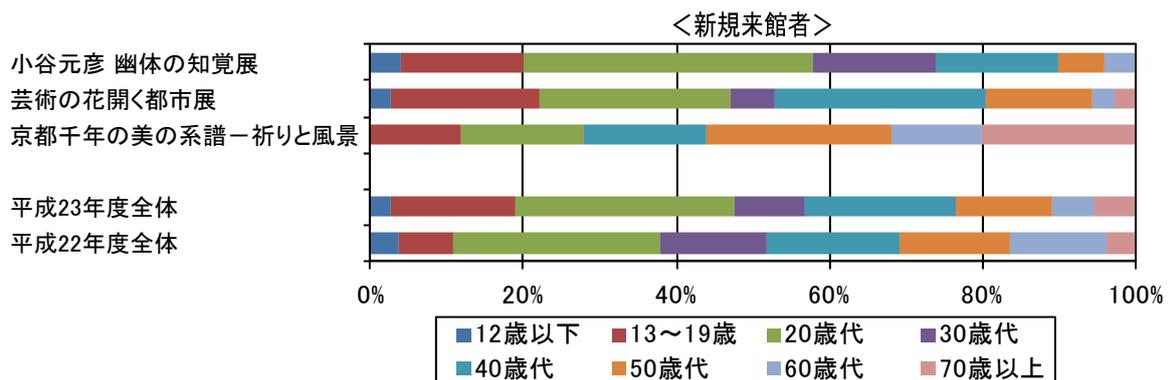
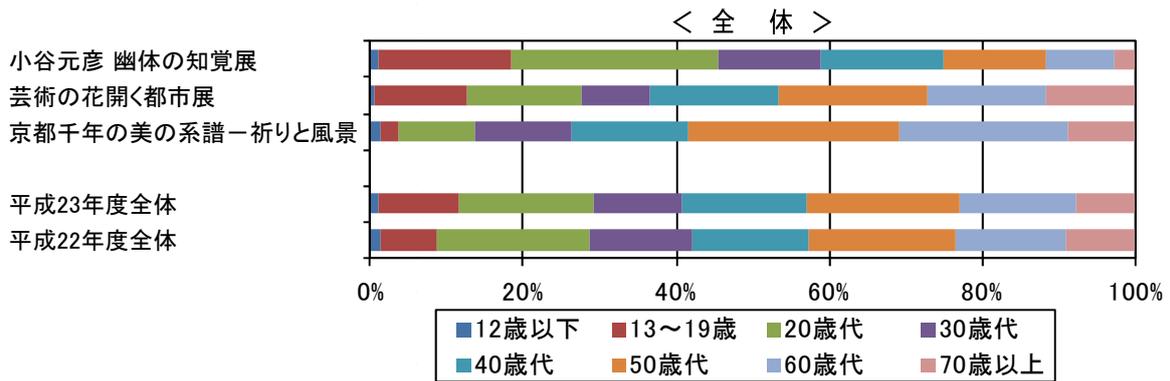
		件数 (件)	12 歳 以下	13 ～ 19 歳	20 歳 代	30 歳 代	40 歳 代	50 歳 代	60 歳 代	70 歳 以上
平成 23 年度	小谷元彦 幽体の知覚展	248	1.2	17.3	27.0	13.3	16.1	13.3	8.9	2.8
	芸術の花開く都市展	221	0.5	12.2	14.9	9.0	16.7	19.5	15.4	11.8
	京都千年の美の系譜 ー祈りと風景	240	1.3	2.5	10.0	12.5	15.4	27.5	22.1	8.8
経 年	平成 23 年度全体		1.0	10.7	17.5	11.7	16.1	20.0	15.4	7.6
	平成 22 年度全体		1.3	7.4	19.9	13.5	15.2	19.3	14.5	8.9
平成 22 年度	伊藤若冲 ーアナザーワールドー展	334	2.1	5.7	11.1	14.7	12.3	22.5	22.8	9.0
	ロボットと美術～身体 ×機械のビジュアルイメージ～ 出会えます。	273	1.1	9.2	32.6	18.7	18.3	13.2	3.7	3.3
	あなたの愛する風景	180	0.6	7.2	16.1	7.2	15.0	22.2	17.2	14.4

単位：%

新規来館者

		件数 (件)	12 歳 以下	13 ～ 19 歳	20 歳 代	30 歳 代	40 歳 代	50 歳 代	60 歳 代	70 歳 以上
平成 23 年度	小谷元彦 幽体の知覚展	50	4.0	16.0	38.0	16.0	16.0	6.0	4.0	0.0
	芸術の花開く都市展	36	2.8	19.4	25.0	5.6	27.8	13.9	2.8	2.8
	京都千年の美の系譜 ー祈りと風景	25	0.0	12.0	16.0	0.0	16.0	24.0	12.0	20.0
経 年	平成 23 年度全体		2.7	16.2	28.8	9.0	19.8	12.6	5.4	5.4
	平成 22 年度全体		3.8	7.1	27.0	13.8	17.6	14.3	12.6	3.8
平成 22 年度	伊藤若冲 ーアナザーワールドー展	78	5.1	10.3	15.4	15.4	17.9	17.9	11.5	6.4
	ロボットと美術～身体 ×機械のビジュアルイメージ～ 出会えます。	81	1.2	6.2	40.7	21.0	19.8	9.9	1.2	0.0
	あなたの愛する風景	20	5.0	5.0	25.0	5.0	15.0	15.0	25.0	5.0

単位：%



〈全体〉をみると、平成23年度で最も多い年代は「50歳代」の20.0%となっている。『小谷元彦 幽体の知覚展』は他の展覧会と比べて「20歳代」(27.0%)が多く、また、『京都千年の美の系譜－祈りと風景』は「50歳代」(27.5%)が多いという特長がそれぞれみられる。

〈新規来館者〉をみると、平成23年度で最も多い年代は「20歳代」の28.8%で、〈全体〉とは異なる傾向となっている。展覧会別でみると、特に『小谷元彦 幽体の知覚展』で「20歳代」(38.0%)の新規来館者が多い。

③居住地

全体

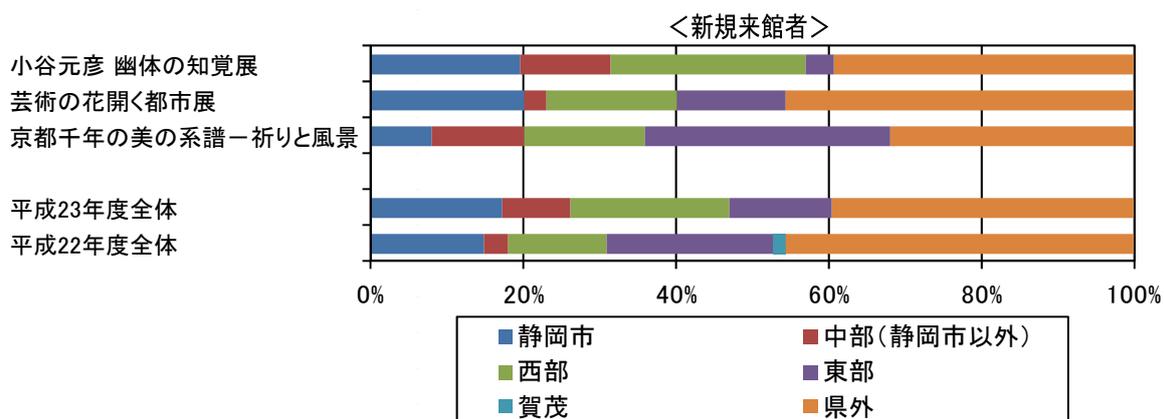
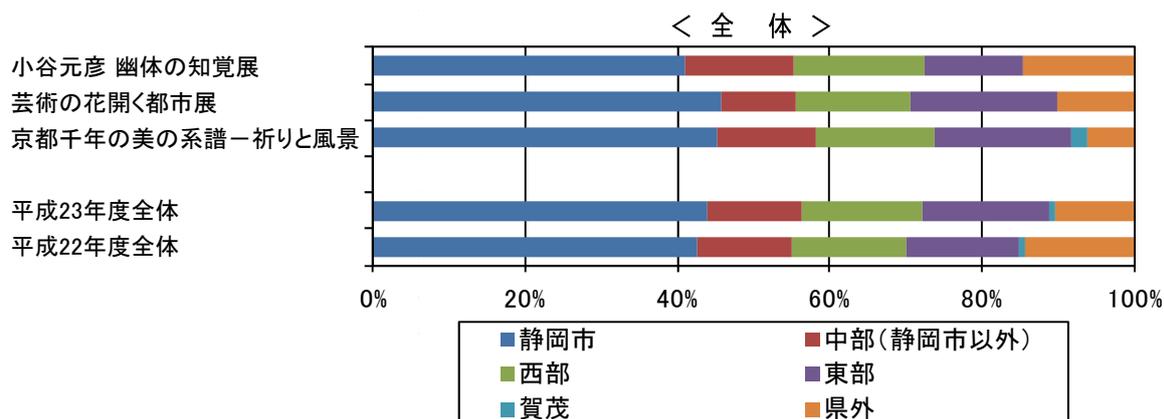
		件数 (件)	静岡 市	中部 (静岡 市以外)	西 部	東 部	賀 茂	県 外
平成 23 年度	小谷元彦 幽体の知覚展	239	41.0	14.2	17.2	13.0	0.0	14.6
	芸術の花開く都市展	218	45.9	9.6	15.1	19.3	0.0	10.1
	京都千年の美の系譜 ー祈りと風景	239	45.2	13.0	15.5	18.0	2.1	6.3
経 年	平成 23 年度全体		44.0	12.4	15.9	16.7	0.7	10.3
	平成 22 年度全体		42.7	12.2	15.2	14.8	0.8	14.3
平成 22 年度	伊藤若冲 ーアナザーワールドー展	326	35.3	13.2	17.2	16.6	0.6	17.2
	ロボットと美術～身体 ×機械のビジュアルイメージ～ 出会えます。	270	44.8	13.7	13.0	11.9	0.0	16.7
	あなたの愛する風景	175	48.0	9.7	15.4	16.0	1.7	9.1

単位: %

新規来館者

		件数 (件)	静岡 市	中部 (静岡 市以外)	西 部	東 部	賀 茂	県 外
平成 23 年度	小谷元彦 幽体の知覚展	51	19.6	11.8	25.5	3.9	0.0	39.2
	芸術の花開く都市展	35	20.0	2.9	17.1	14.3	0.0	45.7
	京都千年の美の系譜 ー祈りと風景	25	8.0	12.0	16.0	32.0	0.0	32.0
経 年	平成 23 年度全体		17.1	9.0	20.7	13.5	0.0	39.6
	平成 22 年度全体		14.7	3.4	12.8	21.9	1.7	45.6
平成 22 年度	伊藤若冲 ーアナザーワールドー展	77	10.4	2.6	20.8	22.1	0.0	44.2
	ロボットと美術～身体 ×機械のビジュアルイメージ～ 出会えます。	80	18.8	7.5	12.5	13.8	0.0	47.5
	あなたの愛する風景	20	15.0	0.0	5.0	30.0	5.0	45.0

単位: %



〈全体〉をみると、「静岡市」が44.0%と最も多く4割以上を占め、「中部(静岡市以外)」(12.4%)、「西部」(15.9%)、「東部」(16.7%)はそれぞれ1割台と、例年同様の傾向となっている。

〈新規来館者〉をみると〈全体〉に比べて「県外」来館者が多い傾向となっている。また、平成23年度は前年度に比べて「中部(静岡市以外)」及び「西部」からの来館者数が増加している。

### 美術館カルテ 53 地域別の利用者の割合

		中部	西部	東部
平成23年度	小谷元彦 幽体の知覚展	55.2	17.2	13.0
	芸術の花開く都市展	55.5	15.1	19.3
	京都千年の美の系譜－祈りと風景	58.2	15.5	20.1
経年	平成23年度全体	56.4	15.9	17.4
	平成22年度全体	54.9	15.2	15.6
平成22年度	伊藤若冲－アナザーワールド－展	48.5	17.2	17.2
	ロボットと美術～身体×機械のビジュアルイメージ～	58.5	13.0	11.9
	出会えます。あなたの愛する風景	57.7	15.4	17.7

単位：%

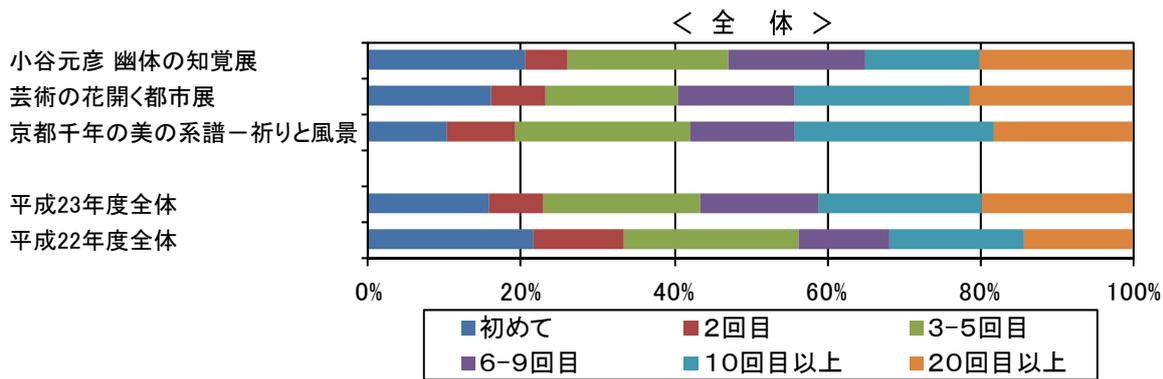
(3) 観覧者行動

①来館回数

全体

		件数 (件)	初 め て	2 回 目	3 - 5 回 目	6 - 9 回 目	上 1 0 回 目 以	上 2 0 回 目 以
平成 23 年 度	小谷元彦 幽体の知覚展	249	20.5	5.6	20.9	18.1	14.9	20.1
	芸術の花開く都市展	224	16.1	7.1	17.4	15.2	22.8	21.4
	京都千年の美の系譜 - 祈りと風景	240	10.4	8.8	22.9	13.8	25.8	18.3
経 年	平成 23 年度全体		15.7	7.2	20.5	15.7	21.0	19.9
	平成 22 年度全体		21.5	11.9	22.9	12.0	17.5	14.3
平成 22 年 度	伊藤若冲 - アナザーワールド- 展	333	23.7	12.3	16.8	13.8	19.8	13.5
	ロボットと美術～身体 ×機械のビジュアルイメージ～	275	29.5	12.7	23.3	10.9	13.8	9.8
	出会えます。 あなたの愛する風景	179	11.2	10.6	28.5	11.2	19.0	19.6

単位: %



平成 23 年の「初めて」（新規来館者）は 15.7%と、前年度に比べ少なくなっている。展覧会別にみると、「初めて」（新規来館者）が最も多いのは『小谷元彦 幽体の知覚展』の 20.5%、次いで『芸術の花開く都市展』の 16.1%、『京都千年の美の系譜－祈りと風景』が最も少なく 10.4%となっている。

**評価指標 4** 新規来館者の割合

**美術館カルテ 2** リピート率

		新規来館者の割合	リピート率
平成 23 年度	小谷元彦 幽体の知覚展	20.5	79.6
	芸術の花開く都市展	16.1	83.9
	京都千年の美の系譜－祈りと風景	10.4	89.6
経 年	平成 23 年度全体	15.7	84.3
	平成 22 年度全体	21.5	78.5
平成 22 年度	伊藤若冲－アナザーワールド－展	23.7	76.3
	ロボットと美術～身体×機械のビジュアルイメージ～	29.5	70.5
	出会えます。あなたの愛する風景	11.2	88.8

単位：%

②来館人数

全体

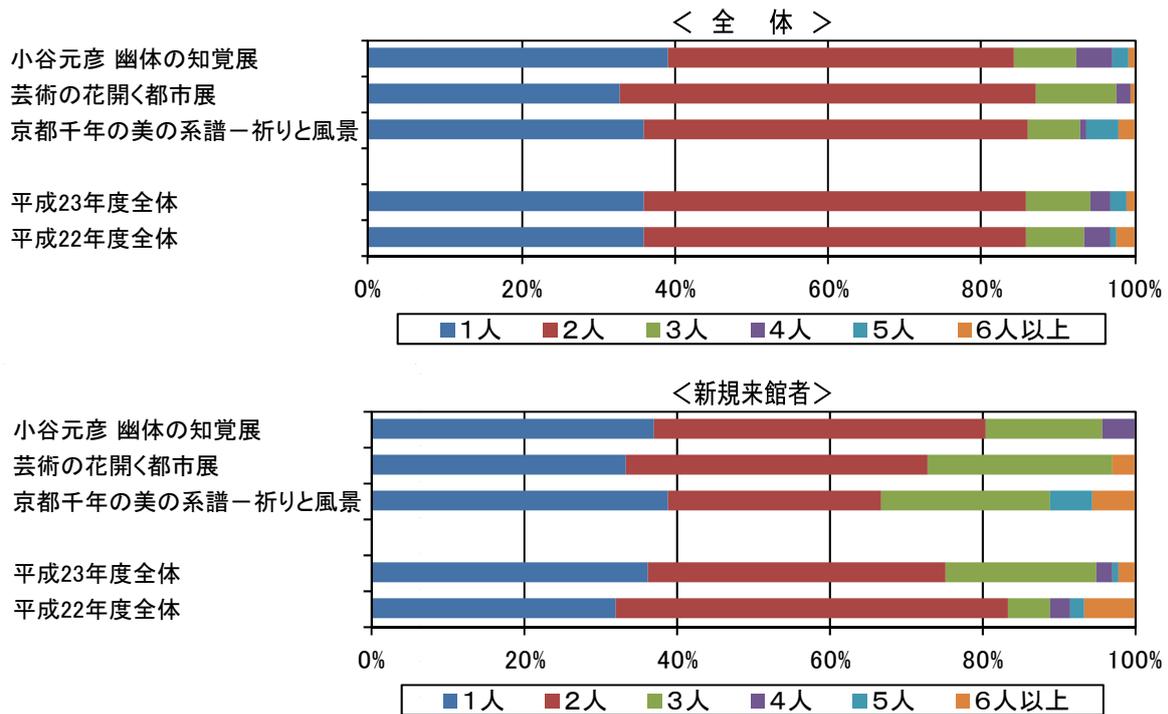
		件数 (件)	1 人	2 人	3 人	4 人	5 人	6 人 以上
平成 23 年度	小谷元彦 幽体の知覚展	236	39.0	45.3	8.1	4.7	2.1	0.8
	芸術の花開く都市展	211	32.7	54.5	10.4	1.9	0.0	0.5
	京都千年の美の系譜 ー祈りと風景	223	35.9	50.2	6.7	0.9	4.0	2.2
経 年	平成 23 年度全体		36.0	49.9	8.4	2.5	2.1	1.2
	平成 22 年度全体		36.1	49.8	7.7	3.3	0.8	2.4
平成 22 年度	伊藤若冲 ーアナザーワールドー展	266	32.3	50.8	10.2	4.9	0.0	1.9
	ロボットと美術～身体 ×機械のビジュアルイメージ～ 出会えます。	260	37.7	43.8	10.0	3.8	2.3	2.3
	あなたの愛する風景	173	38.2	54.9	2.9	1.2	0.0	2.9

単位: %

新規来館者

		件数 (件)	1 人	2 人	3 人	4 人	5 人	6 人 以上
平成 23 年度	小谷元彦 幽体の知覚展	46	37.0	43.5	15.2	4.3	0.0	0.0
	芸術の花開く都市展	33	33.3	39.4	24.2	0.0	0.0	3.0
	京都千年の美の系譜 ー祈りと風景	18	38.9	27.8	22.2	0.0	5.6	5.6
経 年	平成 23 年度全体		36.1	39.2	19.6	2.1	1.0	2.1
	平成 22 年度全体		32.0	51.4	5.6	2.6	1.8	6.7
平成 22 年度	伊藤若冲 ーアナザーワールドー展	62	27.4	50.0	11.3	6.5	0.0	4.8
	ロボットと美術～身体 ×機械のビジュアルイメージ～ 出会えます。	74	35.1	48.6	5.4	1.4	5.4	4.1
	あなたの愛する風景	18	33.3	55.6	0.0	0.0	0.0	11.1

単位: %



〈全体〉をみると、平成23年度は「2人」が49.9%と最も多く、次いで「1人」が36.0%、「3人」が8.4%とこれらが合わせて9割以上を占め、前年度と同様の傾向となっている。

〈新規来館者〉をみると、「2人」(39.2%)と「1人」(36.1%)がほぼ同様となっており、「3人」の19.6%は〈全体〉に比べて多くなっている。

③来館時の同伴者

全体

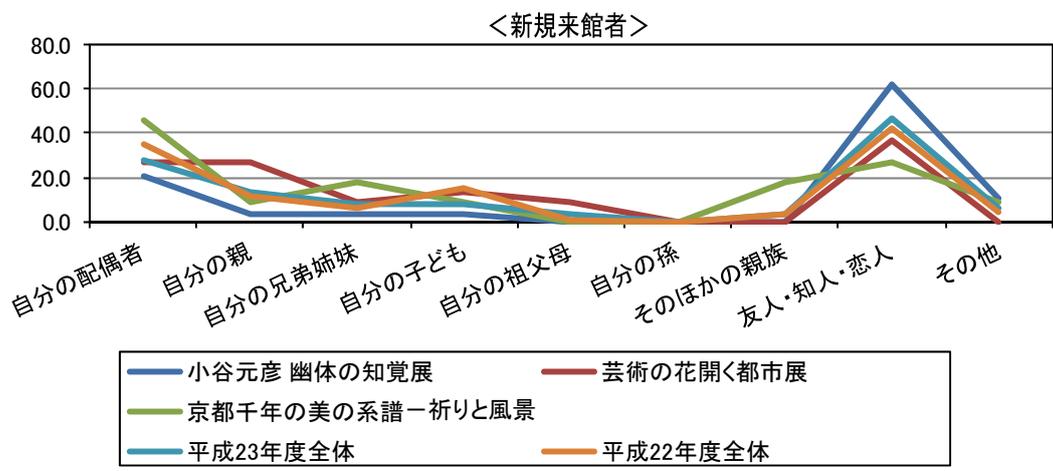
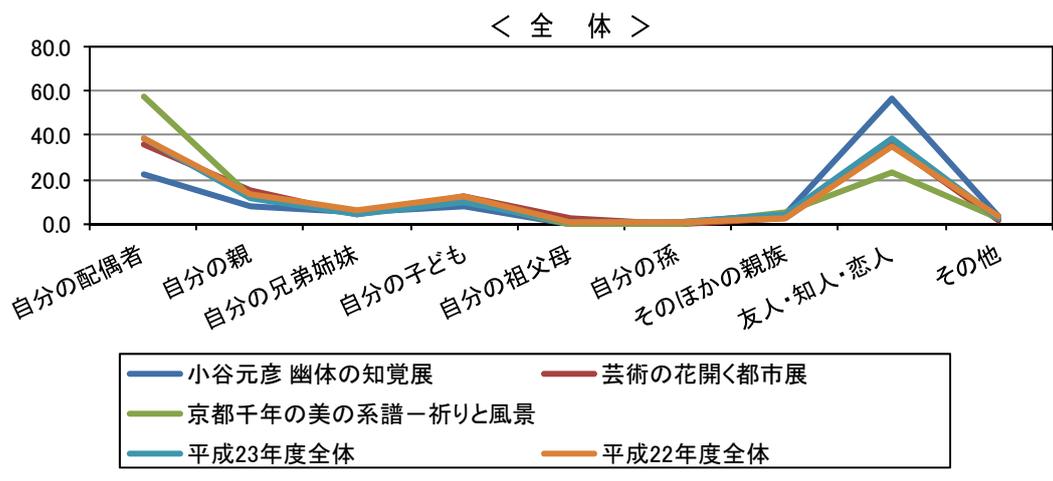
		件数 (件)	者 自 分の 配 偶	自 分 の 親	姉 妹 自 分 の 兄 弟	も 自 分 の 子 ど	母 自 分 の 祖 父	自 分 の 孫	親 族 そ の ほ か の	恋 人 友 人 ・ 知 人 ・	そ の 他
平成 23 年 度	小谷元彦 幽体の知覚展	144	22.2	7.6	5.6	7.6	0.0	0.7	4.2	56.3	3.5
	芸術の花開く都市展	141	36.2	14.9	4.3	12.1	2.8	0.0	2.8	35.5	1.4
	京都千年の美の系譜 ー祈りと風景	143	57.3	12.6	4.2	10.5	0.0	0.0	4.9	23.1	2.1
経 年	平成 23 年度全体		38.6	11.7	4.7	10.0	0.9	0.2	4.0	38.3	2.3
	平成 22 年度全体		38.2	13.2	5.9	12.2	0.9	0.2	2.7	35.1	3.1
平成 22 年 度	伊藤若冲 ーアナザーワールドー展	179	49.2	15.6	6.7	11.7	1.7	0.0	3.9	22.9	2.8
	ロボットと美術～身体 ×機械のビジュアルイメージ～	157	21.7	14.6	6.4	14.6	0.0	0.6	1.3	49.7	3.8
	出会えます。 あなたの愛する風景	107	43.9	9.3	4.7	10.3	0.9	0.0	2.8	32.7	2.8

単位：%

新規来館者

		件数 (件)	者 自 分の 配 偶	自 分 の 親	姉 妹 自 分 の 兄 弟	も 自 分 の 子 ど	母 自 分 の 祖 父	自 分 の 孫	親 族 そ の ほ か の	恋 人 友 人 ・ 知 人 ・	そ の 他
平成 23 年 度	小谷元彦 幽体の知覚展	29	20.7	3.4	3.4	3.4	0.0	0.0	0.0	62.1	10.3
	芸術の花開く都市展	22	27.3	27.3	9.1	13.6	9.1	0.0	0.0	36.4	0.0
	京都千年の美の系譜 ー祈りと風景	11	45.5	9.1	18.2	9.1	0.0	0.0	18.2	27.3	9.1
経 年	平成 23 年度全体		27.4	12.9	8.1	8.1	3.2	0.0	3.2	46.8	6.5
	平成 22 年度全体		35.2	11.4	5.7	14.9	0.7	0.0	3.7	42.3	4.4
平成 22 年 度	伊藤若冲 ーアナザーワールドー展	45	42.2	11.1	8.9	11.1	2.2	0.0	11.1	22.2	6.7
	ロボットと美術～身体 ×機械のビジュアルイメージ～	46	21.7	6.5	0.0	8.7	0.0	0.0	0.0	63.0	6.5
	出会えます。 あなたの愛する風景	12	41.7	16.7	8.3	25.0	0.0	0.0	0.0	41.7	0.0

単位：%



〈全体〉をみると、平成 23 年度は「自分の配偶者」が 38.6%、「友人・知人・恋人」が 38.3%とこれらが前年度と同じく多数を占めている。『小谷元彦 幽体の知覚展』では、「友人・知人・恋人」(56.3%)が、『京都千年の美の系譜－祈りと風景』では「自分の配偶者」(57.3%)が、他の展覧会と比較して特に多くなっている。

〈新規来館者〉をみると、〈全体〉に比べて同伴者に展覧会によるばらつきがみられる。特に、『芸術の花開く都市展』では、他の展覧会に比べて「自分の親」が多くなっている。

**美術館カルテ 54** 2・3世代で一緒に観覧に来ている割合

平成 23 年度	小谷元彦 幽体の知覚展	15.9
	芸術の花開く都市展	29.8
	京都千年の美の系譜－祈りと風景	23.1
経 年	平成 23 年度全体	22.8
	平成 22 年度全体	26.5
平成 22 年度	伊藤若冲－アナザーワールド－展	29.1
	ロボットと美術～身体×機械のビジュアルイメージ～	29.9
	出会えます。あなたの愛する風景	20.6

単位：%

④来館のきっかけ

全体

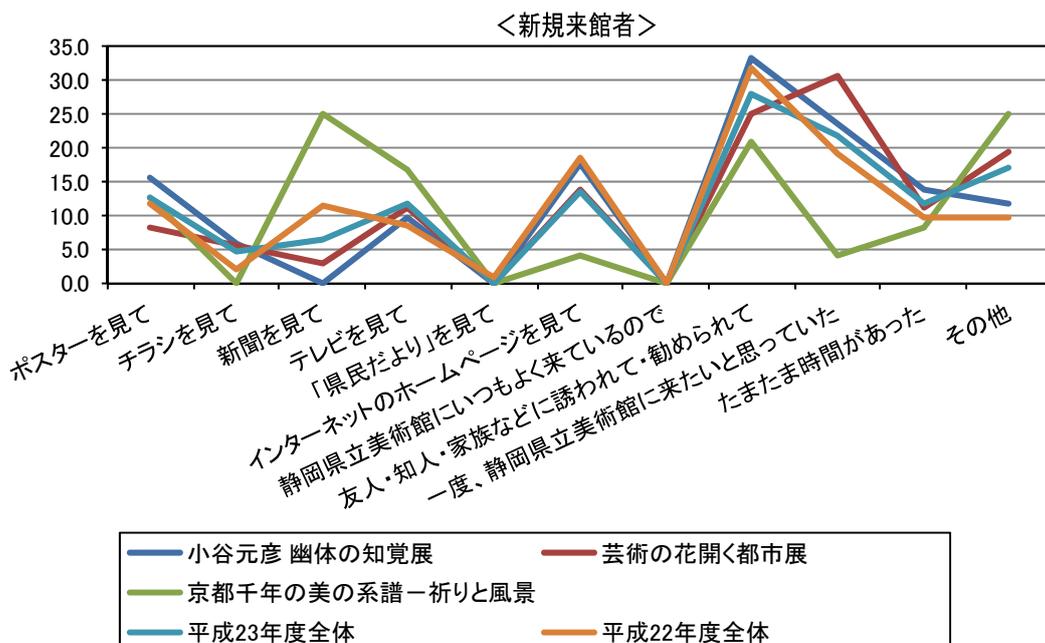
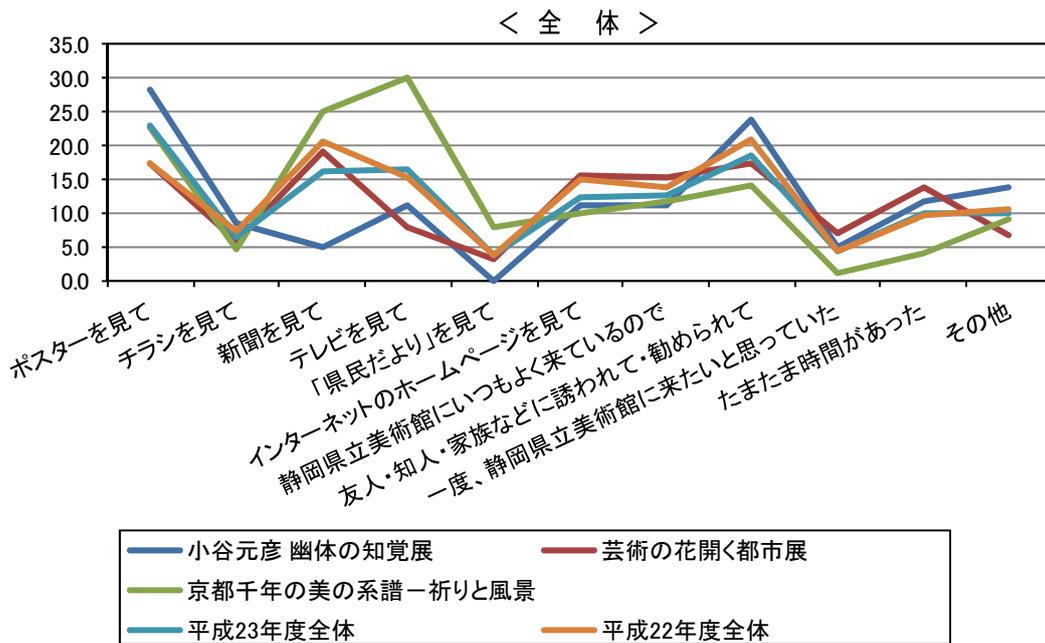
		件数(件)	ポスターを見て	チラシを見て	新聞を見て	テレビを見て	「県民だより」を見て	インターネットのホームページを見て	静岡県立美術館にいつもよく来ているので	誘われて・勧められて	友人・知人・家族などに誘われて・勧められて	一度、静岡県立美術館に來たいと思っていた	たまたま時間があつた	その他
平成23年度	小谷元彦 幽体の知覚展	248	28.2	8.5	4.8	11.3	0.0	11.3	11.3	23.8	4.8	11.7	13.7	
	芸術の花開く都市展	224	17.4	5.8	19.2	8.0	3.1	15.6	15.2	17.4	7.1	13.8	6.7	
	京都千年の美の系譜 ー祈りと風景	239	22.6	4.6	25.1	30.1	7.9	10.0	11.7	14.2	1.3	4.2	9.2	
経年	平成23年度全体		22.9	6.3	16.2	16.6	3.7	12.2	12.7	18.6	4.4	9.8	10.0	
	平成22年度全体		17.4	7.3	20.7	15.3	3.7	15.1	13.7	20.8	4.3	9.8	10.7	
平成22年度	伊藤若冲 ーアナザーワールドー展	333	18.9	5.4	28.2	34.5	6.6	12.9	9.3	21.6	4.2	3.6	7.8	
	ロボットと美術～身体 ×機械のビジュアルイメージ～	274	19.0	8.8	21.5	5.1	2.9	21.2	8.4	20.8	4.7	9.1	13.9	
	出会えます。 あなたの愛する風景	180	14.4	7.8	12.2	6.1	1.7	11.1	23.3	20.0	3.9	16.7	10.6	

単位：%

新規来館者

		件数(件)	ポスターを見て	チラシを見て	新聞を見て	テレビを見て	「県民だより」を見て	インターネットのホームページを見て	静岡県立美術館にいつもよく来ているので	誘われて・勧められて	友人・知人・家族などに誘われて・勧められて	一度、静岡県立美術館に來たいと思っていた	たまたま時間があつた	その他
平成23年度	小谷元彦 幽体の知覚展	51	15.7	5.9	0.0	9.8	0.0	17.6	0.0	33.3	23.5	13.7	11.8	
	芸術の花開く都市展	36	8.3	5.6	2.8	11.1	0.0	13.9	0.0	25.0	30.6	11.1	19.4	
	京都千年の美の系譜 ー祈りと風景	24	12.5	0.0	25.0	16.7	0.0	4.2	0.0	20.8	4.2	8.3	25.0	
経年	平成23年度全体		12.6	4.5	6.3	11.7	0.0	13.5	0.0	27.9	21.6	11.7	17.1	
	平成22年度全体		11.7	2.1	11.4	8.5	0.9	18.4	0.0	31.8	19.2	9.6	9.6	
平成22年度	伊藤若冲 ーアナザーワールドー展	78	11.5	3.8	20.5	23.1	2.6	20.5	0.0	24.4	15.4	1.3	10.3	
	ロボットと美術～身体 ×機械のビジュアルイメージ～	81	8.6	2.5	13.6	2.5	0.0	29.6	0.0	25.9	12.3	7.4	13.6	
	出会えます。 あなたの愛する風景	20	15.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.0	0.0	45.0	30.0	20.0	5.0	

単位：%



〈全体〉をみると、平成23年度は「ポスターを見て」が22.9%と最も多い。展覧会別でみると、『小谷元彦 幽体の知覚展』は「ポスターを見て」(28.2%)が、『芸術の花開く都市展』は「新聞を見て」(19.2%)が、『京都千年の美の系譜－祈りと風景』は「テレビを見て」(30.1%)がそれぞれ最も多く、異なる傾向となっている。特に、「新聞を見て」及び「テレビを見て」は展覧会により差が大きく、情報源メディアの効果に差が出る結果となっている。

〈新規来館者〉をみると、平成23年度は「知人・友人・家族などに誘われて・勧められて」が27.9%と最も多くなっている。展覧会別でみると、「知人・友人・家族などに誘われて・勧められて」が特に多いのは『小谷元彦 幽体の知覚展』(33.3%)で、「新聞を見て」及び「テレビを見て」は『京都千年の美の系譜－祈りと風景』で他の展覧会と比較して多くなっている。

(4) 展覧会の評価

①作品やテーマについての興味・関心の深まり

全体

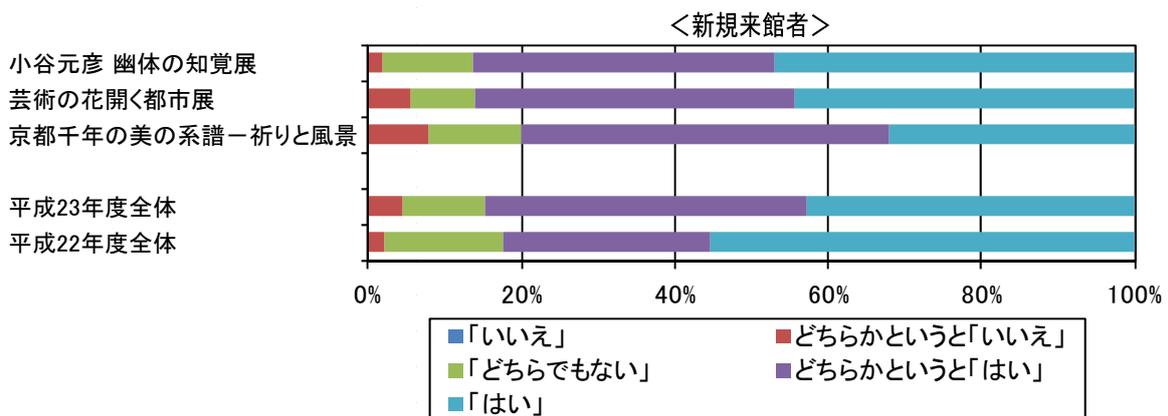
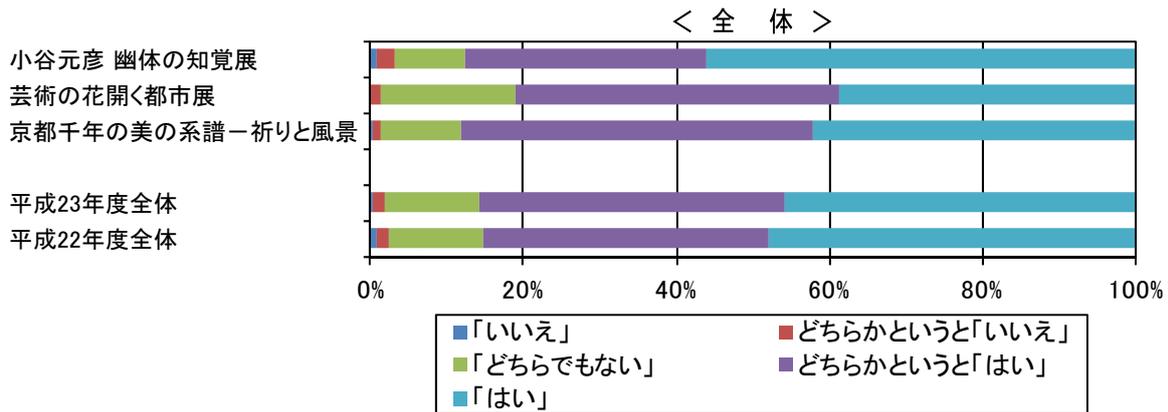
		件数 (件)	「はい」	「どちらかとい うと」「はい」	「どちらでも ない」	「どちらかとい うと」「はい」	「はい」
平成 23 年度	小谷元彦 幽体の知覚展	248	0.8	2.4	9.3	31.5	56.0
	芸術の花開く都市展	222	0.0	1.4	17.6	42.3	38.7
	京都千年の美の系譜 ー折りと風景	238	0.4	0.8	10.5	46.2	42.0
経 年	平成 23 年度全体		0.4	1.6	12.3	39.8	45.9
	平成 22 年度全体		0.7	1.7	12.4	37.3	47.9
平成 22 年度	伊藤若冲 ーアナザーワールドー展	333	0.9	0.9	5.1	29.4	63.7
	ロボットと美術～身体 ×機械のビジュアルイメージ～	272	1.1	1.8	15.8	33.1	48.2
	出会えます。 あなたの愛する風景	178	0.0	2.2	16.3	49.4	32.0

単位：%

新規来館者

		件数 (件)	「はい」	「どちらかとい うと」「はい」	「どちらでも ない」	「どちらかとい うと」「はい」	「はい」
平成 23 年度	小谷元彦 幽体の知覚展	51	0.0	2.0	11.8	39.2	47.1
	芸術の花開く都市展	36	0.0	5.6	8.3	41.7	44.4
	京都千年の美の系譜 ー折りと風景	25	0.0	8.0	12.0	48.0	32.0
経 年	平成 23 年度全体		0.0	4.5	10.7	42.0	42.9
	平成 22 年度全体		0.0	2.1	15.4	27.1	55.4
平成 22 年度	伊藤若冲 ーアナザーワールドー展	78	0.0	1.3	9.0	20.5	69.2
	ロボットと美術～身体 ×機械のビジュアルイメージ～	81	0.0	0.0	17.3	30.9	51.9
	出会えます。 あなたの愛する風景	20	0.0	5.0	20.0	30.0	45.0

単位：%



〈全体〉をみると、平成23年度は「どちらかという はい」と「はい」を合わせた肯定的評価が85.7%となっている。肯定的評価が最も高かった展覧会は『京都千年の美の系譜－祈りと風景』の88.2%、次いで『小谷元彦 幽体の知覚展』が87.5%、『芸術の花開く都市展』が81.0%と、いずれも8割以上となっている。

〈新規来館者〉をみると、平成23年度は肯定的評価が84.9%で、〈全体〉とほぼ同様となっている。

**評価指標 3** 作品やテーマに興味を持った人の割合

平成23年度	小谷元彦 幽体の知覚展	87.5
	芸術の花開く都市展	81.0
	京都千年の美の系譜－祈りと風景	88.2
経年	平成23年度全体	85.7
	平成22年度全体	85.2
平成22年度	伊藤若冲－アナザーワールド－展	93.1
	ロボットと美術～身体×機械のビジュアルイメージ～	81.3
	出会えます。あなたの愛する風景	81.4

単位：%

②展覧会の会場で心地よく観覧できたか

全体

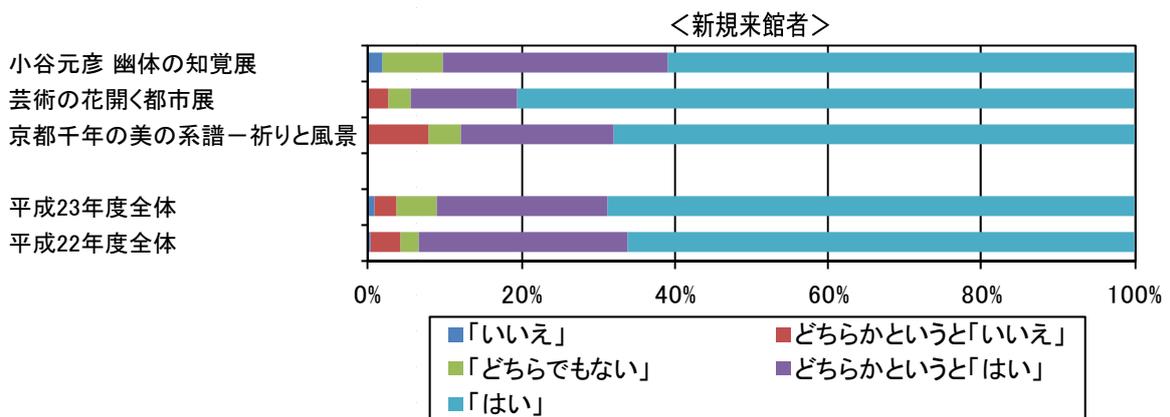
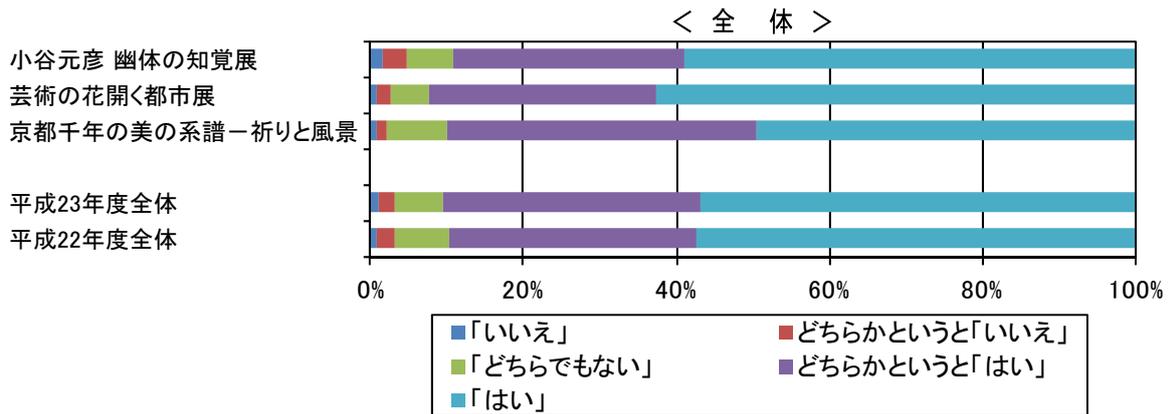
		件数 (件)	「はい」	「どちらか というくらい」	「どちらでも ない」	「どちらか というくらい」	「はい」
平成 23 年度	小谷元彦 幽体の知覚展	249	1.6	3.2	6.0	30.1	59.0
	芸術の花開く都市展	222	0.9	1.8	5.0	29.7	62.6
	京都千年の美の系譜 ー祈りと風景	239	0.8	1.3	7.9	40.6	49.4
経 年	平成 23 年度全体		1.1	2.1	6.3	33.5	56.9
	平成 22 年度全体		0.8	2.3	7.2	32.3	57.5
平成 22 年度	伊藤若冲 ーアナザーワールドー展	334	1.2	3.3	7.5	30.5	57.5
	ロボットと美術～身体 ×機械のビジュアルイメージ～	275	1.1	2.9	7.3	34.2	54.5
	出会えます。 あなたの愛する風景	177	0.0	0.6	6.8	32.2	60.5

単位：％

新規来館者

		件数 (件)	「はい」	「どちらか というくらい」	「どちらでも ない」	「どちらか というくらい」	「はい」
平成 23 年度	小谷元彦 幽体の知覚展	51	2.0	0.0	7.8	29.4	60.8
	芸術の花開く都市展	36	0.0	2.8	2.8	13.9	80.6
	京都千年の美の系譜 ー祈りと風景	25	0.0	8.0	4.0	20.0	68.0
経 年	平成 23 年度全体		0.9	2.7	5.4	22.3	68.8
	平成 22 年度全体		0.4	3.8	2.5	27.1	66.2
平成 22 年度	伊藤若冲 ーアナザーワールドー展	78	1.3	3.8	5.1	23.1	66.7
	ロボットと美術～身体 ×機械のビジュアルイメージ～	81	0.0	2.5	2.5	38.3	56.8
	出会えます。 あなたの愛する風景	20	0.0	5.0	0.0	20.0	75.0

単位：％



〈全体〉をみると、平成23年度は「どちらかという はい」と「はい」を合わせた肯定的評価が90.4%となっている。肯定的評価が最も高かった展覧会は『芸術の花開く都市展』の92.3%、次いで『京都千年の美の系譜－祈りと風景』が90.0%、『小谷元彦 幽体の知覚展』が89.1%と、いずれも8割以上となっている。

〈新規来館者〉をみると、平成23年度は肯定的評価が91.1%で、〈全体〉とほぼ同様となっている。

**美術館カルテ 32 観賞環境に対する満足度**

平成23年度	小谷元彦 幽体の知覚展	89.1
	芸術の花開く都市展	92.3
	京都千年の美の系譜－祈りと風景	90.0
経年	平成23年度全体	90.4
	平成22年度全体	89.8
平成22年度	伊藤若冲－アナザーワールド－展	88.0
	ロボットと美術～身体×機械のビジュアルイメージ～	88.7
	出会えます。あなたの愛する風景	92.7

単位：%

③スタッフ対応は適切であったか

全体

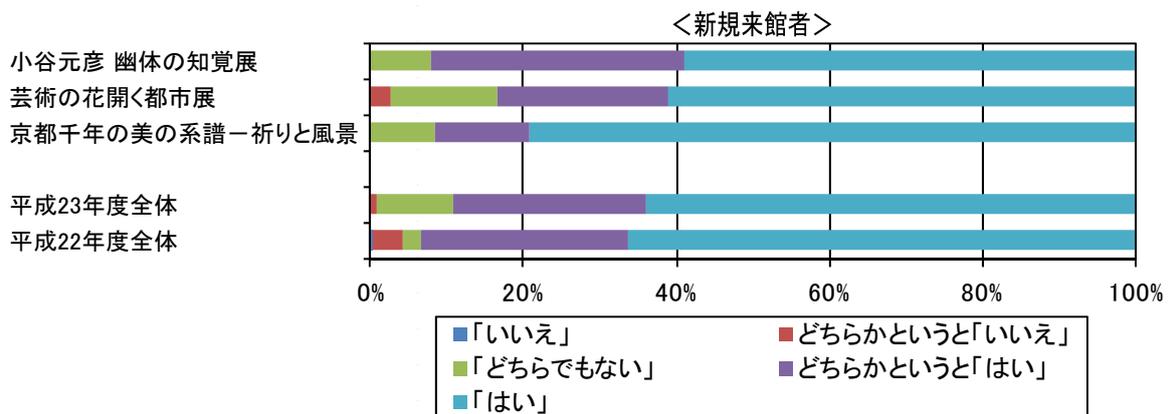
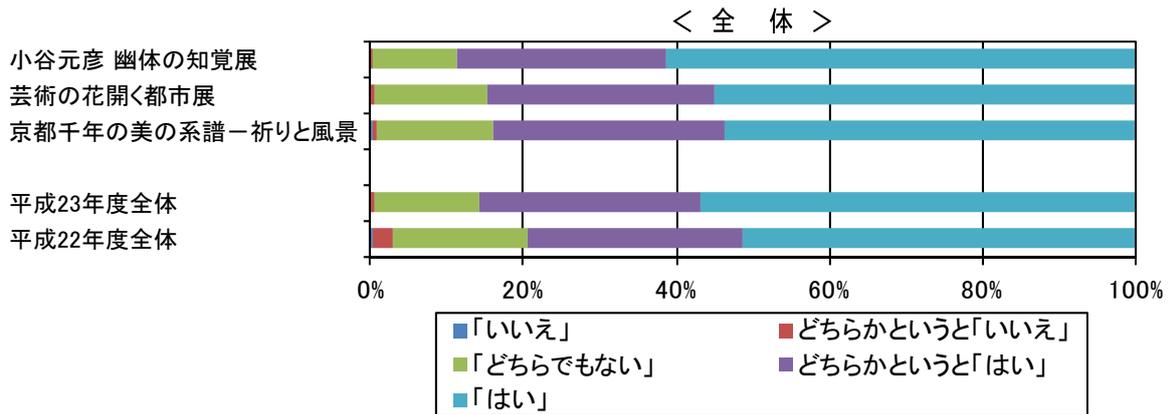
		件数 (件)	「はい」	「どちらか というくらい」	「どちらでも ない」	「どちらか というくらい」	「はい」
平成 23 年度	小谷元彦 幽体の知覚展	248	0.0	0.4	10.9	27.4	61.3
	芸術の花開く都市展	222	0.0	0.5	14.9	29.7	55.0
	京都千年の美の系譜 ー折りと風景	237	0.4	0.4	15.2	30.4	53.6
経 年	平成 23 年度全体		0.1	0.4	13.6	29.1	56.7
	平成 22 年度全体		0.2	2.7	17.6	28.1	51.4
平成 22 年度	伊藤若冲 ーアナザーワールドー展	333	0.3	1.5	18.6	25.8	53.8
	ロボットと美術～身体 ×機械のビジュアルイメージ～	274	0.4	3.6	18.2	31.4	46.4
	出会えます。 あなたの愛する風景	177	0.0	2.8	15.8	27.1	54.2

単位：%

新規来館者

		件数 (件)	「はい」	「どちらか というくらい」	「どちらでも ない」	「どちらか というくらい」	「はい」
平成 23 年度	小谷元彦 幽体の知覚展	51	0.0	0.0	7.8	33.3	58.8
	芸術の花開く都市展	36	0.0	2.8	13.9	22.2	61.1
	京都千年の美の系譜 ー折りと風景	24	0.0	0.0	8.3	12.5	79.2
経 年	平成 23 年度全体		0.0	0.9	9.9	25.2	64.0
	平成 22 年度全体		0.4	3.8	2.5	27.1	66.2
平成 22 年度	伊藤若冲 ーアナザーワールドー展	78	1.3	3.8	5.1	23.1	66.7
	ロボットと美術～身体 ×機械のビジュアルイメージ～	81	0.0	2.5	2.5	38.3	56.8
	出会えます。 あなたの愛する風景	20	0.0	5.0	0.0	20.0	75.0

単位：%



〈全体〉をみると、平成23年度は「どちらかという はい」と「はい」を合わせた肯定的評価が85.8%となっている。肯定的評価が最も高かった展覧会は『小谷元彦 幽体の知覚展』の88.7%、次いで『芸術の花開く都市展』が84.7%、『京都千年の美の系譜－祈りと風景』が84.0%と、いずれも8割以上となっている。

〈新規来館者〉をみると、平成23年度は肯定的評価が89.2%と〈全体〉を少し上回っている。

### 美術館カルテ 29 美術館スタッフの対応に満足した人の割合

平成23年度	小谷元彦 幽体の知覚展	88.7
	芸術の花開く都市展	84.7
	京都千年の美の系譜－祈りと風景	84.0
経年	平成23年度全体	85.8
	平成22年度全体	79.6
平成22年度	伊藤若冲－アナザーワールド－展	79.6
	ロボットと美術～身体×機械のビジュアルイメージ～	77.7
	出会えます。あなたの愛する風景	81.4

単位：%

④この展覧会のことを誰かに伝え、来館を勧めたいか

全体

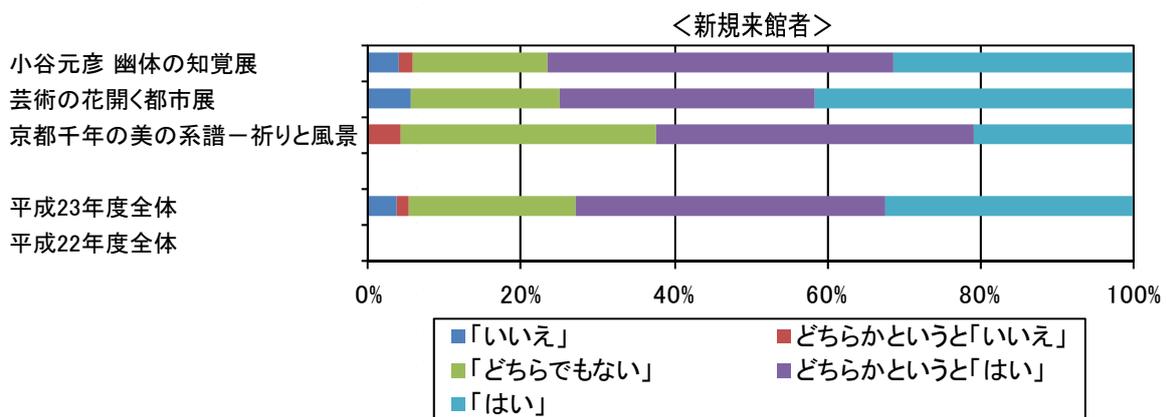
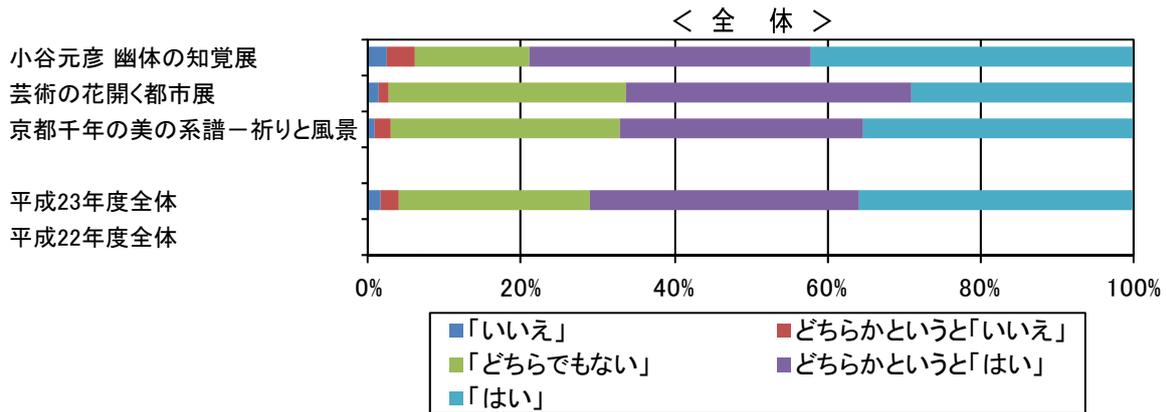
		件数 (件)	「はい」	どちらかとい うと「はい」	「どちらでも ない」	どちらかとい うと「はい」	「はい」
平成 23 年度	小谷元彦 幽体の知覚展	247	2.4	3.6	15.0	36.8	42.1
	芸術の花開く都市展	220	1.4	1.4	30.9	37.3	29.1
	京都千年の美の系譜 ー祈りと風景	238	0.8	2.1	29.8	31.9	35.3
経 年	平成 23 年度全体		1.6	2.4	25.0	35.3	35.7
	平成 22 年度全体	—	—	—	—	—	—
平成 22 年度	伊藤若冲 ーアナザーワールドー展	—	—	—	—	—	—
	ロボットと美術～身体 ×機械のビジュアルイメージ～	—	—	—	—	—	—
	出会えます。 あなたの愛する風景	—	—	—	—	—	—

単位：%

新規来館者

		件数 (件)	「はい」	どちらかとい うと「はい」	「どちらでも ない」	どちらかとい うと「はい」	「はい」
平成 23 年度	小谷元彦 幽体の知覚展	51	3.9	2.0	17.6	45.1	31.4
	芸術の花開く都市展	36	5.6	0.0	19.4	33.3	41.7
	京都千年の美の系譜 ー祈りと風景	24	0.0	4.2	33.3	41.7	20.8
経 年	平成 23 年度全体		3.6	1.8	21.6	40.5	32.4
	平成 22 年度全体	—	—	—	—	—	—
平成 22 年度	伊藤若冲 ーアナザーワールドー展	—	—	—	—	—	—
	ロボットと美術～身体 ×機械のビジュアルイメージ～	—	—	—	—	—	—
	出会えます。 あなたの愛する風景	—	—	—	—	—	—

単位：%



〈全体〉をみると、平成23年度は「どちらかという はい」と「はい」を合わせた肯定的評価が71.0%となっている。肯定的評価が最も高かった展覧会は『小谷元彦 幽体の知覚展』の78.9%、次いで『京都千年の美の系譜－祈りと風景』が67.2%、『芸術の花開く都市展』が66.4%と、『小谷元彦 幽体の知覚展』が特に高い評価となっている。

〈新規来館者〉をみると、平成23年度は肯定的評価が72.9%と〈全体〉とほぼ同様となっている。

⑤当美術館に関する情報は入手しやすいか

全体

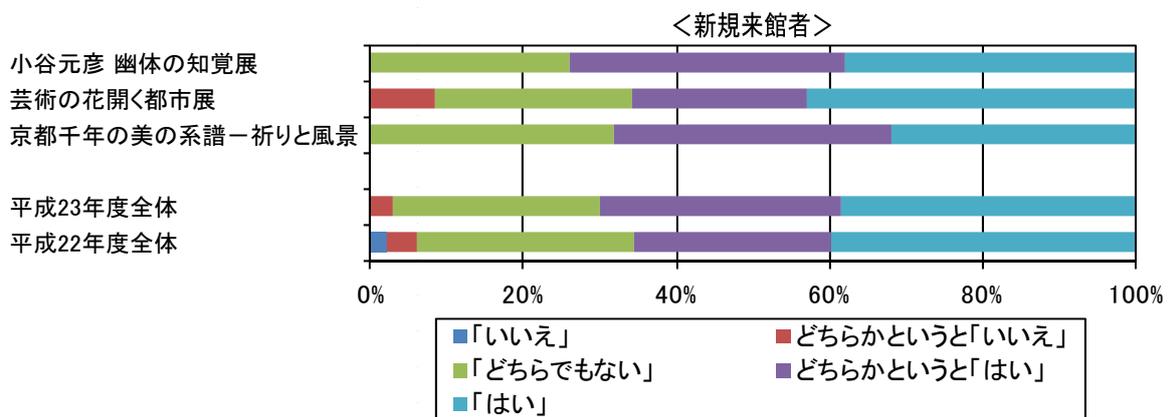
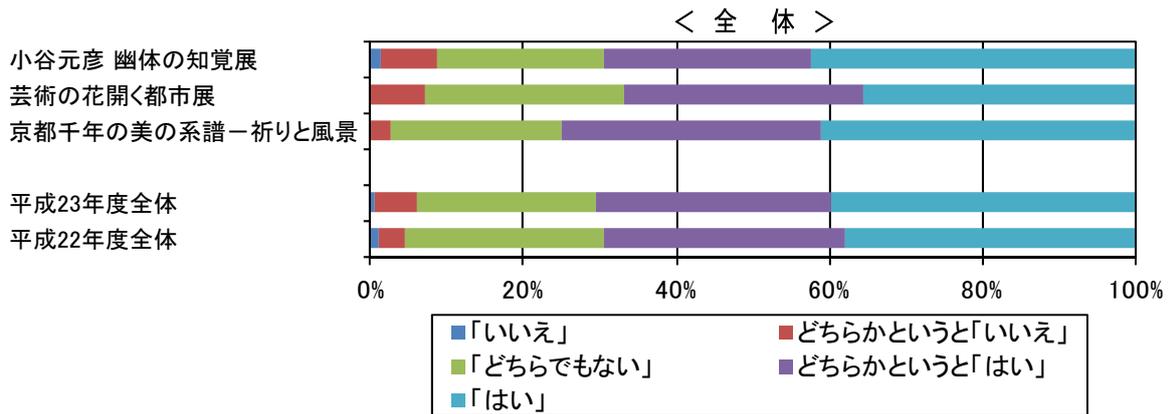
		件数 (件)	「はい」	どちらかとい うと「はい」	「どちらでも ない」	どちらかとい うと「はい」	「はい」
平成 23 年度	小谷元彦 幽体の知覚展	243	1.2	7.4	21.8	27.2	42.4
	芸術の花開く都市展	211	0.0	7.1	26.1	31.3	35.5
	京都千年の美の系譜 ー祈りと風景	231	0.0	2.6	22.5	33.8	41.1
経 年	平成 23 年度全体		0.4	5.7	23.4	30.7	39.9
	平成 22 年度全体		1.1	3.5	26.0	31.4	38.0
平成 22 年度	伊藤若冲 ーアナザーワールドー展	310	0.6	1.3	22.6	30.3	45.2
	ロボットと美術～身体 ×機械のビジュアルイメージ～	266	2.6	4.5	25.9	36.1	30.8
	出会えます。 あなたの愛する風景	173	0.0	4.6	29.5	27.7	38.2

単位：%

新規来館者

		件数 (件)	「はい」	どちらかとい うと「はい」	「どちらでも ない」	どちらかとい うと「はい」	「はい」
平成 23 年度	小谷元彦 幽体の知覚展	50	0.0	0.0	26.0	36.0	38.0
	芸術の花開く都市展	35	0.0	8.6	25.7	22.9	42.9
	京都千年の美の系譜 ー祈りと風景	22	0.0	0.0	31.8	36.4	31.8
経 年	平成 23 年度全体		0.0	2.8	27.1	31.8	38.3
	平成 22 年度全体		2.2	3.9	28.3	25.9	39.7
平成 22 年度	伊藤若冲 ーアナザーワールドー展	75	2.7	4.0	22.7	25.3	45.3
	ロボットと美術～身体 ×機械のビジュアルイメージ～	79	3.8	2.5	25.3	36.7	31.6
	出会えます。 あなたの愛する風景	19	0.0	5.3	36.8	15.8	42.1

単位：%



〈全体〉をみると、平成23年度は「どちらかという はい」と「はい」を合わせた肯定的評価が70.6%となっている。肯定的評価が最も高かった展覧会は『京都千年の美の系譜－祈りと風景』の74.9%、次いで『小谷元彦 幽体の知覚展』が69.6%、『芸術の花開く都市展』が66.8%と、展覧会により差がみられた。

〈新規来館者〉をみると、平成23年度は肯定的評価が70.1%で、〈全体〉とほぼ同様となっている。

**評価指標 24** 当館に関する情報が入手しやすいとする人の割合

平成23年度	小谷元彦 幽体の知覚展	69.6
	芸術の花開く都市展	66.8
	京都千年の美の系譜－祈りと風景	74.9
経年	平成23年度全体	70.6
	平成22年度全体	69.4
平成22年度	伊藤若冲－アナザーワールド－展	75.5
	ロボットと美術～身体×機械のビジュアルイメージ～	66.9
	出会えます。あなたの愛する風景	65.9

単位：%

⑥-1 利用交通機関

全体

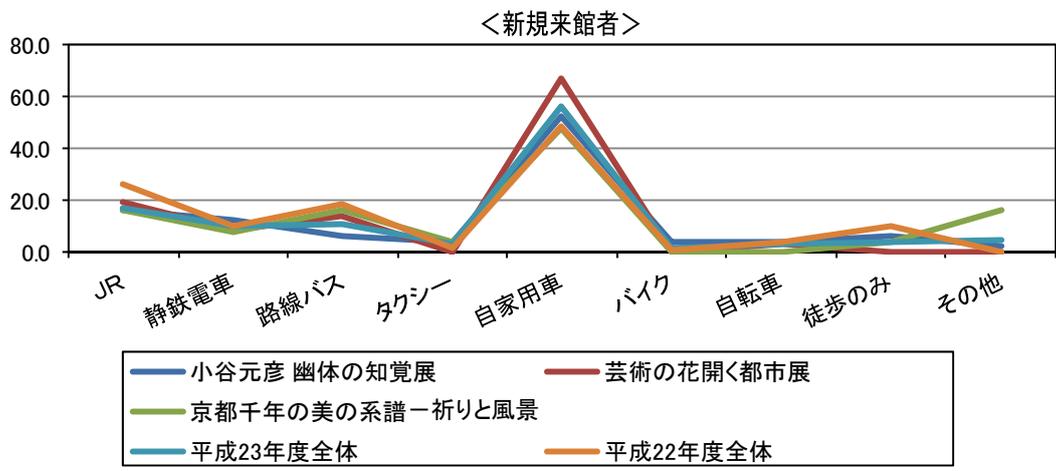
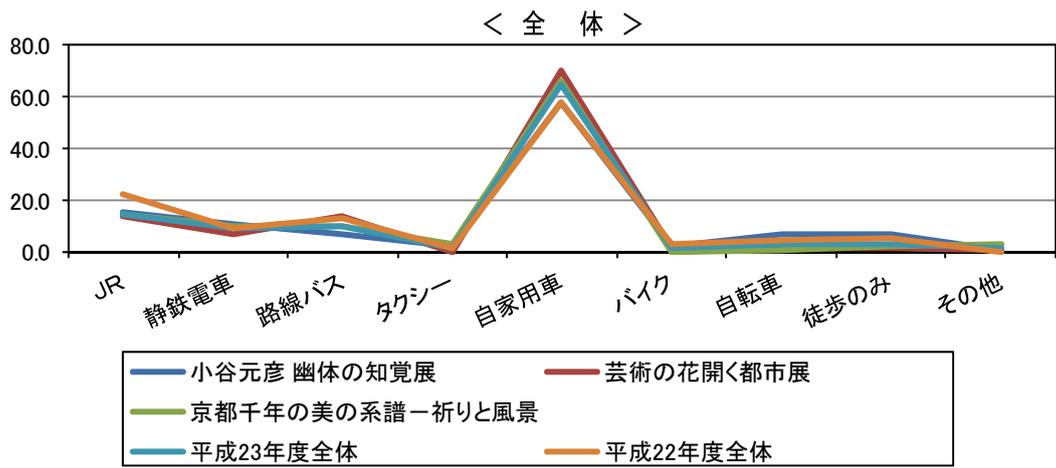
		件数 (件)	JR	静鉄電車	路線バス	タクシー	自家用車	バイク	自転車	徒歩のみ	その他
平成 23 年度	小谷元彦 幽体の知覚展	247	15.4	10.9	6.5	2.0	57.9	2.0	6.5	6.5	0.4
	芸術の花開く都市展	222	13.5	6.8	14.0	0.0	70.3	1.4	1.8	1.4	0.5
	京都千年の美の系譜 ー祈りと風景	240	14.6	9.6	10.0	3.3	66.3	0.0	0.8	2.1	2.9
経 年	平成 23 年度全体		14.5	9.2	10.0	1.8	64.6	1.1	3.1	3.4	1.3
	平成 22 年度全体		22.3	9.0	12.7	1.2	58.0	3.0	4.3	5.4	0.3
平成 22 年度	伊藤若冲 ーアナザーワールドー展	334	34.6	9.6	14.7	3.6	60.2	0.9	2.1	3.3	0.0
	ロボットと美術～身体 ×機械のビジュアルイメージ～	275	14.5	11.3	13.5	0.0	55.6	4.7	6.5	4.7	0.4
	出会えます。 あなたの愛する風景	180	17.8	6.1	10.0	0.0	58.3	3.3	4.4	8.3	0.6

単位：%

新規来館者

		件数 (件)	JR	静鉄電車	路線バス	タクシー	自家用車	バイク	自転車	徒歩のみ	その他
平成 23 年度	小谷元彦 幽体の知覚展	50	16.0	12.0	6.0	4.0	52.0	4.0	4.0	6.0	2.0
	芸術の花開く都市展	36	19.4	8.3	13.9	0.0	66.7	0.0	2.8	0.0	0.0
	京都千年の美の系譜 ー祈りと風景	25	16.0	8.0	16.0	4.0	48.0	0.0	0.0	4.0	16.0
経 年	平成 23 年度全体		17.1	9.9	10.8	2.7	55.9	1.8	2.7	3.6	4.5
	平成 22 年度全体		26.4	10.0	18.4	1.7	48.2	0.4	3.7	10.0	0.0
平成 22 年度	伊藤若冲 ーアナザーワールドー展	78	28.2	11.5	17.9	5.1	55.1	0.0	1.3	5.1	0.0
	ロボットと美術～身体 ×機械のビジュアルイメージ～	81	25.9	13.6	22.2	0.0	44.4	1.2	4.9	4.9	0.0
	出会えます。 あなたの愛する風景	20	25.0	5.0	15.0	0.0	45.0	0.0	5.0	20.0	0.0

単位：%



〈全体〉をみると、平成 23 年度は「自家用車」が 64.6%と最も高く、前年度、また、いずれの  
 展覧会も同様の傾向となっている。

〈新規来館者〉をみると、平成 23 年度は「自家用車」が 55.9%と最も多く、〈全体〉比較する  
 と少ないものの半数以上を占めている。

⑥-2 公共交通機関の利用はスムーズであったか

全体

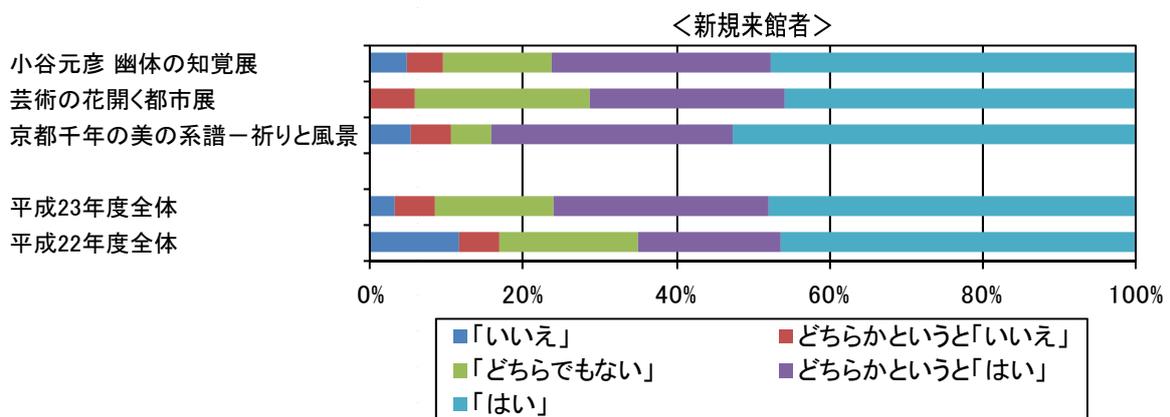
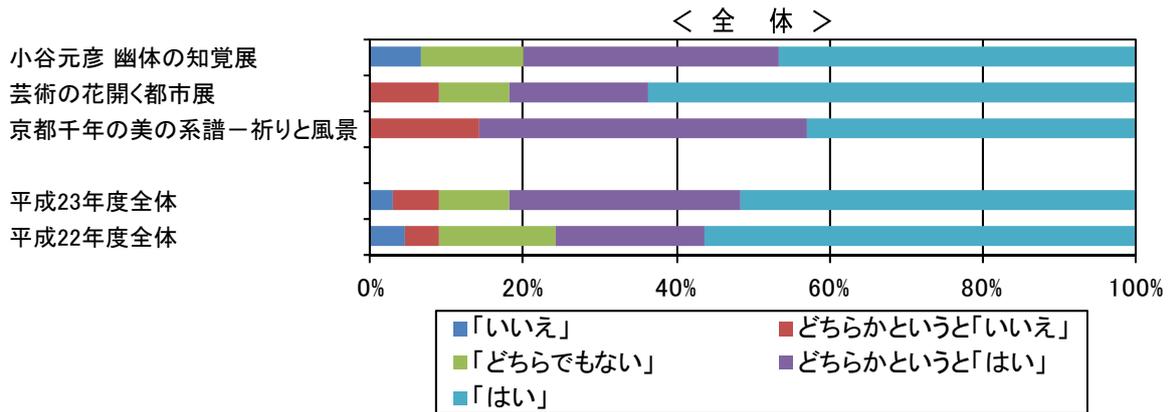
		件数 (件)	「はい」	どちらか という「はい」	「どちら でも ない」	どちらか という「はい」	「はい」
平成 23 年度	小谷元彦 幽体の知覚展	15	6.7	0.0	13.3	33.3	46.7
	芸術の花開く都市展	11	0.0	9.1	9.1	18.2	63.6
	京都千年の美の系譜 ー折りと風景	7	0.0	14.3	0.0	42.9	42.9
経 年	平成 23 年度全体		3.0	6.1	9.1	30.3	51.5
	平成 22 年度全体		4.4	4.6	15.3	19.3	56.5
平成 22 年度	伊藤若冲 ーアナザーワールドー展	119	2.5	3.4	10.1	25.2	58.8
	ロボットと美術～身体 ×機械のビジュアルイメージ～	100	6.0	9.0	19.0	16.0	50.0
	出会えます。 あなたの愛する風景	66	4.5	1.5	16.7	16.7	60.6

単位：%

新規来館者

		件数 (件)	「はい」	どちらか という「はい」	「どちら でも ない」	どちらか という「はい」	「はい」
平成 23 年度	小谷元彦 幽体の知覚展	42	4.8	4.8	14.3	28.6	47.6
	芸術の花開く都市展	35	0.0	5.7	22.9	25.7	45.7
	京都千年の美の系譜 ー折りと風景	19	5.3	5.3	5.3	31.6	52.6
経 年	平成 23 年度全体		3.1	5.2	15.6	28.1	47.9
	平成 22 年度全体		11.5	5.4	18.1	18.7	46.3
平成 22 年度	伊藤若冲 ーアナザーワールドー展	29	6.9	3.4	13.8	20.7	55.2
	ロボットと美術～身体 ×機械のビジュアルイメージ～	39	7.7	12.8	20.5	15.4	43.6
	出会えます。 あなたの愛する風景	10	20.0	0.0	20.0	20.0	40.0

単位：%



〈全体〉をみると、平成23年度は「どちらかという はい」と「はい」を合わせた肯定的評価が81.8%となっている。肯定的評価が最も高かった展覧会は『京都千年の美の系譜－祈りと風景』の85.8%、次いで『芸術の花開く都市展』が81.8%、『小谷元彦 幽体の知覚展』が80.0%と、いずれも8割以上となっている。

〈新規来館者〉をみると、平成23年度は肯定的評価が76.0%で、〈全体〉より低くなっている。

**評価指標 35**

公共交通機関で来館した人のアクセス満足度

**美術館カルテ 26**

公共交通機関で来館した人のアクセス満足度

平成23年度	小谷元彦 幽体の知覚展	80.0
	芸術の花開く都市展	81.8
	京都千年の美の系譜－祈りと風景	85.8
経年	平成23年度全体	81.8
	平成22年度全体	75.8
平成22年度	伊藤若冲－アナザーワールド－展	84.0
	ロボットと美術～身体×機械のビジュアルイメージ～	66.0
	出会えます。あなたの愛する風景	77.3

単位：%

⑥-3 自家用車の利用はスムーズであったか

全体

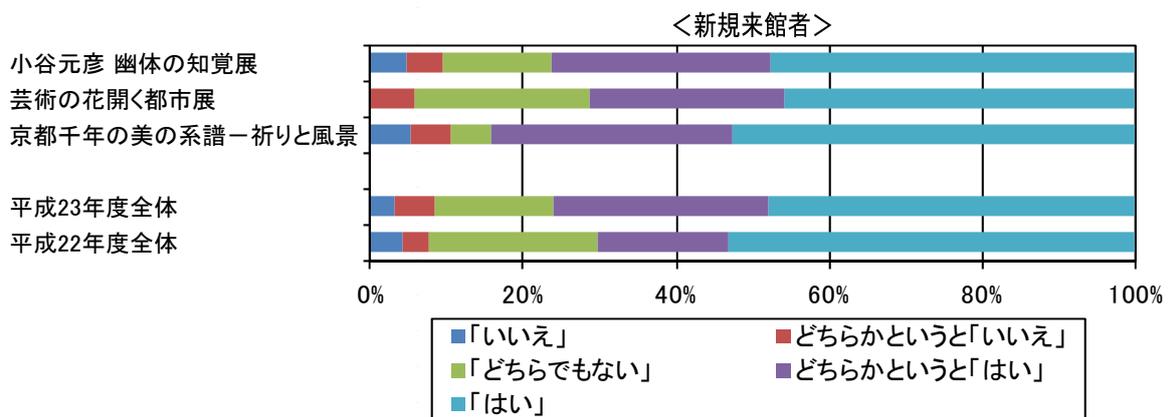
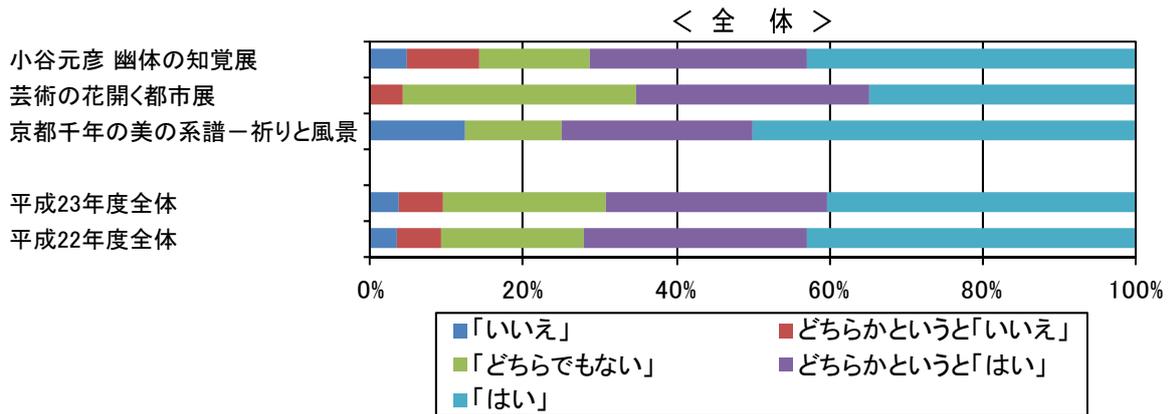
		件数 (件)	「はい」	どちらかとい うと「はい」	「どちらでも ない」	どちらかとい うと「はい」	「はい」
平成 23 年度	小谷元彦 幽体の知覚展	21	4.8	9.5	14.3	28.6	42.9
	芸術の花開く都市展	23	0.0	4.3	30.4	30.4	34.8
	京都千年の美の系譜 ー折りと風景	8	12.5	0.0	12.5	25.0	50.0
経 年	平成 23 年度全体		3.8	5.8	21.2	28.8	40.4
	平成 22 年度全体		3.5	5.7	18.7	29.1	42.9
平成 22 年度	伊藤若冲 ーアナザーワールドー展	142	3.5	5.6	14.8	28.9	47.2
	ロボットと美術～身体 ×機械のビジュアルイメージ～	123	4.1	5.7	17.9	35.0	37.4
	出会えます。 あなたの愛する風景	68	2.9	5.9	23.5	23.5	44.1

単位：%

新規来館者

		件数 (件)	「はい」	どちらかとい うと「はい」	「どちらでも ない」	どちらかとい うと「はい」	「はい」
平成 23 年度	小谷元彦 幽体の知覚展	42	4.8	4.8	14.3	28.6	47.6
	芸術の花開く都市展	35	0.0	5.7	22.9	25.7	45.7
	京都千年の美の系譜 ー折りと風景	19	5.3	5.3	5.3	31.6	52.6
経 年	平成 23 年度全体		3.1	5.2	15.6	28.1	47.9
	平成 22 年度全体		4.3	3.3	22.1	17.2	53.3
平成 22 年度	伊藤若冲 ーアナザーワールドー展	33	9.1	6.1	27.3	18.2	39.4
	ロボットと美術～身体 ×機械のビジュアルイメージ～	27	3.7	3.7	22.2	33.3	37.0
	出会えます。 あなたの愛する風景	6	0.0	0.0	16.7	0.0	83.3

単位：%



〈全体〉をみると、平成23年度は「どちらかという はい」と「はい」を合わせた肯定的評価が69.2%となっている。肯定的評価が最も高かった展覧会は『京都千年の美の系譜－祈りと風景』の75.0%、次いで『小谷元彦 幽体の知覚展』が71.5%、『芸術の花開く都市展』が65.2%と、展覧会により差がみられた。

〈新規来館者〉をみると、平成23年度は肯定的評価が76.0%で、〈全体〉より高くなっている。

**評価指標 35**

自家用車で来館した人のアクセス満足度

**美術館カルテ 27**

自家用車で来館した人のアクセス満足度

平成23年度	小谷元彦 幽体の知覚展	71.5
	芸術の花開く都市展	65.2
	京都千年の美の系譜－祈りと風景	75.0
経年	平成23年度全体	69.2
	平成22年度全体	72.0
平成22年度	伊藤若冲－アナザーワールド－展	76.1
	ロボットと美術～身体×機械のビジュアルイメージ～	72.4
	出会えます。あなたの愛する風景	67.6

単位：%

⑦全体的に見て、今回の来館は満足いただけたか（総合満足度）

全体

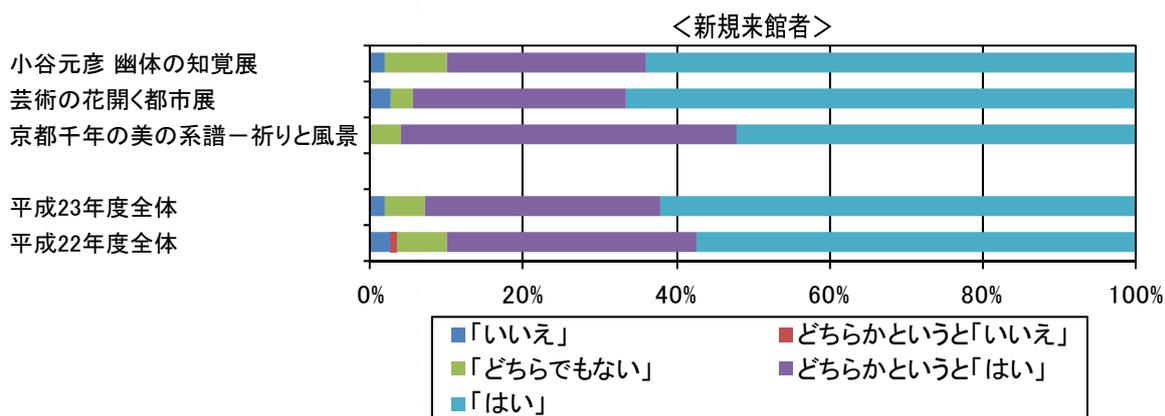
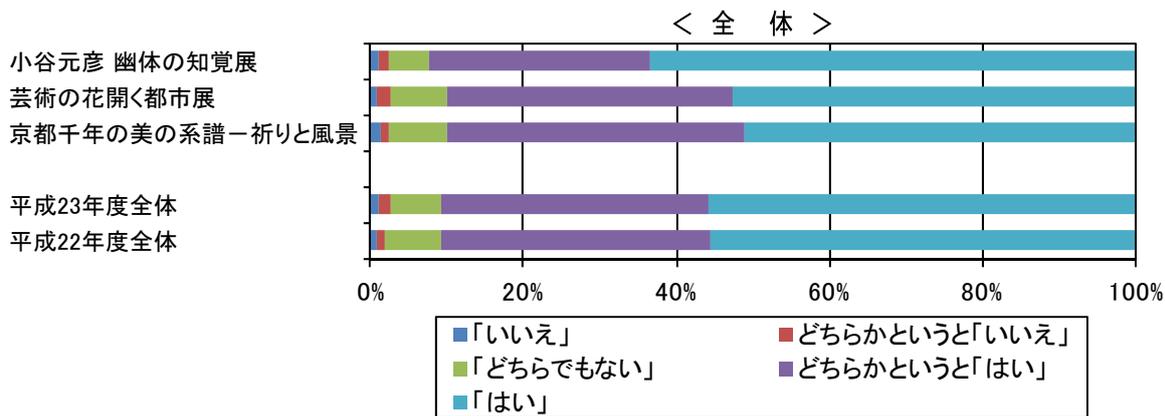
		件数 (件)	「はい」	どちらか という「はい」	「どちら でも ない」	どちらか という「はい」	「はい」
平成 23 年度	小谷元彦 幽体の知覚展	246	1.2	1.2	5.3	28.9	63.4
	芸術の花開く都市展	220	0.9	1.8	7.3	37.3	52.7
	京都千年の美の系譜 ー祈りと風景	237	1.3	1.3	7.6	38.8	51.1
経 年	平成 23 年度全体		1.1	1.4	6.7	34.9	55.9
	平成 22 年度全体		0.8	1.0	7.4	35.3	55.4
平成 22 年度	伊藤若冲 ーアナザーワールドー展	324	1.2	0.6	4.6	26.2	67.3
	ロボットと美術～身体 ×機械のビジュアルイメージ～	271	0.7	1.8	7.4	39.1	50.9
	出会えます。 あなたの愛する風景	177	0.6	0.6	10.2	40.7	48.0

単位：%

新規来館者

		件数 (件)	「はい」	どちらか という「はい」	「どちら でも ない」	どちらか という「はい」	「はい」
平成 23 年度	小谷元彦 幽体の知覚展	50	2.0	0.0	8.0	26.0	64.0
	芸術の花開く都市展	36	2.8	0.0	2.8	27.8	66.7
	京都千年の美の系譜 ー祈りと風景	25	0.0	0.0	4.0	44.0	52.0
経 年	平成 23 年度全体		1.8	0.0	5.4	30.6	62.2
	平成 22 年度全体		2.6	0.9	6.5	32.7	57.3
平成 22 年度	伊藤若冲 ーアナザーワールドー展	75	1.3	2.7	8.0	25.3	62.7
	ロボットと美術～身体 ×機械のビジュアルイメージ～	80	1.3	0.0	6.3	41.3	51.3
	出会えます。 あなたの愛する風景	19	5.3	0.0	5.3	31.6	57.9

単位：%



〈全体〉をみると、平成23年度は「どちらかという はい」と「はい」を合わせた肯定的評価が92.8%となっている。肯定的評価が最も高かった展覧会は『京都千年の美の系譜－祈りと風景』の96.0%、次いで『芸術の花開く都市展』が94.5%、『小谷元彦 幽体の知覚展』が90.0%と、いずれも9割以上となっている。

〈新規来館者〉をみると、平成23年度は肯定的評価が92.8%と〈全体〉と同様となっている。

#### 美術館カルテ5 展覧会の満足度

#### 美術館カルテ52 展覧会における新規観覧者の満足度

		展覧会の満足度	展覧会の満足度 (新規来館者)
平成23年度	小谷元彦 幽体の知覚展	92.3	90.0
	芸術の花開く都市展	90.0	94.5
	京都千年の美の系譜－祈りと風景	89.9	96.0
経年	平成23年度全体	90.8	92.8
	平成22年度全体	90.8	90.0
平成22年度	伊藤若冲－アナザーワールド－展	93.5	88.0
	ロボットと美術～身体×機械のビジュアルイメージ～	90.0	92.5
	出会えます。あなたの愛する風景	88.7	89.5

単位：%

⑧「風景の美術館」であることを知っているか

全体

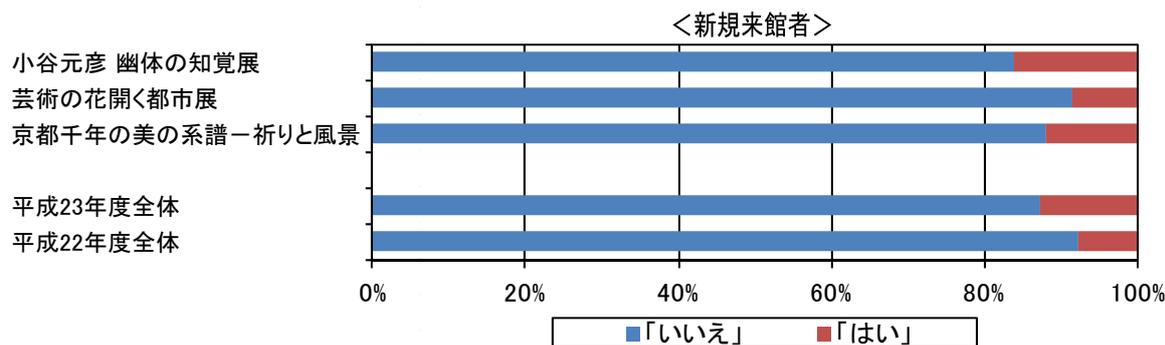
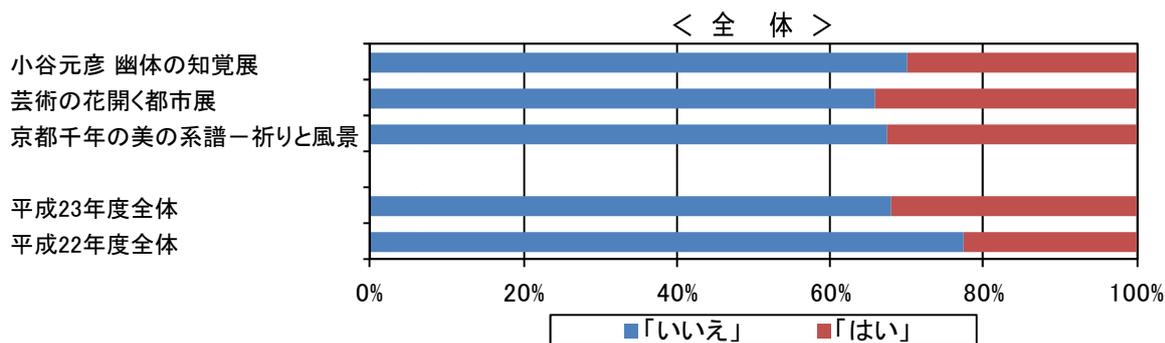
		件数 (件)	「いいえ」	「はい」
平成 23 年度	小谷元彦 幽体の知覚展	243	70.0	30.0
	芸術の花開く都市展	213	65.7	34.3
	京都千年の美の系譜 －祈りと風景	234	67.5	32.5
経 年	平成 23 年度全体		67.8	32.2
	平成 22 年度全体		77.4	22.6
平成 22 年度	伊藤若冲 －アナザーワールド－展	330	78.2	21.8
	ロボットと美術～身体 ×機械のビジュアルイメージ～	263	84.4	15.6
	出会えます。 あなたの愛する風景	178	69.7	30.3

単位：%

新規来館者

		件数 (件)	「いいえ」	「はい」
平成 23 年度	小谷元彦 幽体の知覚展	50	84.0	16.0
	芸術の花開く都市展	35	91.4	8.6
	京都千年の美の系譜 －祈りと風景	25	88.0	12.0
経 年	平成 23 年度全体		87.3	12.7
	平成 22 年度全体		92.2	7.8
平成 22 年度	伊藤若冲 －アナザーワールド－展	77	93.5	6.5
	ロボットと美術～身体 ×機械のビジュアルイメージ～	77	93.5	6.5
	出会えます。 あなたの愛する風景	19	89.5	10.5

単位：%



〈全体〉をみると、平成23年度は「はい」が32.2%と3割台となり、前年度を上回っている。  
 〈新規来館者〉をみると、平成23年度は「はい」が12.7%と、前年度の新規来館者に比べれば  
 増えているものの、〈全体〉と比較するとその半数以下となっている。

### 美術館カルテ 23 風景の美術館としての認知度

平成 23 年 度	小谷元彦 幽体の知覚展	30.0
	芸術の花開く都市展	34.3
	京都千年の美の系譜－祈りと風景	32.5
経 年	平成23年度全体	32.2
	平成22年度全体	22.6
平成 22 年 度	伊藤若冲－アナザーワールド－展	21.8
	ロボットと美術～身体×機械のビジュアルイメージ～	15.6
	出会えます。あなたの愛する風景	30.3

単位：%

## 4 レストランアンケート結果

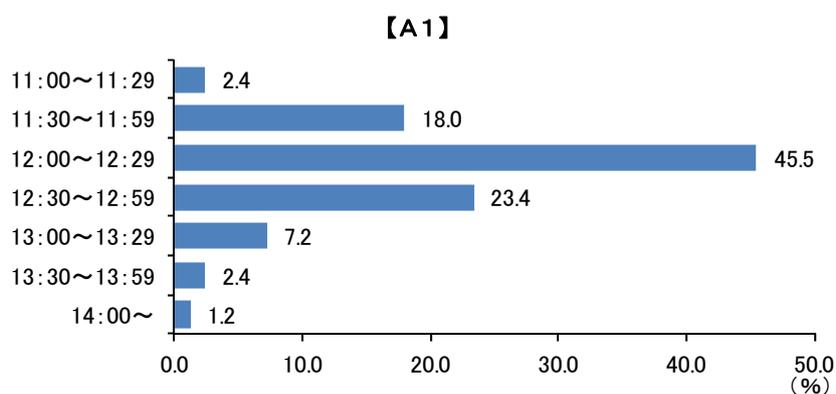
### (1) 実施数 (回答数)

小谷元彦 幽体の知覚展	51 件
芸術の花開く都市展	60 件
京都千年の美の系譜－祈りと風景	56 件
合計	167 件

### (2) アンケート結果

#### A 1 入店時刻

	全体	11:00～ 11:29	11:30～ 11:59	12:00～ 12:29	12:30～ 12:59	13:00～ 13:29	13:30～ 13:59	14:00～
回答数(件)	167	4	30	76	39	12	4	2
割合 (%)	100.0	2.4	18.0	45.5	23.4	7.2	2.4	1.2



#### A 2 注文内容

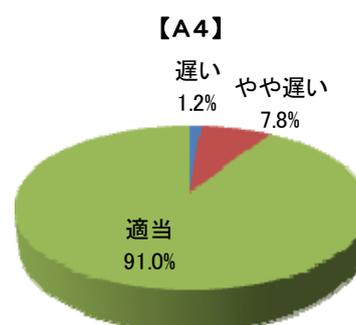
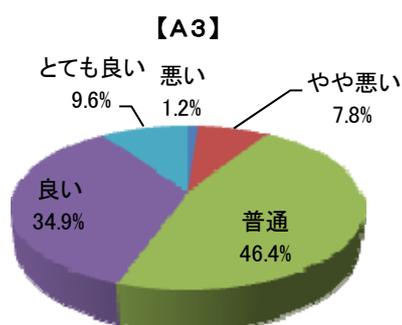
注文した料理	回答数(件)	注文した料理	回答数(件)
Aランチ	54	カレー	3
特別料理	32	牛ステーキとオムライス	3
Bランチ	23	ハヤシライス	2
ハンバーグ	13	お子様ランチ	1
パスタ	9	グリルした鶏肉	1
エビ・カニクリームコロッケプレート	7	ドリア	1
ランチ	6	ピラフ	1
ケーキ	5	ミネストローネ	1
牛ステーキ	4	駿河海鮮ランチ	1
オムライス	3		

### A 3 内容表示のわかりやすさ

	全体	悪い	やや悪い	普通	良い	とても良い
回答数(件)	166	2	13	77	58	16
割合(%)	100.0	1.2	7.8	46.4	34.9	9.6

### A 4 席に案内するまでの時間

	全体	遅い	やや遅い	適当
回答数(件)	167	2	13	152
割合(%)	100.0	1.2	7.8	91.0

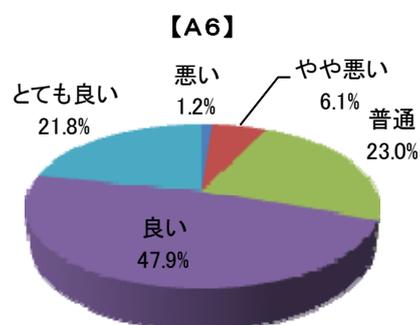
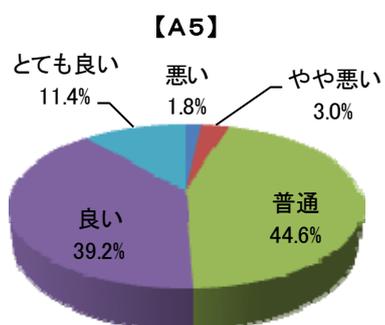


### A 5 メニューの種類

	全体	悪い	やや悪い	普通	良い	とても良い
回答数(件)	166	3	5	74	65	19
割合(%)	100.0	1.8	3.0	44.6	39.2	11.4

### A 6 味

	全体	悪い	やや悪い	普通	良い	とても良い
回答数(件)	165	2	10	38	79	36
割合(%)	100.0	1.2	6.1	23.0	47.9	21.8

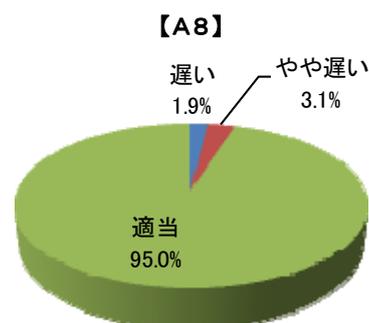
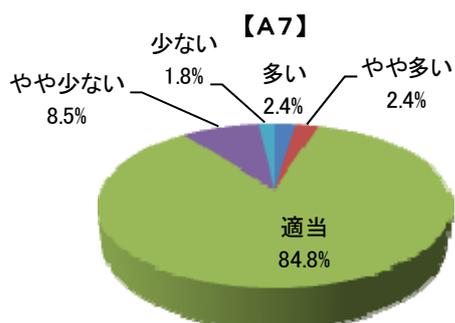


### A 7 量

	全体	多い	やや多い	適当	やや少ない	少ない
回答数(件)	165	4	4	140	14	3
割合(%)	100.0	2.4	2.4	84.8	8.5	1.8

### A 8 料理が出るまでの時間

	全体	遅い	やや遅い	適当
回答数(件)	160	3	5	152
割合(%)	100.0	1.9	3.1	95.0

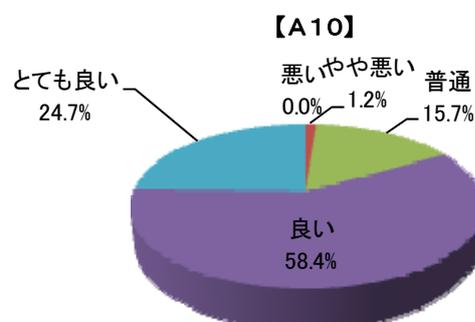
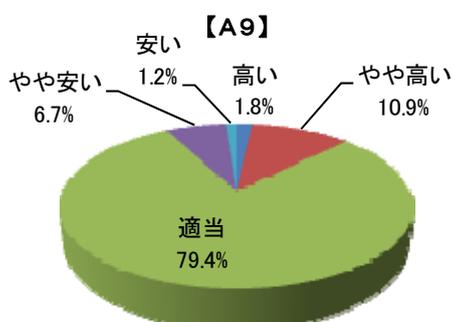


### A 9 値段

	全体	高い	やや高い	適当	やや安い	安い
回答数(件)	165	3	18	131	11	2
割合(%)	100.0	1.8	10.9	79.4	6.7	1.2

### A 10 店の雰囲気、清潔さ

	全体	悪い	やや悪い	普通	良い	とても良い
回答数(件)	166	0	2	26	97	41
割合(%)	100.0	0.0	1.2	15.7	58.4	24.7

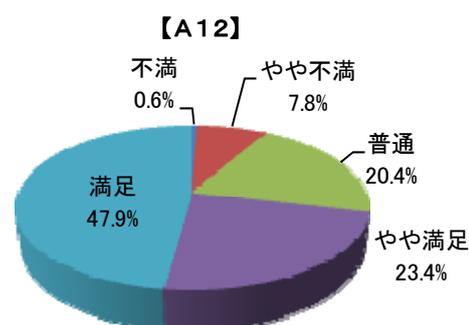
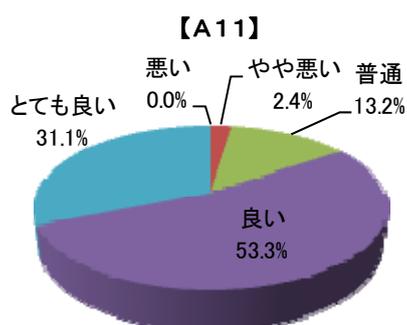


### A 1 1 従業員の言葉遣いや態度

	全体	悪い	やや悪い	普通	良い	とても良い
回答数(件)	167	0	4	22	89	52
割合(%)	100.0	0.0	2.4	13.2	53.3	31.1

### A 1 2 満足度

	全体	不満	やや不満	普通	やや満足	満足
回答数(件)	167	1	13	34	39	80
割合(%)	100.0	0.6	7.8	20.4	23.4	47.9



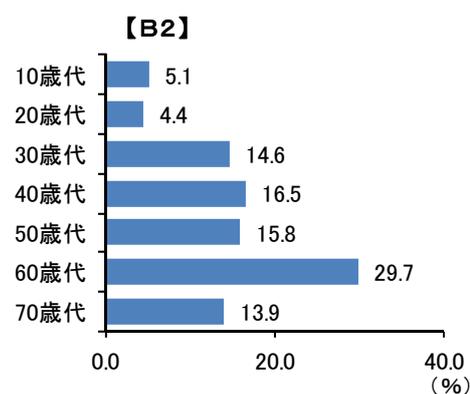
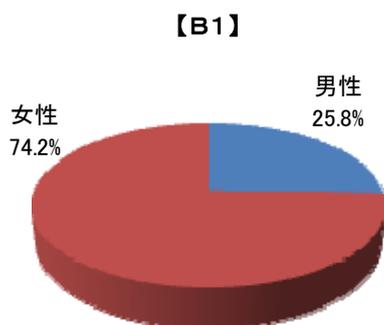
### A 1 3 不満や改善点 (略)

### B 1 性別

	全体	男性	女性
回答数(件)	155	40	115
割合(%)	100.0	25.8	74.2

### B 2 年齢

	全体	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代
回答数(件)	158	8	7	23	26	25	47	22
割合(%)	100.0	5.1	4.4	14.6	16.5	15.8	29.7	13.9

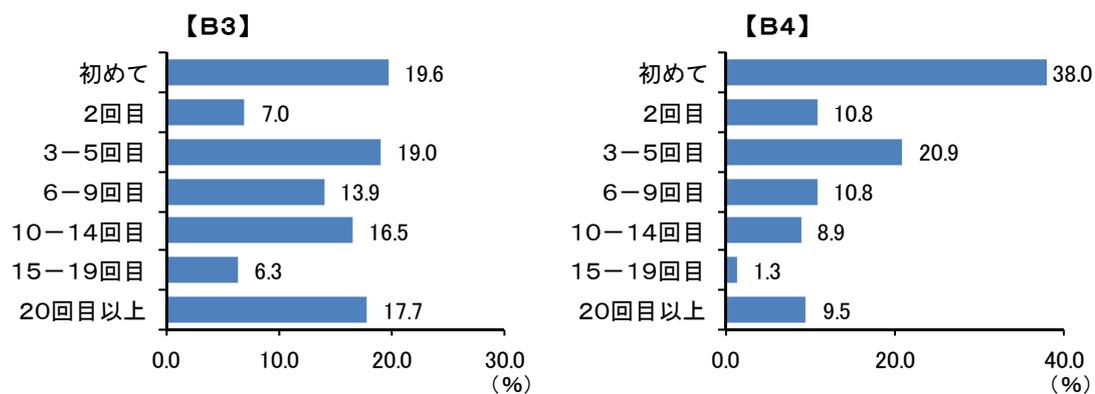


### B3 来館回数

	全体	初めて	2回目	3-5回目	6-9回目	10-14回目	15-19回目	20回目以上
回答数(件)	158	31	11	30	22	26	10	28
割合(%)	100.0	19.6	7.0	19.0	13.9	16.5	6.3	17.7

### B4 レストランの利用回数

	全体	初めて	2回目	3-5回目	6-9回目	10-14回目	15-19回目	20回目以上
回答数(件)	158	60	17	33	17	14	2	15
割合(%)	100.0	38.0	10.8	20.9	10.8	8.9	1.3	9.5



## 5 ミュージアム・ショップアンケート結果

### (1) 実施数 (回答数)

小谷元彦 幽体の知覚展	26 件
芸術の花開く都市展	63 件
京都千年の美の系譜－祈りと風景	67 件
合計	156 件

### (2) アンケート結果

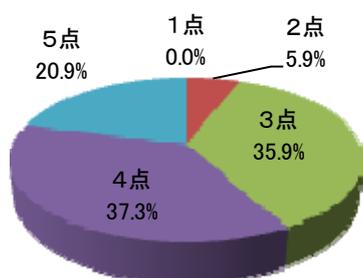
#### A 1 品揃えの充実

	全体	1点(いいえ)	2点	3点(どちらとも言えない)	4点	5点(はい)
回答数(件)	153	0	9	55	57	32
割合(%)	100.0	0.0	5.9	35.9	37.3	20.9

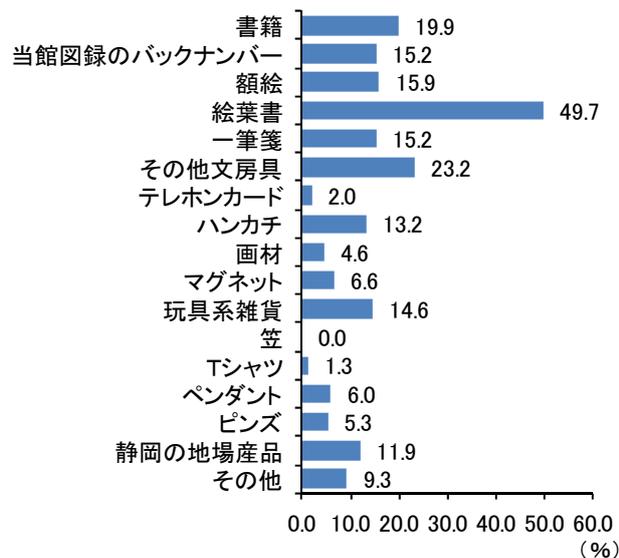
#### A 2 充実してほしい商品 (複数回答)

	全体	書籍	当館図録のバックナンバー	額絵	絵葉書	一筆箋	その他文房具	テレホンカード	ハンカチ
回答数(件)	151	30	23	24	75	23	35	3	20
割合(%)	100.0	19.9	15.2	15.9	49.7	15.2	23.2	2.0	13.2
	画材	マグネット	玩具系雑貨	笠	Tシャツ	ペンダント	ピンズ	静岡の地場産品	その他
回答数(件)	7	10	22	0	2	9	8	18	14
割合(%)	4.6	6.6	14.6	0.0	1.3	6.0	5.3	11.9	9.3

【アンケート数】



【A2】

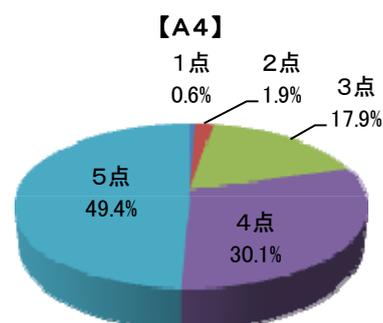
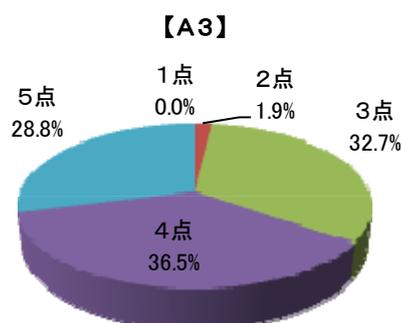


### A 3 価格は適当か

	全体	1点(いいえ)	2点	3点(どちらとも言えない)	4点	5点(はい)
回答数(件)	156	0	3	51	57	45
割合(%)	100.0	0.0	1.9	32.7	36.5	28.8

### A 4 従業員の対応

	全体	1点(いいえ)	2点	3点(どちらとも言えない)	4点	5点(はい)
回答数(件)	156	1	3	28	47	77
割合(%)	100.0	0.6	1.9	17.9	30.1	49.4

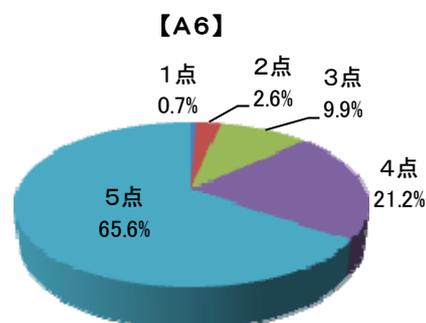
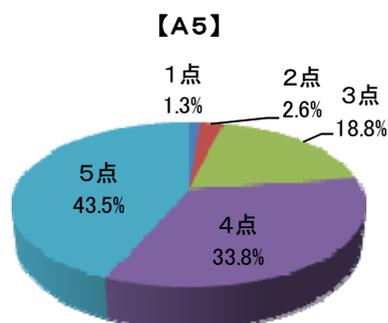


### A 5 静岡県立美術館にふさわしい雰囲気か

	全体	1点(いいえ)	2点	3点(どちらとも言えない)	4点	5点(はい)
回答数(件)	154	2	4	29	52	67
割合(%)	100.0	1.3	2.6	18.8	33.8	43.5

### A 6 次回も来店したいか(満足度)

	全体	1点(いいえ)	2点	3点(どちらとも言えない)	4点	5点(はい)
回答数(件)	151	1	4	15	32	99
割合(%)	100.0	0.7	2.6	9.9	21.2	65.6



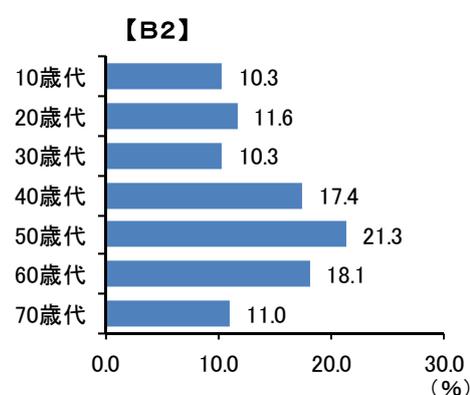
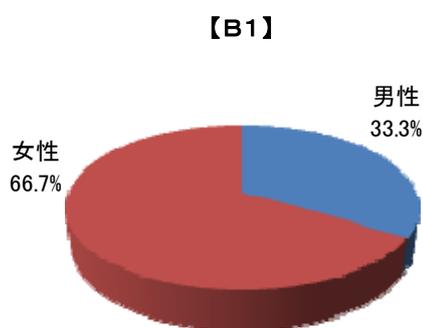
A 7 ご意見・ご感想（略）

B 1 性別

	全体	男性	女性
回答数(件)	156	52	104
割合(%)	100.0	33.3	66.7

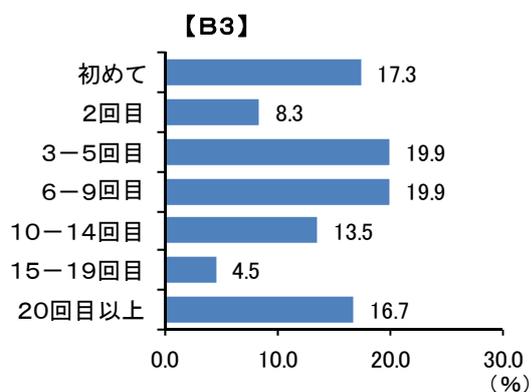
B 2 年齢

	全体	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代
回答数(件)	155	16	18	16	27	33	28	17
割合(%)	100.0	10.3	11.6	10.3	17.4	21.3	18.1	11.0



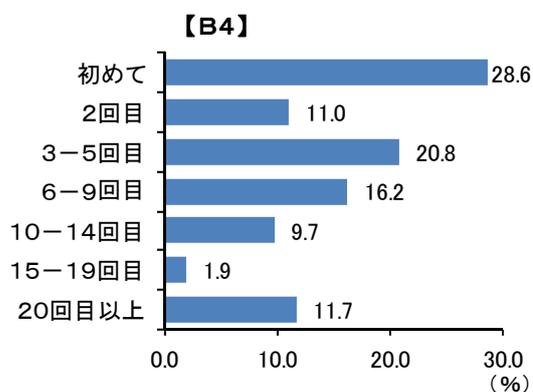
B 3 来館回数

	全体	初めて	2回目	3-5回目	6-9回目	10-14回目	15-19回目	20回目以上
回答数(件)	156	27	13	31	31	21	7	26
割合(%)	100.0	17.3	8.3	19.9	19.9	13.5	4.5	16.7



B 4 ミュージアム・ショップの利用回数

	全体	初めて	2回目	3-5回目	6-9回目	10-14回目	15-19回目	20回目以上
回答数(件)	154	44	17	32	25	15	3	18
割合(%)	100.0	28.6	11.0	20.8	16.2	9.7	1.9	11.7



## 6 美術館ホームページアンケート結果

### (1) 実施数 (回答数)

92 件

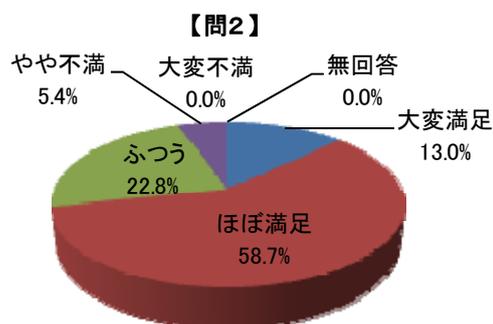
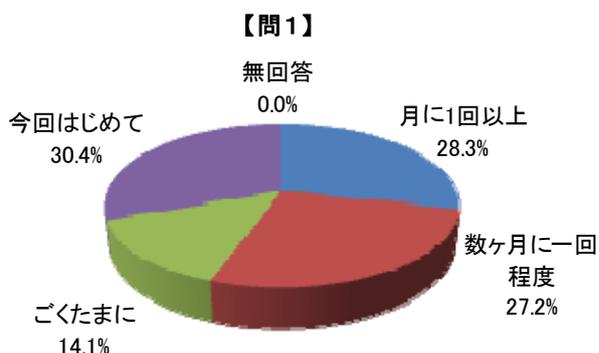
### (2) アンケート結果

#### 問1. 当ホームページをどのくらいの頻度でご覧になりますか？

	全体	月に1回以上	数ヶ月に一回程度	ごくたまに	今回はじめて	無回答
回答数(件)	92	26	25	13	28	0
割合(%)	100.0	28.3	27.2	14.1	30.4	0.0

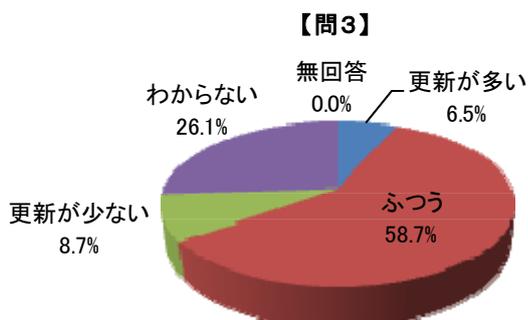
#### 問2. 当ホームページの情報内容について

	全体	大変満足	ほぼ満足	ふつう	やや不満	大変不満	無回答
回答数(件)	92	12	54	21	5	0	0
割合(%)	100.0	13.0	58.7	22.8	5.4	0.0	0.0



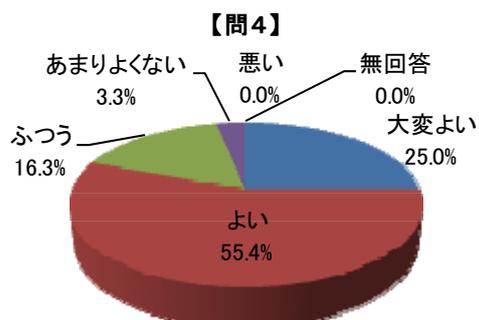
#### 問3. 当ホームページの更新頻度について

	全体	更新が多い	ふつう	更新が少ない	わからない	無回答
回答数(件)	92	6	54	8	24	0
割合(%)	100.0	6.5	58.7	8.7	26.1	0.0



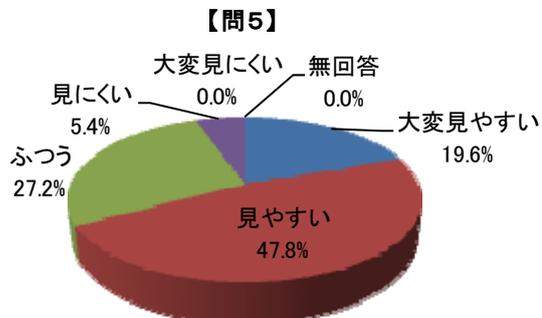
#### 問4. 当ホームページのデザインについて

	全体	大変よい	よい	ふつう	あまりよくない	悪い	無回答
回答数(件)	92	23	51	15	3	0	0
割合(%)	100.0	25.0	55.4	16.3	3.3	0.0	0.0



問5. 当ホームページの見やすさについて

	全体	大変見やすい	見やすい	ふつう	見にくい	大変見にくい	無回答
回答数(件)	92	18	44	25	5	0	0
割合(%)	100.0	19.6	47.8	27.2	5.4	0.0	0.0

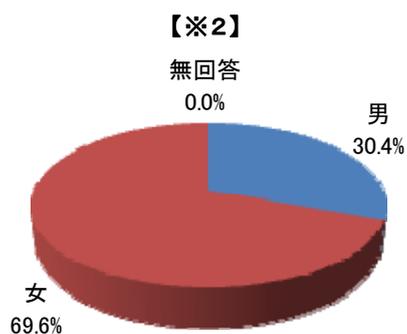
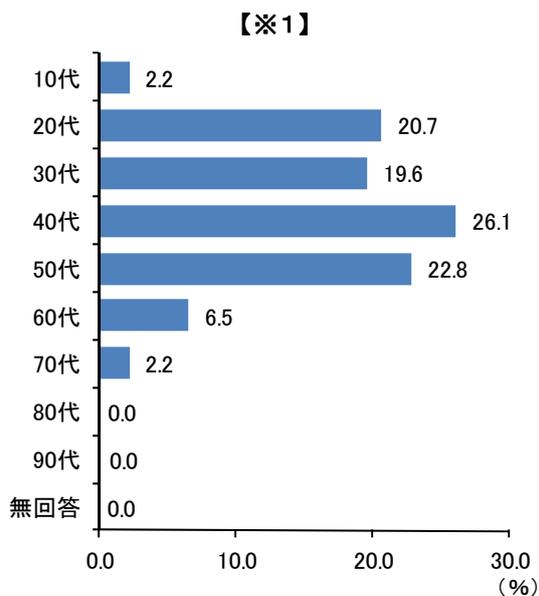


※1 年齢を選択してください。

	全体	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代	無回答
回答数(件)	92	2	19	18	24	21	6	2	0	0	0
割合(%)	100.0	2.2	20.7	19.6	26.1	22.8	6.5	2.2	0.0	0.0	0.0

※2 性別

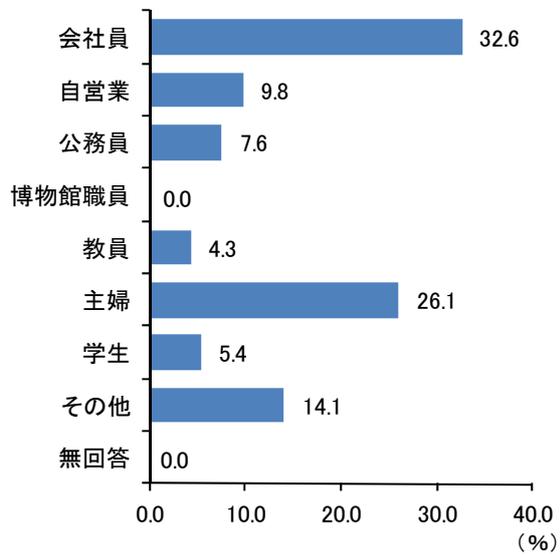
	全体	男	女	無回答
回答数(件)	92	28	64	0
割合(%)	100.0	30.4	69.6	0.0



※3 職業

	全体	会社員	自営業	公務員	博物館職員	教員	主婦	学生	その他	無回答
回答数(件)	92	30	9	7	0	4	24	5	13	0
割合(%)	100.0	32.6	9.8	7.6	0.0	4.3	26.1	5.4	14.1	0.0

【※3】



## 7 静岡県立美術館評価システムのバージョン・アップに向けて

北海道大学 大学院文学研究科

佐々木 亨

今回、「静岡県立美術館評価システムのバージョン・アップに向けて」と題し、平成 22 年度第三者評価委員会報告書を読んだ私なりの感想を含め、改善が必要なところをまとめてみました。改善への提案に際しては、私が昨年度から全国の公立ミュージアムで取り組んでいる評価活動を評価する活動と、今年の夏に受講した日本評価士学会の評価士講習経験を含めてお話ししたいと思います。

私が静岡県立美術館の評価に関わり始めたのは 2001 年で、ちょうど 10 年前のことになります。10 年目の今日こういった話をするので、当時は気付かなかったことや、やってみてはじめて反省すべき点がいくつか見えるのではないかと思います。

### 【PPT : p2 目次】

今日お話しする内容は大きく 4 つです。

一つ目に、今までの評価システム導入の経緯のこと。

二つ目に、全国のミュージアムの評価活動を評価するプロジェクトについて。

三つ目に、評価士資格講習での気づきについて。

四つ目に、まとめとしてどんな改善ができるのかへの提言をしたいと思います。

### 【PPT : p4~5 (1) 研究会として開始した準備期】

まず一番目に、今までの評価システム導入の経緯についてです。平成 13 年度に文部科学省の研究費で行う“評価を現場でする”という実験的取組みのパートナーを静岡県立美術館にお引き受けいただいたのが発端でした。今からちょうど 10 年前のことです。平成 13 年、14 年は手探りではあるものの評価指標の作成と現状値の測定を行いました。ところが、現状値の解釈は職員によってバラバラでした。結局、館の持っている使命や目指すべき目標の詳細がないために、職員による解釈にバラツキが出てしまうという問題点があったわけです。それを受けて、平成 15 年からは外部の評価委員会をつくって、館の使命や目標を整理しはじめます。

平成 13 年、14 年の二カ年間は研究会という位置付けで活動していましたが、当時のメンバーが共有していた意識は「入館者数と収支だけで美術館を評価するのはおかしい」というものでした。では、どんな評価指標が良いのかという主張はなかなかできませんでした。なので、まず「来館者数と収支」という 2 つの指標以外で美術館の価値を測れるものを作っていこうというのがこの時期の活動の中心だったような気がします。私も科研費で月に 1 度はここへ来てワーキングに参加しながら、指標作成や調査をいっしょにやってきました。

### 【PPT : p6 (2) 評価委員会によるシステム構築】

平成 15 年度に評価委員会が設置され、平成 16 年度には提言書をだしました。この提言書の中には、静岡県立美術館の使命や目標を見直したうえでの評価指標の例が示されました。提言書の中ではミュージアムナビと呼ばれたこれらのものは、現行の評価システムの原型になったと思います。

### 【PPT：p7（3）美術館によるシステム運用期】

平成17年度から、ミュージアムナビをベースにして一次評価である自己評価を開始しました。そして、平成18年度には二次評価として自己評価を評価する第三者評価委員会が発足しました。現在もその形が踏襲されていると思いますが、もう一度あらためて現行の評価システムがどういった柱から成り立っているかを平成22年度の評価報告書から整理してみます。

### 【PPT：p8～9（4）現行の評価システム】

まず、業績測定という手法をつかつての自己評価があります。これは、パフォーマンスメジャメントという評価指標を基本として数量を測り、それに対してレビューやレポートを加えたスタイルになっているかと思います。業績測定というものは指標をたくさん並べて、その数値が落ちないように維持する、もしくは数値が落ちてしまった時原因が何かを議論する、といったことに使われる手法です。この業績測定を行うためにあらゆる調査を行っているというのが、静岡県立美術館の現状だと思います。後ほどお話しますが、この業績測定は調査にコストがかかるという欠点を持っています。そして、第三者評価委員会による自己評価の評価としての二次評価、及び県庁の支援に対する一次評価を踏まえた改善に向けた提言という形で評価報告書ができあがっています。

私はこの5年ほど静岡県立美術館の評価システムに直接かかわっていない状況ですが、改めて報告書を見て、いくつかの問題点があると感じます。まず一つ目に、自己評価の構造が非常に複雑になっていること。美術館カルテがあって、評価指標群があって、館長公約と、構造がわかりにくいということがひとつ問題だと思います。二つ目に、県庁の支援体制において、実際の事業レベルでのアクションが少ないこと。他県に比べ、ここまで県のサポートが受けられていることは一定の評価ができます。しかし、県庁の総括ペーパーでは、当然参加すべき委員会や会議への参加報告や「～のように努めています」といった精神論でのコメントが目立ち、具体的なアクションという要素が少ないように思います。三つめは、第三者委員会の評価コメントに、根拠に乏しい思いつきの発言が目立つということ。例えば、「県西部や東部の利用者が10%台であるので、県内からの利用者を増やす仕掛けが大切である」とか、「スパック（静岡県舞台芸術センター）では、俳優が街まで来てパフォーマンスを行っている。美術館も何か新しい試みが求められる」、「新しい視点や切り口で、デザイン・建築・写真などの従来美術を超えるような方向性を積極的に打ち出したらどうか」などです。たしかにそれぞれひとつのアイデアですが、アクションやその目的につながる具体的なものが続いてこない。ある意味、一般来館者の感想と変わらないコメントが羅列されているといった感想を持ちました。なぜ、このようなコメントしか出ないのかと考えると、少なくとも報告書前半部分にも脈絡がないことが原因の一つだと思います。やはり、プロセスや行動指針として、「マーケティング調査の実施をしよう」とか「館のブランドをもう一度議論すべきだ」とか今後の活動を決める建設的な意見が評価委員会から出てしかるべきではないかと思います。現状のようなコメントが独り歩きすれば、かえって県庁や美術館職員が混乱してしまいます。四つ目は、現行の業績測定という手法がプロジェクト（事業）レベルの評価・改善に重点的なものだけということ。実は、プロジェクトの上にあるプログラム（使命・目標）レベルでの見直しが必要ではないかということです。各プロジェクトの評価という横並びの動きだけではなく、使命や目標からみる縦の流れをチェックする必要があるのではないかと思います。この報告書はそのような視点をもっていないと感じます。三つ目と、四つ目の問題点については、後ほど詳しくお話したいと思います。ここまでが、評価導入の経緯と平成22年度の評価報告書を読んだ私の意見です。

### 【PPT：p11（1）調査の枠組み】

二番目ですが、今、評価活動を評価するについて調査をしています。平成22年度、平成23年度を対象に、評価の導入や運用の実態をミュージアムに限らず公立の文化施設で行っています。例えば、図書館やホールも含まれています。この調査後、平成24年度、平成25年度で公立ミュージアム向けのパッケージを用意して施行することも考えています。

### 【PPT：p12（2）公立博物館の評価導入の状況】

この調査とは別に、日本博物館協会で評価導入の状況についてリサーチをしています。平成21年3月の報告書によれば、公立ミュージアムで評価の導入・立上が多いのは平成16年度～平成20年度です。ここでいう評価というのは、基本的に自己点検（評価）があつて、プラス第三者評価があるところもあれば、ないところもあります。必ず自己点検（評価）という行為があることが条件となっています。導入の割合は、平成21年度の時点で自己点検（評価）が2割弱、プラス第三者評価があるところは全体の5%程度でした。ただ、この報告書では数値的な評価のみで、実際にその評価が経営にとってどれだけ有効なのか、どんな課題があるのかといった個々の実態はなかなかわかりませんでした。そこで、今回ヒアリングを実施して有効性や課題の部分を明らかにすることを試みました。

### 【PPT：p13～15（3）調査対象と内容】

まず、自己評価または第三者評価を実施している、またはその導入に向けて検討しているようなところを対象としました。平成22年度は、12か所のミュージアムや財団法人、指定管理者としての財団法人へヒアリングしました。

具体的にはこの12館です（PPT：p14参照）。その下にある3館は、私がプロジェクトベースで関わったもので、これらからの情報も少し参考にして話します。どの館も活動開始は平成16年度から平成20年度の間になっている気がします。活動内容はいずれの館も自己点検（評価）は行っており、それに加えて第三者評価を行っているところが半分くらいありました。

ヒアリング内容は、一つ目は自己点検・第三者評価の概要及び今までの概要を簡単に抑え、二つ目にそのための予算や体制について聞きました。三つ目に、行政が実施する各種評価との整合性をどうとっているかということ。これは例えば、静岡県立美術館いうと、県からみれば美術館が一本の予算のたばになっていて、そういう各たば（事業）ごとに県庁独自で行政評価を行っている、といったように世の中には他にも評価があるわけです。それらとの整合性をどうとっているのか、もしくはそれとはまったく別にやっているのかということ聞いてみました。今日お話ししたいのは、次の2項目の結果です。四つ目として、評価導入によるメリット、もしくは評価がその館で果たしている本質的な役割について、そして最後に五つ目として、今後評価活動を続けていくためにどうしても解決しなければいけないことについて聞きました。

### 【PPT：p16～17（4）ヒアリング調査結果】

四つ目のヒアリング結果ですが、1つの館でかならず1つの答えというわけではないので、複数回答として考えてください。評価の捉え方で圧倒的に多かったのが「職員の意識を変える。気づきの場。」で、12館中7館が答えています。また似た回答で、「モチベーションを高める仕組み」というのが2館ありました。それともう一つ2件出た意見は「事業全体での仕事の位置付けが明確になる。仕事の意味を考える。」のに役立ったというものです。いずれも極めて内部的な話で、館内部で完結するような効果が圧倒的に多いといえます。

評価を継続するためにクリアすべき課題では、静岡県立美術館でも共通することがあるのでは

ないかと思えます。一番多かったのは、「適当な第三者評価委員がない、または少ない。」です。また「○○さんがいなくなったあとどうするか。」という課題も3件ありました。これは、極めて少数の人間が評価に関わっていて、他のメンバーがなかなかそこへ参加していない実状からです。この一部に評価業務が集中している状態もクリアしていかなければ今後の活動継続は難しいと考えられています。三つ目と四つ目は類似しています。だんだんと「最初の意識が薄れてきて、活動自体がマンネリ化・形骸化」してしまう、また、毎年いろいろなバージョンが加わって「作業量が多く、仕組みが複雑すぎる」というものです。そして、「評価結果と予算・人事の議論が別物になっている」という意見も3件ありました。つまり、評価をしてどんなにいい結果がでて、それが予算にも人事にも反映されない、あくまで評価は館内で完結するもので、県庁の予算議論とはまったく異質物であるという問題です。この評価と予算・人事の平行線をクリアできれば意義も深まるというのがこの意見です。考察してみると、やはり評価の意味や位置付けというものが導入当時からかなり変化しているのではないかと思います。静岡県立美術館でも同じだったかと思いますが、当初は評価を経営改革のツールや納税者への説明責任として重視していたと思います。今でもその意識はある一方で、それよりも館職員の意識という部分に位置付けが変化しているのではないのでしょうか。

#### 【PPT：p18（5）考察】

ヒアリング調査結果でみてきた課題のうち、第三者評価委員の適性、個人に頼りすぎている評価活動、活動自体のマンネリ化・複雑化、そして予算や人事との連動は静岡県立美術館でも担当者がお感じになっていることかもしれません。この調査はまだ継続中で、現時点で結論はいえませんが、私としては、従来の評価の枠組みである自己点検と第三者評価という要素だけでは評価活動を適正にまわせないのではないかと思うようになりました。

#### 【PPT：p19（6）結論】

結論として、予算や人事とのリンクに挑戦すること、また、第三者評価委員に適当な方がいなければ、この委員の役割自体を見直す必要があるのではないかと思います。そして、組織として評価作業をまわしていくこと自体の見直し、つまり、そろそろ評価システム自体を見直し、リニューアルすることを真剣に考えて良い時期に来ているのではないかと感じます。ここまでが、2番目のセクションで、この1年半で行った調査の中間報告的なものです。

#### 【PPT：p21～22（1）ODA医療機関評価の現状】

次に三番目の、私がこの夏経験した評価士資格研修についてです。自分自身もいろいろな館に関わっておりますが、評価を体系的に勉強したことはありませんでした。この夏6日間、東京で研修を受けてきました。実際、40人くらいの方が参加しており、そのうち30人以上はODA（政府開発援助）か医療関係者でした。あとの残りは大学評価や行政評価のセクションにいる方が数名で、ミュージアム関係は私だけでした。この研修のなかで、ミュージアムの評価とちがってよく整理されている点が4つありました。一つは、いろいろな評価手法を体系化したスタイルを持っていて、どの手法を適用するかケースバイケースでアレンジしている点。例えば、ここに挙げたセオリー評価。これは、使命と目標とその下にある各プロジェクトのストーリー性をとらえて、評価する価値があるプロジェクトなのかをアセスメントする手法です。評価可能性アセスメントとも書かれています。そして、プロセス評価では、成果がでるまでの道筋や計画、アクションの進捗を時間を追いながらみていきます。インパクト評価というのは、対象実験のようなもので、ある事業を受けたグループと受けていないグループにおいてその影響力を比較するというもの。

両者に違いがなければ、事業の効果があつたとは言えず、厳密に事業成果を測る手法がこのインパクト評価です。最後に費用-効率性評価です。これはインプット、つまり投入した資源に対してアウトプットがどれくらい出たかという比率の議論です。道路や公園を作った時適用される手法です。二つ目として、多様な評価アプローチという点。インパクト評価のような実験的なものもあれば、静岡県立美術館でも行っているような業績測定もありますし、関係者みんなで議論しながら評価をすすめる参加型のアプローチもありました。三つ目は、評価結果の解釈のルール化という点です。資料の1はJICA（独立行政法人国際協力機構）の事業評価のレーティング・フローサンプルです。これはJICAの円借款事業を対象にした例です。JICAのプロジェクトは大抵、「1. 効果があつたか（妥当性）」、「2. 有効だったか（有効性）」、「3. 資金投入は効率的だったか（効率性）」、「4. 今後継続が可能か（継続性）」の大きく4つの指標に基づいて、極めてシステマチックに評価されていきます。例えば、第三者評価委員会の評価委員がレーティング・チャートに基づいて妥当性から検証していきます。妥当性において政策との整合性にCランクが付いた段階で、総合評価ではDランクとなってしまいます。総合評価Dは事業として残す意味がないという評価です。妥当性でAまたはBランクであれば、有効性を評価する段階に進みます。有効性でも残れば、効率性、継続性と評価が続き、最終的にABCで総合評価が行われます。ABCという評価方法は機械的で、美術館にはなじまないと思いますが、少なくとも政策と各プロジェクトとの整合性・妥当性から有効性、効率性、継続性と評価を落とし込んでいくプロセスがJICAでは定着しています。JICAの事例の下にあるDAC評価5項目というのがあります。ここでもJICAと類似した評価指標が定着し、フローチャートで評価できるようになっているそうです。これらのルール化で私が感心したのは、評価を行う人の倫理規定ができていているということです。これは第三者評価委員会にも適用できると考えます。そもそも評価というものは社会でどのような活動として位置付けられているのか、評価するときの心構え、スキルはどうあるべきか、ということが書かれています。4つ目としては、年間何百というプロジェクトをまわしているJICAのような組織には多様な評価事例が蓄積されているという点です。それにより、評価結果を評価することが可能になります。メタ評価という言い方をしますが、評価報告書をチェックするときのチェックリストができあがっています。

#### 【PPT：p23（2）「事業測定」の長所と短所】

美術館の話から少しそれてしまったので、話を戻すためにも先ほどの調査手法について詳しくみていきます。まず、事業実績測定についてです。実はこの評価には非常にはっきりとした短所と長所があることがわかりました。長所は、広範囲な事業を対象に評価できるという点です。一個一個の事業、静岡県立美術館でいうと展覧会、教育普及、ボランティア事業といったものを広範囲に扱うことができ、なおかつ毎年やっていくことで恒常的な評価もできます。広く浅くモニタリングすることで次の2つの効果が期待できます。1つ目は早期の警告です。満足度が低下すれば、何かおかしいと気づくことができます。2番目はアカウントビリティ、つまりわかりやすさです。数字に表せることで、納税者に対する説明責任という点で重要となります。静岡県立美術館のカルテは事業実績測定という面で有効でしょう。ただし、事業実績測定には欠点もあります。問題の真因をひとつ上の目標レベルで探ることができない点がそのひとつです。これはODAの事例ですが、例えば、発展途上国でより良い職業にいかにより多くの若者を就かせるかという目標があり、それを達成するためのプロジェクトとして職業訓練をすることになりました。主にはトレーニングと働くことへの動機づけ、また、求人面接のスキルを身につけることがプロジェクトの内容でした。結果としていずれの内容も満足度は非常に高かったのですが、もともとのより良い

職業に就くという目標は達成できませんでした。その国の構造をみていくと、雇用側の経営スキルが非常に貧弱で、そこに支援の手をいれなければ若者がより良い職業に就くことはできないというのが結論でした。個々のプロジェクトでは成果があがっているのに、目標が達成できないときは、やはり縦の関係をみていかなければならないという事例だと思います。もう一つの欠点は、広範囲で数字を取るためにコストがかかるという点です。

#### 【PPT：p 24～25（3）「セオリー評価」の重要性】

研修で、むだな評価報告書をつくらないためにまずやりなさいと言われたのがこの「セオリー評価」です。むだな評価報告書とは、プログラムとプロジェクト（事業レベル）とのストーリーの枠からはみ出した事業を評価したもののことです。これらを実際にもプログラムにはなんの影響もありません。プロジェクト（事業）を実現することで、上位のプログラムを達成できるストーリーが展開できているかどうかを調べるのがこのセオリー評価です。今までの事業測定では、横のつながりだけをずっと見ているんですが、本当にプログラムとの関係性が合っているのかどうかという縦のつながりもみましようというのがこのセオリー評価です。当然、このセオリーを考えたときには住民のニーズがそこにあるのかが重要な要素になってくると思います。静岡県立美術館の評価をみると、例えば、自己評価のA評価のところで「人々の感性を磨き、生活に変化をもたらす、魅力的な展覧会」というのが大きな目標レベルになっていて、チェックする項目は「新たな視点の工夫」とか「美術館と大学の連携をして企画力をアップする」とか「特長のあるコレクションの併設」がありますが、本当にそれらがセオリーとして成り立つのかというところを今一度チェックしてもよいのではないかと思います。

#### 【PPT：p 26（4）「インパクト評価」の重要性】

次に、インパクト評価です。資料3に図が載っています。本当にその事業に効果（影響力）があったのかを測定する手法です。ある事業が実施されたグループと実施されなかったグループによる純粋な効果比較をするものです。実際に、事業が実施されたグループの評価指標値から実施されなかったグループの評価指標値を引いて、そこに差があるかどうかを調べる手法です。大学院の学生が、自分たちのつくった博物館の展示コーナーで、インパクト評価を実際に行っています。展示コーナーにはその展示を説明した3分間の映像が設置してあるんですが、その映像制作にはコストも時間もかけられています。その映像が本当に展示をみる人に効果的かを実験しています。映像をみて、そこからどんな情報を得たかを書いてもらったり、インタビューしたりするグループと、映像を見せずに展示だけを見てもらったグループとで理解度がどれくらい違うかを100サンプルとって比較しています。実は、映像の効果はあまりないという結果が出そうで、であれば、その展示コーナーに置いた映像にそれほどインパクトはなかったということになります。このような対象実験がインパクト評価というものです。

#### 【PPT：p 28～33（1）現行評価システムの問題点とバージョンアップの方向性】

四番目の最後のセクションで、現行の評価システムのバージョンアップについて提言したいと思います。まず、現行の問題点として4つ挙げています。一つ目に、自己評価の構造が複雑であること。二つ目に、県庁の支援体制における事業アクション不足です。三つ目として、第三者委員会のあり方がこれでよいのかということ、四つ目として、業績測定をプロジェクトレベルで見ることに加え、ひとつ上の目標レベルからのセオリーを考えることです。一つ目と二つ目については、ここで提言といってもなかなか難しいので、三つ目と四つ目についてお話ししたいと思います。まず、第三者評価委員会のあり方についてですが、ここに参加型のアプローチを加えてみたらど

うでしょうか。例えば、特別展であれば、今まではアンケート調査をして集計・分析を行い、統計的な正しさを持って客観的な報告書ができあがるんですが、それよりも評価結果をもっと有効に使うというところに重点を置くことが参加型アプローチの特長だと思います。簡単な集計レベルの数値が出てきた段階で、担当の学芸員や課の職員、ミュージアムスタッフ、解説ボランティアなどがその情報を共有し、ワーキングをしながら次のアクションにつながる議論をして、その内容を報告書に盛り込む。現場の人たちが議論に加わることで、データを有効に使うことができると考えます。この中に評価委員も一緒にはいって議論に加わるという形は可能ではないかと思います。このように評価を手段として使えば、評価委員も含めたボランティアやミュージアムスタッフなどの評価事業に対する理解の促進もできますし、改革していこうという意思を維持することも可能だと思います。

もう一つの形として、これは実際にヒアリングした中で事例がいくつかあったものなのですが、第三者評価委員会がもっと主体的に評価の調査や項目検討に加わるというやり方です。例えば、東京都の写真美術館は、第三者評価委員が評価指標群を4年に1回検討して、必要があれば全部入れ替えたりしています。館側と委員会側が議論して、かなり大胆な決定の仕方をしています。最近注目されている、千代田区にある区立図書館の評議会では、前年度の数字を把握したなかで特に数値が低かったものについてピンポイントで徹底的に調査・評価するワーキングを立ち上げて、実際にワーキングメンバーが調査を行い評価レポートも書いています。業務としてはハードですが、確実に成果が上がります。ちなみに今年は、ネット上でサービスしている電子書籍の利用度に焦点を当てて取り組んでいるそうです。このような形を静岡県立美術館で実施するとすれば、過年度のデータから特にアクションが必要なものを決めて、第三者評価委員会で改善のアクション計画、その実行、効果の検証をすることは可能ではないかと思います。

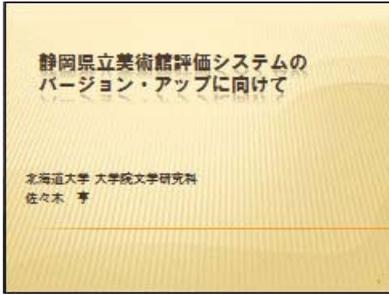
もう1つ、プログラムレベルからのプロジェクトの見直しをしてみましょう。今までの事業業績測定は同じひとつの視点から串刺しに数字をとっているという傾向が強いと思います。そうではなく、目標とのストーリーが成り立っている事業、本当にインパクトのある事業という視点でとらえ直し、効果に疑問があるものは縮小や中止を検討してもよいのではないかと思います。つまり、縦の目標レベルとの関係性で事業を整理していくことが必要ではないかと思いました。

#### 【PPT：p34（2）おわりに】

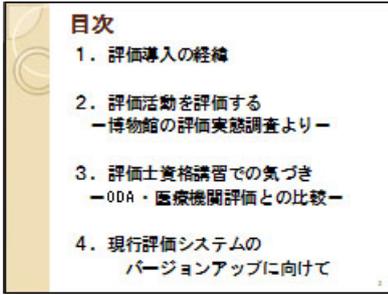
改めて、評価をすることで館内に活発な議論が起こっているかや、館職員が目標を共有できているのかなどを確認する必要があるのではないかと思います。評価はいろいろな気づきを生みだしてくれる道具で、そもそもなぜ評価をやるのかということは今一度確認してみたいと思います。もし、必要であれば現行評価の枠組みをリニューアルすることにも挑戦してもらいたいと思いました。4番目のセクションでのバージョンアップに向けた提言は、あくまで私個人の意見ですけれども、前半のヒアリング結果やODAの評価システムの事例はぜひ参考にさせていただきたいと思います。改善の道筋が見えるのではないかと感じました。

以上です。どうもありがとうございました。

PPT p 1



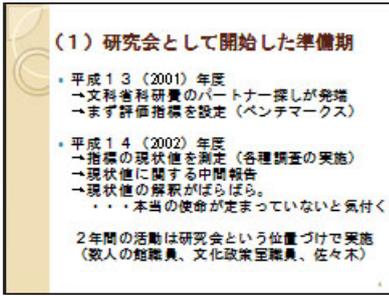
PPT p 2



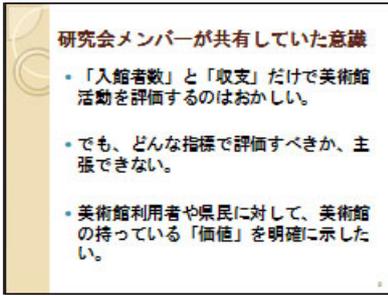
PPT p 3



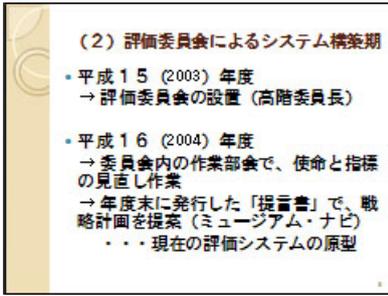
PPT p 4



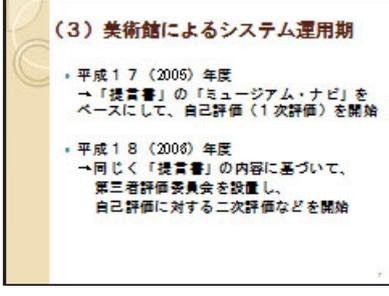
PPT p 5



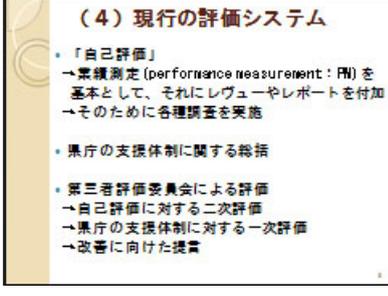
PPT p 6



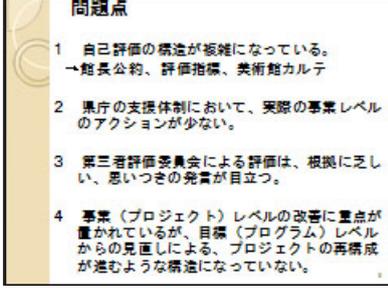
PPT p 7



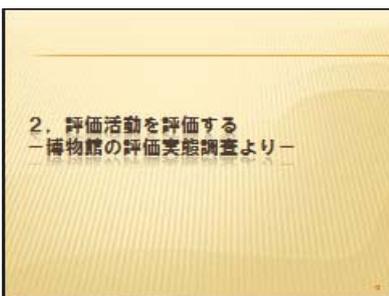
PPT p 8



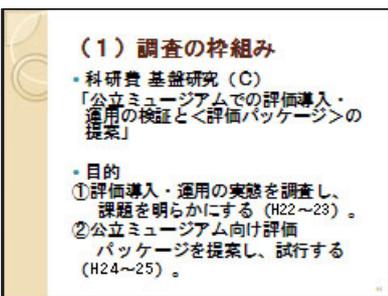
PPT p 9



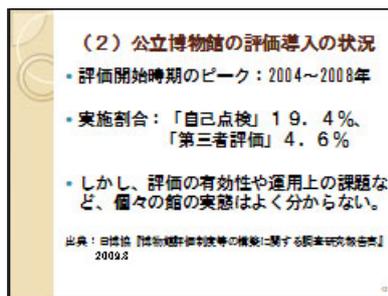
PPT p 10



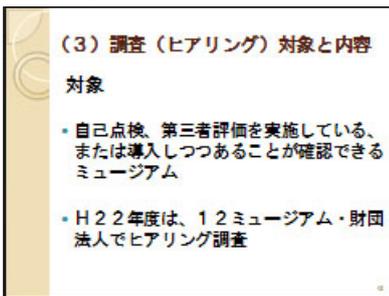
PPT p 11



PPT p 12



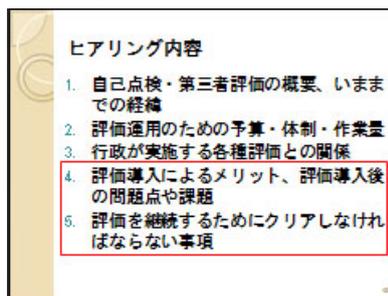
PPT p 13



PPT p 14

調査対象	調査年度	調査方法
1 徳島市立中央図書館	2009	自己点検
2 鳥取県立美術館	2009	自己点検
3 山形県立美術館	2009	自己点検
4 山形県立博物館	2009	自己点検
5 徳島市立博物館	2009-2010	自己点検
6 徳島市立博物館	2010	自己点検
7 徳島市立博物館	2010	自己点検
8 徳島市立博物館	2010	自己点検
9 徳島市立博物館	2010	自己点検
10 徳島市立博物館	2010	自己点検
11 徳島市立博物館	2010	自己点検
12 徳島市立博物館	2010	自己点検
13 徳島市立博物館	2010	自己点検
14 徳島市立博物館	2010	自己点検
15 徳島市立博物館	2010	自己点検
16 徳島市立博物館	2010	自己点検
17 徳島市立博物館	2010	自己点検
18 徳島市立博物館	2010	自己点検
19 徳島市立博物館	2010	自己点検
20 徳島市立博物館	2010	自己点検
21 徳島市立博物館	2010	自己点検
22 徳島市立博物館	2010	自己点検
23 徳島市立博物館	2010	自己点検
24 徳島市立博物館	2010	自己点検
25 徳島市立博物館	2010	自己点検
26 徳島市立博物館	2010	自己点検
27 徳島市立博物館	2010	自己点検
28 徳島市立博物館	2010	自己点検
29 徳島市立博物館	2010	自己点検
30 徳島市立博物館	2010	自己点検
31 徳島市立博物館	2010	自己点検
32 徳島市立博物館	2010	自己点検
33 徳島市立博物館	2010	自己点検
34 徳島市立博物館	2010	自己点検
35 徳島市立博物館	2010	自己点検
36 徳島市立博物館	2010	自己点検
37 徳島市立博物館	2010	自己点検
38 徳島市立博物館	2010	自己点検
39 徳島市立博物館	2010	自己点検
40 徳島市立博物館	2010	自己点検
41 徳島市立博物館	2010	自己点検
42 徳島市立博物館	2010	自己点検
43 徳島市立博物館	2010	自己点検
44 徳島市立博物館	2010	自己点検
45 徳島市立博物館	2010	自己点検
46 徳島市立博物館	2010	自己点検
47 徳島市立博物館	2010	自己点検
48 徳島市立博物館	2010	自己点検
49 徳島市立博物館	2010	自己点検
50 徳島市立博物館	2010	自己点検
51 徳島市立博物館	2010	自己点検
52 徳島市立博物館	2010	自己点検
53 徳島市立博物館	2010	自己点検
54 徳島市立博物館	2010	自己点検
55 徳島市立博物館	2010	自己点検
56 徳島市立博物館	2010	自己点検
57 徳島市立博物館	2010	自己点検
58 徳島市立博物館	2010	自己点検
59 徳島市立博物館	2010	自己点検
60 徳島市立博物館	2010	自己点検
61 徳島市立博物館	2010	自己点検
62 徳島市立博物館	2010	自己点検
63 徳島市立博物館	2010	自己点検
64 徳島市立博物館	2010	自己点検
65 徳島市立博物館	2010	自己点検
66 徳島市立博物館	2010	自己点検
67 徳島市立博物館	2010	自己点検
68 徳島市立博物館	2010	自己点検
69 徳島市立博物館	2010	自己点検
70 徳島市立博物館	2010	自己点検
71 徳島市立博物館	2010	自己点検
72 徳島市立博物館	2010	自己点検
73 徳島市立博物館	2010	自己点検
74 徳島市立博物館	2010	自己点検
75 徳島市立博物館	2010	自己点検
76 徳島市立博物館	2010	自己点検
77 徳島市立博物館	2010	自己点検
78 徳島市立博物館	2010	自己点検
79 徳島市立博物館	2010	自己点検
80 徳島市立博物館	2010	自己点検
81 徳島市立博物館	2010	自己点検
82 徳島市立博物館	2010	自己点検
83 徳島市立博物館	2010	自己点検
84 徳島市立博物館	2010	自己点検
85 徳島市立博物館	2010	自己点検
86 徳島市立博物館	2010	自己点検
87 徳島市立博物館	2010	自己点検
88 徳島市立博物館	2010	自己点検
89 徳島市立博物館	2010	自己点検
90 徳島市立博物館	2010	自己点検
91 徳島市立博物館	2010	自己点検
92 徳島市立博物館	2010	自己点検
93 徳島市立博物館	2010	自己点検
94 徳島市立博物館	2010	自己点検
95 徳島市立博物館	2010	自己点検
96 徳島市立博物館	2010	自己点検
97 徳島市立博物館	2010	自己点検
98 徳島市立博物館	2010	自己点検
99 徳島市立博物館	2010	自己点検
100 徳島市立博物館	2010	自己点検

PPT p 15



**(4) ヒアリング調査結果**  
評価の捉え方

・ 評価の意義や位置づけが不明になる、評価の意義を再考する。	2
・ モニタリング・評価の仕組みが不明	2
・ 評価の仕組みが不明	1

評価を継続するためにクリアすべき課題

・ 適切な第三者評価委員がいない、または少ない。	5
・ 口頭のみでなく、書面での報告が必要	3
・ 資料の整理が滞り、評価結果がマンネリ化・形式化	3
・ 評価結果が多く、仕様が複雑すぎる。	3
・ 評価結果に手紙、人事の連絡が滞りになっている。	3
・ 本来、継続して見られるべき項目	1
・ 評価結果に基いた第三者委員の選定	1
・ テーマの不明確さ、評価結果の活用が不明瞭	1
・ 評価結果を組織に還元する体制がない。	1
・ 評価結果をトップが使いこなせていない。	1

**(5) 考察**

1. 評価の意味や位置づけが、評価導入当時から変化してきている。
2. 評価活動を継続させるためにクリアすべき共通の課題がある。
  - ・ 適当な第三者評価委員がいない。
  - ・ 評価活動を個人に頼りすぎる。
  - ・ 評価活動のマンネリ化・形式化。作業量が多く、仕組みが複雑。
  - ・ 評価が予算・人事と連動していない。

**(6) 結論**

- ・ 従来の「評価の枠組み」
- ・ 評価指標
- ・ 評価の組み合わせ（自己+第三者）だけでは、この活動はうまく回らない。
- ・ 予算・人事とのリンクに挑戦
- ・ 第三者評価委員の発掘・育成 または同委員会の役割見直し
- ・ 評価作業を組織として運用
- ・ 評価システム自体の評価とリニューアル

3. 評価士資格講習での気づき  
— ODA・医療機関評価との比較 —

**(1) ODA・医療機関評価の現状**

- ・ 多様な評価手法の存在
  - ・ セオリー評価（評価可能性アセス）
  - ・ プロセス評価
  - ・ インパクト評価
  - ・ 費用-効率性評価 など
- ・ 多様な評価アプローチの活用
  - ・ 実験デザイン・アプローチ
  - ・ 業績測定（PM）アプローチ
  - ・ 参加型アプローチ（利害関係者の参加）

- ・ 評価結果の解釈のルール化
- ・ JICAの事例<資料1>
  - 妥当性・有効性・効率性・持続性
- ・ DAC評価5項目
  - 妥当性・目標達成度・有効性・効率性・自立発展性
- ・ 倫理規定
- ・ 多様な評価事例
- ・ メタ評価（評価結果を評価する）
- ・ チェックリスト<資料2>の存在

**(2) 「業績測定」の長所と短所**

- ・ 長所：
  - 事後評価、広範な評価対象（「プロジェクト」レベル）、恒常的に実施
  - 広く深くモニタリングし、「早期の警告」と「アカウンタビリティ」を行うのが重要な役割
- ・ 短所：
  - ・ 「プログラム」レベルから見ないと、問題点の原因が分からない。
  - ・ 現状値の収集にコストがかかる。

**(3) 「セオリー評価」の重要性**  
無駄な評価報告書を作らないために

- ・ すべてのプログラムは、目標を有する。
- ・ 事業（プロジェクト）は、プログラムの目標の達成のための手段であり、両者は連続している。
- ・ セオリーは、原因（手段）と結果（目標）の関係性についての「仮説」である。
- ・ この「仮説」がうまく機能しているかどうかをチェックするのが、セオリー評価。

目標プログラム

セオリー

業績プログラム群

**(4) 「インパクト評価」の重要性**  
本当に、その事業に効果があったのか？

- ・ ある事業が実施されたグループと実施されなかったグループにおける「純効果」を測定する評価
- ・ 純効果 = 実施グループの成果指標値
  - 比較グループの成果指標値
  - 外部要因による影響値
  - 評価デザインによる影響値
- ・ 手法：ランダム実験モデル <資料3>

4. 現行評価システムのバージョンアップに向けて

**(1) 現行評価システムの問題点とバージョンアップの方向性**

問題点

- 1 自己評価の構造が複雑
- 2 県庁の支援体制における事業アクション不足
- 3 第三者評価委員会のあり方の見直し
- 4 目標（プログラム）レベルからの事業（プロジェクト）の見直し・再構築

< 3 第三者評価委員会のあり方の見直し >

(a) 参加型アプローチの検討

- ・ 例えば、特別版であれば、
  - 担当学委員、総務課職員、ミュージスタッフ、解説ボランティアの4者による、評価データの共有とWGの開催
- ・ 評価結果の正しさ（客観性）よりも、評価結果の活用（有用性）を重視
- ・ 評価を手段として、メンバーの理解促進、エンパワーメントを目指す。

(b) 評価項目を第三者評価委員会が主体的に検討

- ・ 例えば、東京都写真美術館では、第三者評価委員会が指標群を検討し、決定する。
- ・ 千代田図書館では、評価指標の前年度の現状値を見た上で、図書館評議会が重点的に評価する事業を選定する。
  - 評議会のWG（3名）が評価のための調査も実施

PPT p 31

もし、静岡県美で (b) を実施するならば

- 特定の事業を評価対象  
→ 例えば、年間一つの特別展
- 過年度データより、事前に課題を予見
- その課題に対して、具体的な改善アクションを計画し、実行
- その効果を測るための調査を評価委員が企画し、調査結果を評価する。

PPT p 32

< 4 目標 (プログラム) レベルからの事業 (プロジェクト) の見直し・再構築 >

- インパクト評価による各事業の整理
- セオリー評価による、「プログラム-プロジェクト」ツリーの見直し

PPT p 33

事業の見直し

先行の経路: すべての事業を同じ視点で評価 (数方向の赤い線)

目標プログラム

事業プロジェクト

インパクト評価

経路の見直し: まず、事業のインパクトを評価。併せて、新たに数方向(青い線)のセオリーを設定。インパクトが少なく、セオリーから外れる事業を中止・縮小。また、新規事業も検討

PPT p 34

(2) おわりに:

評価活動を持続可能にするために  
評価活動を始めた当時の思いに立ち返ってみる。

- 美術館職員が活発に議論しているか。
- 美術館職員が評価の目的を共有しているか。

→ 目的を共有できる「評価の枠組み」にリニューアルする。

## Ⅲ

### 県庁の支援体制

---

#### 総括表

##### I 平成 23 年度実績

- 1 美術館と県庁の連携体制の確保
- 2 庁内・地域・学校教育との連携
- 3 戦略的な広報
- 4 施設の改修

##### II 平成 24 年度方針

- 1 美術館と県庁の連携体制の確保
- 2 庁内・地域・学校教育との連携
- 3 積極的な広報展開
- 4 施設の改善

県庁の支援体制  
「平成 23 年度方針」 総括表

	方針	実績	達成度
1 美術館と県庁の連絡体制の確保	<p>●通常業務における連携体制の継続</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・美術館の運営に対して適切に支援を行うため、前年度に引き続き美術館との打ち合わせ会や催事等に参画し、課題や情報を共有する。(継続)</li> <li>・「部長と語る会」を開催する。(新規)</li> <li>・美術館で新たに発足させた広報チームに参画する。(新規)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・美術館の月例打ち合わせ会や開会式などの催事に参画し、課題や情報を共有した。(継続) 参画催事：企画展開会式（5回） 特別講演会（1回） 美術館協議会（2回） 資料評価委員会（1回） ムセイオン静岡（4回）</li> <li>・「部長と語る会」を8月17日に開催し、美術館の観光資源としての新たな役割等について意見交換を行った。(新規)</li> <li>・広報チームの月例の打ち合わせ会に参画し、予算や県庁の持つ広報媒体について情報提供を行った。(新規)</li> <li>・美術館の行う「キッズアートプロジェクトしずおか事業」及び「中学生の美術展覧会鑑賞推進事業」が、国庫補助事業として採択されるよう文化庁と調整を行った(平成24年度採択)。(新規)</li> </ul>	B
2 庁内・地域・学校教育との連携	<p>●県職員の美術館への理解促進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定例幹部職員会議等、庁内の職員向けに美術館のPRを行う。(継続)</li> <li>・職員向け鑑賞ツアーを実施する。(継続)</li> </ul> <p>●文化関連事業及び県内文化団体との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「こどもたちの文化芸術鑑賞推進事業」について引き続き学校への情報伝達を図るとともに、未実施市町に対し事業をPRする。(新規)</li> <li>・「ふじのくに芸術祭2011」における「美術展・写真展」を美術館で開催するとともに、県内文化団体と連携した関連イベントを美術館で実施する。(新規)</li> </ul> <p>●他分野（教育、福祉、医療等）との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・当面は、教育普及など美術館の実施事業と関係が深い教育分野との連携について引き続き検討を進めていく。(継続)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定例幹部職員会議や全庁掲示板等で企画展や美術館の取組を紹介した。(継続)</li> <li>・鑑賞ツアーは、効果が一部の者に限定されるため、幹部職員を対象とした美術館友の会への入会促進や、全庁掲示板等での美術館企画展の告知により、より幅広く職員の来館を促進した。(継続)</li> <li>・未実施市町のうち、参加が少ない伊豆・東部地域の中で、特に交通の便がよく、旅程に無理のない5市町の教育委員会を訪問し、各市町の学校へ本事業を周知するとの協力を得た。(伊豆の国市、伊豆市、函南町、清水町、長泉町)(新規)</li> <li>・「美術展・写真展」を美術館で開催した。また、新たに舞踊協会による公演や児童合唱団によるコンサート等の関連事業を美術館で開催した。(新規)</li> <li>・教育分野との連携を重点的に進めることとし、「ムセイオン静岡」の事業の一環として、新たに各施設が協働して「ふじのくに文化の丘フェスタ」を開催し、連携強化を図った。なお、平成24年度において「中学校の美術展覧会鑑賞推進事業」により、学校教育向けの事業を充実させることとした。(継続) (「ムセイオン静岡」とは、谷田地域周辺文化施設の相互の協力と施設・人材等を活用した地域貢献のための会議。参加団体は、県立大学、県立中央図書館、県埋蔵文化センター、SPAC、グランシップ、県立美術館。)</li> </ul>	C
3 積極的な広報展開	<p>●庁内の広報ツールを活用した広報機能の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文化・観光部をはじめとする庁内の広報ツールを有効に活用するなど広報機能を強化する。(継続)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部HPや観光協会HP、文化政策課発行の冊子、チラシに美術館情報を掲載し、美術館の広報に努めた。(継続)</li> <li>・海外要人へのロダンバックや4ヶ国語のパンフレットを配布し、ロダン館のPRを実施した。(継続)</li> <li>・首都圏、大阪のふじのくに交流会で展示ブースを設置し、ポスターやチラシにより美術館の広報に努めた。(継続)</li> <li>・県職員採用希望者ガイダンスにおいて、県の文化政策における美術館の役割について説明した。(継続)</li> <li>・富士山の日関連行事において美術館の収蔵品展をPRするとともに、美術館所蔵の横山大観「群青富士」の画像を用いたしおりやウェットティッシュを配布し、美術館のPRを行った。(新規)</li> <li>・県ホームページに美術館所蔵の横山大観「群青富士」の画像を掲載し、自由にダウンロードして、年賀状等に印刷できるようにした。(新規)</li> </ul>	B

	<p>●来館促進のための方策の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観光施設や文化施設等と連携した広報により、美術館の来館者を増加させる方策を検討する。(新規)</li> <li>・観光局と連携し、県のツーリズムコーディネーターを活用して美術館を含めたツアーの企画化の実施に取り組む(新規)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SPAC と連携し、東京からの観劇バスが美術館に立ち寄るコラボツアーを実施し、15 名が美術館を訪れた。(新規)</li> <li>・「小谷元彦展」で SPAC と相互割引を実施した。(新規)</li> <li>・観光局やツーリズムコーディネーターと美術館の観光資源を検討し、旅行代理店が美術館を含むツアーを企画し、募集した(催行人数を満たさず未実施)。(新規)</li> <li>・遠方からの来館促進を図るため、新東名 PR イベント(牧ノ原 SA) で、専用ブースを設置し、美術館のチラシ等を配布した。(新規)</li> </ul>	B
	<p>●就航先との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・富士山静岡空港の就航先の美術館との展覧会内容を相互に PR するなどにより就航先美術館との連携を進める。(継続)</li> <li>・観光局と連携し、県のツーリズムコーディネーターを活用して空港就航先の地域に対して美術館を含めたツアーの企画化の実施に取り組む。(新規)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「草原の王朝 契丹」展の割引券を北海道や福岡など就航先美術館(6施設)へ配布した。(継続)</li> <li>・観光局と検討した結果、まずは対象を就航先に限定せずに旅行代理店へツアーの企画化を要望することとし、旅行代理店が美術館を含むツアーを企画し、募集した。(催行人数を満たさず未実施)。(新規)</li> <li>・仁川国際交流協力センターが主催した富士山静岡空港を利用した韓国の子どもたち(18名)の静岡県訪問ツアーを美術館で受入れた。(新規)</li> </ul>	C
	<p>●広報課との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・美術館の展覧会やイベント情報について、引き続き県庁記者クラブ等への情報提供を行うとともに、広報課の持つラジオ、県民だより等の広報媒体を有効に活用する。(継続)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「県民だより」、「こんにちは県庁」等にて企画展の広報を行った。(継続)</li> <li>・県内イオン全店舗にチラシ、県内ローソン全店舗にポスターを配架した。(継続)</li> </ul>	C
4 施設 の 改善	<p>●修繕改修の適切な実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・美術館と協議し必要箇所や緊急性を精査の上、計画的かつ効率的な修繕改修を実施する。(継続)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・節電対策としての照明を LED に更新した。(継続)。</li> <li>・ロダン館収蔵庫及び収蔵庫前室の空調機修繕工事等を実施した。(継続)</li> <li>・ロダン館屋根改修工事や駐車場点字ブロック改修工事等について 24 年度予算を確保した。(継続)</li> </ul>	C
	<p>●施設の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・施設利用者の快適性の向上のための方策を美術館とともに検討する。(継続)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サービス改善委員会に参画し、表示のわかりづらかった正面玄関のバス案内サインの改善や、女子トイレの重いドアの軽量化等を実施した。(継続)</li> <li>・教育普及事業の充実を図るため、公用車を普通ワゴンからレプリカの搬送に便利なワンボックスタイプに更新した。(新規)</li> </ul>	C

※ 達成度の説明 A：方針の達成に大いに寄与した。  
B：方針の達成に向けて前進があった。  
C：取組はしたが達成度が低かった。  
D：着手できていない。

**県庁の支援体制**  
**「平成 24 年度方針」 総括表**

	方針	実績	達成度
1 美術館と 県庁の 連絡 体制の 確保	<p>●通常業務における連携体制の継続</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・美術館の運営に対して適切に支援を行うため、美術館との打ち合わせ会や催事等に参画し、課題や情報を共有する。(継続)</li> <li>・美術館の広報チームへ参画し、県庁の持つ広報媒体などについて情報提供する。(継続)</li> <li>・文化庁の国庫補助「文化遺産を生かした観光振興・地域活性化事業」の採択を受け、美術館と連携し、効果的な事業の執行を行う。(新規)</li> </ul>		
2 庁内 ・ 地域 ・ 学校 教育と の 連携	<p>●県職員の美術館への理解促進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定例幹部職員会議等において、チラシや関連資料により管理職に対し、催事等のPRを行う。(継続)</li> <li>・庁内の職員向けに掲示板等で展覧会等の情報を告知する。(継続)</li> <li>・県職員に対し、美術館友の会への加入促進を図る。(新規)</li> </ul> <p>●文化関連事業及び県内文化団体との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「こどもたちの文化芸術鑑賞推進事業」の学校への情報伝達及び、未実施市町への事業説明を行い、各学校の積極的な参加について協力を依頼する。(継続)</li> <li>・静岡市内の美術館・博物館が連携した「キッズアートプロジェクトしずおか事業(国庫補助)」について広報等により支援する。(継続)</li> <li>・県立美術館周辺地域の活性化に向け、SPAC(県舞台芸術公園)や周辺観光施設などとの連携を進める。(新規)</li> </ul> <p>●教育分野との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校への学芸員の派遣や鑑賞教室等を行う「中学生の美術展覧会鑑賞推進事業」について広報等により支援する。(継続)</li> </ul>		
3 積極的 な 広報 展開	<p>●庁内の広報ツールを活用した広報機能の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文化・観光部HPや観光HP、各部局のイベント等を活用し、効果的な広報を実施する。(継続)</li> <li>・県庁記者クラブ等への情報提供や広報課の持つラジオ、県民だより等の広報媒体を有効的に活用する。(継続)</li> </ul> <p>●来館促進のための方策の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観光施設や文化施設等と連携した広報を実施する。(継続)</li> <li>・観光・空港振興局と連携し、県のツーリズムコーディネーターを活用し、美術館を含めたツアーの企画開発に参画する。(継続)</li> <li>・県立美術館や周辺施設を活用したツアーの商品化について、旅行会社と協議する。(新規)</li> <li>・地域外交課等と連携し、海外使節団等の視察受入先の一つとして調整する。(新規)</li> </ul> <p>●就航先との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・富士山静岡空港の就航先の美術館と引き続き連携を図る。(継続)</li> </ul>		
4 施設 の 改善	<p>●修繕改修の適切な実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ロダン館の屋根改修工事などの修繕改修を実施する。(継続)</li> <li>・文化政策課の技術職員により、定期的に施設整備のアドバイスを行う。(新規)</li> </ul> <p>●施設の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・サービス改善委員会に参画し、来館者の施設利用の快適性向上を図る。(継続)</li> <li>・外部アドバイザーによるカフェ運営改善の検討に参画する。(新規)</li> </ul>		

## I 平成 23 年度実績

### 1 美術館と県庁の連絡体制の確保

#### (1) 通常業務における連携体制の継続

##### ア 企画展覧会開会式典及び内覧会

企画展：5回（各一般公開初日の前日に実施）

展覧会の内容を直接的に把握するとともに、会場での友の会会員等美術館支援者と話すことにより、展覧会に対する鑑賞者の評価の把握に努めた。

##### イ 特別講演会

第3回目に文化・観光部長、文化政策課員が出席した。

##### ウ 美術館協議会（運営の円滑化のために館長の諮問機関として設置）

###### ①平成 23 年 7 月 21 日

平成 22 年度事業報告及び自己評価結果報告、平成 23 年度事業計画について

###### ②平成 24 年 1 月 25 日

平成 23 年度事業の経過報告及び平成 24 年度事業計画案について

いずれも文化政策課長、課員が出席。

##### エ 資料評価委員会

「静岡県美術館資料評価委員会要綱」に基づく専門評価員の算定に基づき、評価額を決定した。

会長：文化・観光部長 副会長：部長代理、

委員：美術館副館長、理事（文化担当）、文化学術局長、文化政策課長

##### オ ムセイオン静岡

美術館がメンバーとなっている「ムセイオン静岡」の会議（年 4 回）に文化政策課員が出席し、情報共有を図った。

##### カ 「部長と語る会」を開催（8 月 17 日）

美術館職員と部長が、直接話し合える機会を設け、美術館の観光資源としての新たな役割等について意見交換を行った。

##### キ 広報会議への参画

広報チームの月例の打ち合わせ会に参画し、予算や県庁の持つ広報媒体について情報提供した。

##### ク 国の補助金申請

美術館の行う「キッズアートプロジェクトしずおか事業」及び「中学生の美術展覧会鑑賞推進事業」に関し、文化庁の国庫補助「文化遺産を生かした観光振興・地域活性化事業」の対象として採択されるよう文化庁と調整を行った（平成 24 年度採択）。

### 2 庁内・地域・学校教育との連携

#### (1) 県職員への美術館への理解促進

- ・ 定例幹部職員会議や全庁掲示板を利用し、企画展や美術館の取組を紹介し、理解の促進を図った。
- ・ 鑑賞ツアーは、対象者が一部の者に限定されるため、幹部職員を対象とした美術館友の会への入会促進や全庁掲示板等に美術館企画展の告知を掲載することにより、より幅広く職員の来館を促進した。

#### (2) 文化関連事業及び県内文化団体との連携

- ・中学生が美術館の鑑賞等を行う「こどもたちの文化芸術鑑賞推進事業」について、未実施 13 市町のうち、参加が少ない伊豆・東部地域の中で、特に交通の便がよく、旅程に無理のない 5 市町の教育委員会を訪問し、各学校への周知や「参加に向けて取り組みたい」と前向きな回答を得るとともに、各市町の学校へ本事業を周知するとの協力を得た。

PR 対象：伊豆の国市、伊豆市、函南町、清水町、長泉町（5 市町）

- ・「ふじのくに芸術祭 2011」における「美術展・写真展」を美術館で開催した。また、新たに舞踊協会による公演や児童合唱団によるコンサート等の関連事業を美術館で開催した。

#### 【関連イベント】

静岡県現代舞踊協会新人公演  
音楽青葉会・静岡児童合唱団コンサート  
SPAC 県民劇団パフォーマンス  
ムセイオン講演・シンポジウム

### (3) 他分野（教育、福祉、医療等）との連携

- ・教育分野との連携を重点的に進めることとし、「ムセイオン静岡」の事業の一環として、新たに各施設が協働して「ふじのくに文化の丘フェスタ」を開催し、連携強化を図った。なお、平成 24 年度において「中学校の美術展覧会鑑賞推進事業」により、学校教育向けの事業を充実させることとした。

（継続）

（「ムセイオン静岡」とは、谷田地域周辺文化施設の相互の協力と施設・人材等を活用した地域貢献のための会議。参加団体は、県立大学、県立中央図書館、県埋蔵文化センター、SPAC、グランシップ、県立美術館。）

## 3 積極的な広報展開

### (1) 庁内観光ツールを活用した広報機能の強化

- ・リニューアルし、内容を整理した部ホームページのトップページに新着情報や注目情報として、美術館情報を掲載した。
- ・県観光協会のホームページのトップページに各企画展の情報を掲載した。
- ・文化政策課が新たに作成した“ふじのくに祝祭年間情報誌”「アトリエふじのくに」に美術館の記事を掲載した。
- ・新規事業の「ふじのくに子ども芸術大学」の募集案内に、美術館の子ども向けプログラムを同様の取組として掲載した。
- ・海外からの要人等にロダンバッグ及び国ごとに 4 ヶ国語のロダン館パンフレット（韓国語：韓国、中国繁体字：台湾、中国簡体字：中華人民共和国、英語：その他の国）を配布してロダン館の PR を実施した。
- ・首都圏や大阪のふじのくに交流会において、ポスター企画展のチラシを配布し、美術館の PR に努めた。
- ・県職員採用希望者のガイダンスにおいて美術館のチラシを配布するとともに、県文化政策における美術館の役割について説明した。
- ・富士山の日関連行事において、美術館の収蔵品展を PR するとともに、美術館所蔵の横山大観「群青富士」の画像を用いたしおりやウェットティッシュを配布することにより、美術館の PR を行った。
- ・県ホームページに美術館所蔵の横山大観「群青富士」の画像を掲載し、自由にダウンロードして、年賀状等に印刷できるようにした。

## (2) 来館者促進のための方策の検討

- ・ SPAC と連携し、観劇バスが県立美術館に立ち寄るコラボツアーを実施した。

発着地：東京

開催回数：3回

訪問者数：15名

- ・ 小谷元彦展で、SPAC と連携し、互いのチケットを提示することで観覧料の割引を実施した。
- ・ 観光局やツーリズムコーディネーターと美術館の観光資源としての魅力を検討し、旅行代理店が美術館を含むツアーを企画し、募集した（催行人数を満たさず未実施）。
- ・ 新東名開通に合わせ遠方からの来館促進を図るため、新東名 PR イベント（牧ノ原 SA）において、専用ブースを設置し、美術館のチラシ等を配布した。（新規）

## (3) 就航先との連携

- ・ 就航先の美術館に「草原の王朝 契丹展」の割引チラシとともに県立美術館のパンフレットを配布した。

対象施設：北海道立近代美術館、九州国立博物館、福岡県立美術館、鹿児島市立美術館、

鹿児島県霧島アートの森、沖縄県立博物館（6施設）

- ・ 観光局と検討した結果、まずは対象を就航先に限定せずに旅行代理店へツアーの企画化を要望することとし、旅行代理店が美術館を含むツアーを企画し、募集した。（催行人数を満たさず未実施）。
- ・ 韓国仁川国際交流協力センター主催の富士山静岡空港を使った韓国の子どもたちの静岡県訪問ツアーを美術館で受け入れた。

## (4) 広報課との連携

- ・ 県庁記者クラブへの情報提供を行うとともに、「K-MIX しずおかデイリーメッセージ」（FM 放送）、「SBS ラジオこんにちはは県庁です」（AM 放送）、「遠鉄 情報掲示板」（遠鉄電車・バス）など、広報課の持つラジオ、県民だより等の媒体を活用した広報を定期的に行った。
- ・ 県内イオン全店舗（7店舗）にチラシ、県内ローソン全店舗（約180店）にポスターの配架を行った。
- ・ 「都道府県展望」10月号にて、県立美術館の特集記事を掲載し、全国に静岡県立美術館を広報した。

## 4 施設の改善

### (1) 修繕改修の適切な実施

- ・ 節電対策としてのロダン館の廊下部分の白熱球を LED 照明へ更新するなど必要な修繕を実施した。
- ・ ロダン館収蔵庫及び収蔵庫前室の空調機空気熱源修繕工事や消防設備の弁の改修工事などを実施した。
- ・ ロダン館の屋根改修工事や駐車場点字ブロック改修工事、高架水槽更新工事、駐車場改修工事の実施について平成24年度予算を確保した。

### (2) 施設改善

- ・ サービス改善委員会に参画し、汚れて表示のわかりづらかった正面玄関のバスの案内サインの清掃や、女子トイレの重いドアの軽量化等を実施した。
- ・ 教育普及事業の充実を図るため、公用車を普通ワゴンからレプリカの搬送に便利なワンボックスタイプへ更新した。

## II 平成 24 年度方針

### 1 美術館と県庁の連絡体制の確保

#### (1) 通常業務における連携体制の継続

- ・美術館の運営について適切に支援を行うため、引き続き企画展の開会式等に参画し、美術館の課題や情報を共有する。
- ・美術館の広報チームへ参画し、県庁の持つ広報媒体などの情報を提供する。
- ・文化庁の国庫補助「文化遺産を生かした観光振興・地域活性化事業」の採択を受けた美術館の事業に対し、美術館と連携し、効果的な事業の執行を行う。

### 2 庁内・地域・学校教育との連携

#### (1) 県職員の美術館への理解促進

- ・定例幹部職員会議等において、チラシや関連資料を配布し、管理職に対し、催事等の PR を行い理解を促進する。
- ・庁内の職員向けに掲示板等で展覧会等の情報を告知し、美術館の認知度を向上させる。
- ・県職員に対し、美術館友の会への加入促進を図る。

#### (2) 文化関連事業及び県内文化団体との連携

- ・中学生が美術館の鑑賞等を行う「こどもたちの文化芸術鑑賞推進事業」において、各学校への情報伝達の徹底を図るとともに、未実施市町の教育委員会に対し事業説明を行い、各学校への積極的な参加について協力を依頼する。
- ・静岡市内の美術館・博物館が連携し、小学生向けのパスポート制作やワークショップ等を行う「キッズアートプロジェクトしずおか」について広報等により活動を支援する。
- ・県立美術館周辺地域の活性化に向け、SPAC（県舞台芸術公園）や周辺観光施設などとの連携を進める。

#### (3) 教育分野との連携

- ・中学校への学芸員の派遣や鑑賞教室等の活動を行う「中学生の美術展覧会鑑賞推進事業（国庫補助）」について広報等により支援する。

### 3 積極的な広報戦略

#### (1) 庁内広報ツールを活用した広報機能の強化

- ・文化・観光部 HP や県観光協会 HP、各部局のイベント等を活用し、効果的な広報を実施する。
- ・美術館の展覧会やイベント情報について、県庁記者クラブ等へ情報提供を行うとともに、広報課の持つラジオ番組や県民だより、イオン・コンビニ店舗へのチラシやポスターの配架等の広報媒体を有効に活用する。

#### (2) 来館促進のための方策の検討

- ・観光施設や文化施設等と連携した広報により、美術館の来館者を増加させる方策を検討する。
- ・観光・空港振興局と連携し、県のツーリズムコーディネーターを活用して美術館を含めたツアーの企画開発に参画する。
- ・県立美術館や周辺施設を活用したツアーの商品化について、旅行会社と協議する。
- ・地域外交課等と連携し、海外使節団等の視察受入を調整する。

### **(3) 就航先との連携**

- ・富士山静岡空港の路線就航先美術館の展覧会内容を相互にPRするなど、就航先美術館との連携を進める。

## **4 施設の改善**

### **(1) 修繕改修の適切な実施**

- ・ロダン館の屋根改修工事や屋外点字ブロック改修工事などの修繕改修を実施する。
- ・文化政策課の技術職員が、定期的に美術館へ出張し、設備の修繕など、美術館の施設整備に関するアドバイスをを行う。

### **(2) 施設の改善**

- ・サービス改善委員会に参画し、施設利用者の快適性の向上のための方策を美術館とともに検討する。
- ・外部アドバイザーによるカフェ運営改善の検討に参画し、施設機能の充実を図る。

内容に関する問合せ先

静岡県文化・観光部文化政策課

〒420-8601 静岡県静岡市葵区追手町 9 番 6 号

TEL 054-221-3506

静岡県立美術館総務課

〒422-8002 静岡県静岡市駿河区谷田 53 番 2 号

TEL 054-263-5755